教　育　研　究　業　績　書

２０１８年５月１日
氏名　落合　俊文

著書･学術論文などの名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概　　要
（論文･紀要等）				
早期英語教育に関する一考察 ー幼児期における第二言語（外国語）習得に　　ついてー	単著	2013年2月	洗足論叢 第41号 （9ページ）	幼児教育の現場および保護者の早期英語教育に対する意識や主に三つの学習要因（①学習開始年齢、②外国語学習適性、③動機づけ）に関する先行研究などを調べることにより、幼児期における早期英語教育についての考察を行ったもの。（pp. 105-113）

教　育　研　究　業　績　書

２０１８年５月１日
氏名　坪井　葉子

著書･学術論文などの名称	単　著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概　　要
(紀要論文)				
教育実習の実態調査～実習における実習生の生活実態と課題～	共著	2007年3月	洗足論叢 第35号 (9ページ)	学力･コミュニケーション力･ストレス耐性が低下していると言われている学生にとって、幼稚園教育実習はどのような経験になっているのかを調査･検討した。実習への取り組みは概ね良好だが、睡眠時間5時間以下の学生が半数を占め、改善への対策が必要とわかった。半数近くの学生が日誌作成に4時間以上を要しており、事前指導並びに練習の必要性が浮かびあがった。また指導者とのコミュニケーション、見倣う姿勢の育成も課題であることがわかった。（共同研究により抽出不可：主に、はじめに、調査の方法、考察、おわりに　を担当）
実習における保育カリキュラムの実態	単著	2007年3月	洗足論叢 第35号 (8ページ)	保護者のニーズの多様化とともに幼稚園･保育所におけるカリキュラムも多様になっている。保育者養成校での実習を通し、保育現場のカリキュラムの実態を調査し、保育者養成の視点で課題を検討した。幼保のちがいよりも、幼稚園･保育所個々の違いが際立ち、体育活動やリトミックでの外部講師の活動も多い傾向が見られた。子ども主体の遊び中心の保育よりも課題活動中心の保育が多い傾向も見られ、課題活動についての学びと子ども主体の活動についての学びを共に深めていくことが課題として浮かびあがった。（pp. 127～134）
実習における幼児教育保育科学生の学びの過程　―実習記録の検証から―	単著	2008年1月	洗足論叢　第36号 （10ページ）	幼稚園･保育所の実習において、学生は何を学んでいるのか。3実習、各10 日間の実習日誌の記述について、子どもの行動と保育の経過、保育者の援助、実習生の援助、考察の4項目の記述頻度、記述内容の傾向、指導助言記述内容から個々の学びの過程を分析･検討した。子ども理解や保育のねらいと計画的な援助についての理解を深めるためには、実習期間中の適切な助言が重要であることがわかった。(pp. 201～210)
教育実習の実態調査～2年次実習における課題～	共著	2008年1月	洗足論叢 第36号 （10ページ）	２００７．３発行の紀要論文『教育実習の実態調査～実習における実習生の生活実態と課題～』に引き続き、2年次実習の実態を調査･検討した。1年次実習と比較し、日誌記述時間の短縮、指導実習経験が増加していた。指導実習経験からの学びを肯定的に受け止める傾向が見られた一方、保育全般について自分の保育感と実習園の保育方針との違いに気づき悩む実態も明らかになった。多様な保育方針、保育方法に対応できるような動機付けや事前準備が必要であり、事後指導での個々に対するフォローアップの重要性が課題だとわかった。 （共同研究により抽出不可：主に調査結果について担当）

教育実習における自己評価 ―実習指導の課題を探る―	共著	2009年1月	洗足論叢 第37号 （18ページ）	「実習に向かう態度」「子どもとのかかわり」「職員とのかかわり」「保育理解」「日誌・準備学習」の観点から、教育実習前後の自己評価点を比較し、実習体験の効果を検討した。実習体験を通して、項目すべてで自己評価得点が増加しており、「実践に裏付けられた保育者としての自己肯定感」が育っていることがわかった。子どもとの関わりが実感として楽しかった一方で「子ども理解」「子どもへの配慮や援助」の難しさを自覚している実態がわかった。「子どもの成長を支える喜び」を自覚するまでには至らなかった点が今後の課題となる。 （共同研究につき抽出不可：実態調査（自由記述）の概要と結果、考察を担当）
「実習日誌作成の意義と学びの実態」	単著	2009年1月	洗足論叢　第37号 （9ページ）	教育実習（幼稚園）の日誌記述内容について幼児理解と保育の意図（ねらい）理解の観点から分析・検討した。子どもの行動の意味（心の動き）と保育の意図（見方・考え方を育てる視点）について検討された内容が半数程度ある一方で、子どもの「見方・考え方を育てる保育の意図」の検討が弱いものや「幼児集団を動かす」教師主導の観点からのみ保育を振り返っている内容も見られた。 「子どもの育ちを支える視点」の獲得が課題となる検討結果を受け、「熱中しているところ」「けんか」「落ち込んでいるいきさつや背景」に着目するなど、具体的な着目点を提示し幼児理解を深められるような基礎知識の獲得と指導助言が必要との結果となった。（pp.271-279）
教育実習の課題―実態と自己評価から課題を探る―	共著	2010年1月	洗足論叢 第38号 （22ページ）	平成17年度から継続して行った教育実習の実態調査から、教育実習の課題を検討した。学生の実習に望む態度の変化として、準備不足や自己分析能力の低下の可能性が明らかになった。「子ども理解」のための基礎知識、「基礎知識と子どもの実態を比較検討する柔軟性」、「問題解決能力」の弱さと共に、ストレスなど心の問題も示唆された。 （共同研究につき抽出不可：実態調査の分析について執筆）

(学会発表)				
実習日誌の分析～実習生は何を学んでいるのか～	単著	2008年5月	日本保育学会 第61回大会発表	実習日誌の内容を教育実習と保育所実習をそれぞれ2回、合計4回の実習について7人の学生の変化を分析検討した。「子ども理解」「保育の意図の理解」を理解するためには、実習機関からのご助言の効果が大きいことがわかった。
「実習日誌の分析(2)～保育方法による学びの違いについて～」	単著	2009年5月	日本保育学会 第62回大会発表	1年次教育実習の日誌記述の分析。幼稚園の方針や保育方法の多様性と実習生の学び（子ども理解や保育理解）との関連はみられなかった。幼稚園の方針によって学べる事柄が異なるという学生自身の受け止め方が問題となっている。学生自身のコミュニケーション力に課題がある。
幼稚園教育実習の実態調査と実習指導の課題	共著	2009年5月	日本保育学会 第62回大会発表	3年間の実習指導の実態調査結果について報告した。客観的に自己を分析する力が弱まり、部分的ながんばりを捉えて自己評価が高くなったり、不安が大きくなったりする傾向へと変化している。
保育における「ねらい」の実態を探る ～実習日誌の記述から～	単著	2011年5月	日本保育学会 第64回大会発表	短大2年次学生の教育実習、保育所実習の日誌における「保育のねらい」の関する分析。 保育のねらいはおよそ半数が「表現や運動技術の習得」として示されており、また「遊びを総合的に指導する」ことを反映する複数のねらいを示したものは1/4の割合であった。「望ましい心情・意欲・態度」の視点の構築、「複数の視点で保育活動のねらいを捉える」取り組みが必要である。
(学会等および社会における主な活動)				
川崎市子ども・子育て会議　委員		2015年4月～	川崎市	計画推進部会、教育・保育推進部会
福祉サービス第三者評価推進委員会 委員		2015年4月～	川崎市	福祉サービス機関の第三者評価受診 推進にあたっての助言
保育士処遇改善キャリアアップ研修 講師		2017年12月	川崎市	「幼児教育の意義」を担当
洗足学園大学付属幼稚園 研修会講師		2017年8月	洗足学園大学 附属幼稚園	幼稚園教育要領改訂の理解 「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」の理解について
川崎市児童福祉審議会委員		2014年4月～ 2017年4月～	川崎市	川崎市児童福祉審議会第2部会部会長 川崎市児童福祉審議会副委員長
川崎市認可外保育事業再構築 検討委員会		2012年5月 ～2012年12月	川崎市	川崎市認可外保育事業再構築検討委員会 に委員長として出席

講演会講師 （洗足学園大学附属幼稚園保護者会講演会）		2011年4月25日	洗足学園大学 附属幼稚園	「子どもの遊びや気になる行動の理解と その対応～東日本大震災の影響をふまえて～」
講演会講師 （平成２８年度第２回麻生区幼保小連携事業実務担当者会議 講師）		2016年10月24日	川崎市麻生区役所 保健福祉センター	「幼小接続期の発達課題とその支援」
川崎市保育所整備推進室 民間活用推進委員会		2011年2月21日 2016年8月 2017年3月 2018年3月	川崎市	川崎市保育所整備推進室民間活用推進委員会に選考委員として出席
川崎市保育所整備推進室 民間活用推進委員会		2011年7月25日 2011年8月22日	川崎市	川崎市保育所整備推進室民間活用推進委員会に選考委員として出席
講演会講師 （川崎市立末長小学校PTA研修会）		2011年11月22日	川崎市立末長小学校 PTA	『災害に備える～不安との向き合い方～』

教　育　研　究　業　績　書

２０１８年５月１日
氏名　神蔵　幸子

著書・学術論文などの名称	単 著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概　　要
(著書)				
子どもの元気を育む保育内容研究	共著	2009年4月	不昧堂出版（176ページ）	Ｖ章「子どもの基本的生活習慣の形成」睡眠、食事、排泄、清潔、衣服の着脱について、乳幼児期の発達段階とその指導法について解説した。(pp.95～105)金元あゆみと共同執筆により、担当部分抽出不可。池田裕恵、高野陽編著、安藤正樹、青野光子、井狩芳子、金元あゆみ、神蔵幸子、佐藤雅子、日比暁美、本間久美子、松本典子
最新保育原理	共著	2012年4月	保育出版社（188ページ）	(第13章2節)「保育者の専門性とは」1専門性とはなにか、2学生として専門性を学ぶ－1)学生として専門性を学ぶ2)具体的に保育を構想する力をつける3)総合的な指導力を持つ4)日常生活を保育に結びつけて考える　について記述した(pp.146～148)。島田ミチコ監修、上中修編著、武田京子、森下順子、神蔵幸子。外27名。
保育・教職実践演習	共著（編著）	2013年3月	建帛社（120ページ）	幼稚園教諭免許、保育士資格取得の必修科目として新設された「教職実践演習」「保育実践演習」のテキストとして編集。理論と実践の有機的な統合を図っていく学びが可能となるように、「理論編」「方法・技法編」「実践・演習編」の3部構成。小原敏郎、神蔵幸子、義永睦子編著、榎田二三子、岸井慶子、永倉みゆき、西村美紀、宮川萬寿美、矢萩恭子。 第3章「保育の場における保育実践力Ⅰ－保育の原理(pp21～30)、 第8章「保育実践を育む方法と内容Ⅲ－ロールプレイング・心理劇」(pp.69～78)。
保育内容総論	共編（編著）	2014年3月	青踏社（138ページ）	保育者養成校演習テキストとして、保育内容を総合的に編集した。1保育の基本と保育内容、2保育の歴史的変遷、3環境を通して行う教育、4子どもの生活と保育、5子どもの発達と保育、6遊びによる総合的保育の展開。神蔵幸子、宮川萬寿美編著、佐野真弓、曽野麻紀、金澤久美子。 1章保育の基本と保育内容(pp.7～16)。
保育内容人間関係	共著（編著）	2014年3月	大学図書出版（92ページ）	幼稚園教諭、保育士を目指す学生のための保育内容「人間関係」の授業テキストとして編集した。乳児期から幼児期にかけての子どもの生活の事例を多く取り入れ、教育要領、保育指針の内容の理解に役立つように解説した。全5章。神蔵幸子、桃枝智子編著、宮川萬寿美、菊地篤子、井上知香、川辺尚子、高橋洋行。1章幼稚園教育要領・保育所保育指針における「人間関係」(pp.7～17)。

保育原理	共著 （編著）	2015年4月	青踏社 （140ページ）	幼稚園教諭・保育士を志す学生のために養成校で学ぶ全体の学習の入門書の役割を果たすように編集した。「保育原理」の授業で活用できるよう各章のはじめに「学習のねらい」を明示し、解説の後には適宜演習を取り入れた。全10章。神蔵幸子、宮川萬寿美編著、桃枝智子、曽野麻紀、井上知香、並木真理子、金允貞。1章保育を学ぶということ(pp.9～16),6章幼稚園。保育所、認定こども園の制度と機能(pp.64～74)9章子どもの発達と保育(pp.100～104)13章子育て・家庭支援(pp.155～157)。
保育の心理学	共著 （編著）	2015年4月	青踏社 （144ページ）	教育心理学、発達心理学、臨床心理学、認知心理学、社会心理学などを、総合的にとらえた学びとなるように編集した。Ⅰ基礎編では、子どもの成長を支える発達の基礎や道筋を、Ⅱ実践編では、発達的な視点からの様々な事例を取り上げ解説した。宮川萬寿美、神蔵幸子編著、宇佐美かおる、金澤久美子、片山伸子、小倉直子。2章子どもの発達と保育実践(pp.117～128)。
保育原理（第二版）	共著 （編著）	2016年4月	青踏社 （104ページ）	初版「保育原理」に次の２章を増補した。①「子ども観・保育観」として、西欧および日本における保育思想の概説、②「海外の保育事情」としてフィンランドの保育と韓国の保育についての記述を独立させ保育についての視野を広げることについて解説した。また、「子育て・家庭支援」の章では、2015年より実施となった子ども・子育て新制度についての解説を加えた。
保育原理（第三版）	共著 （編著）	2017年4月	青踏社 （112ページ）	第二版を15章の構成に改め「保育の理念を支える法規」、「子どもの発達と保育」の内容を加筆した。より生活事例に密着し理解を深めることができるよう、各章の内容を補うコラムを挿入した。
改訂保育内容人間関係	共著 （編著）	2018年3月	大学図書出版 （70ページ）	幼稚園教諭、保育士を目指す学生のための保育内容「人間関係」の授業テキストとして編集。乳児期から幼児期にかけての子どもの生活の事例を厳選し、教育要領、保育指針の内容と対応させ解説した。全5章。神蔵幸子、桃枝智子編著、中川秋美、菊地篤子、井上知香、川辺尚子、高橋洋行。1章幼稚園教育要領・保育所保育指針における「人間関係」(pp.7～17)。
保育を支える生活の基礎	共著 （編著）	2018年3月	萌文書林 （128ページ）	保育者の生活知識、技術が具体的な保育の基盤となることを踏まえて、その考え方と、保育現場の1年間の生活及び、生活力、社会生活力、学ぶ力などの章に分類し編集。神蔵幸子、中川秋美、並木真理子、曽野麻紀、他。第1章「生活基礎の視点」(pp.7～13)。

（学術論文）				
就学前教育と小学校の連携の課題	単著	2010年1月	洗足論叢 第38号 （12ページ）	幼稚園・保育所等と小学校の連携について、幼稚園教育要領、保育所保育指針における記述から、小学校との連携の方向性を考察した。また、神奈川県H町で実施した、保育者、小学校教諭へのアンケート調査から①保育者と小学校教諭間の児童の評価の観点の違い②幼児期に大切とされる経験と小学校入学後に子どもに求められるものの違い③ねらいとかかわりに関する差異④交流事業の困難性、他、が課題として明らかになった。また、子ども同士の交流事業とともに、保育者と小学校教諭間の相互理解を深める場を設けること、その運営に工夫が必要であること、がとらえられた。（pp.109～120）
心理劇による教職実践力育成プログラムの開発にむけてI－試案の効果の測定－	共著	2010年3月	関係学研究 第37巻第1号 （12ページ）	教職実践力育成における心理劇の導入について、関係学に基づき試案プログラムを作成、実践し、その効果を測定した。参加者の「保育行為自己評価」や「役割充足感」「職業意識」を測定した結果、学生の関係具現化、関係責任、関係連帯の向上に有効であることが検証された。共同研究により抽出不可
心理劇による教職実践力育成プログラムの開発にむけてⅡ－理論的枠組み学習としてのアクションガイドの活用－	共著	2010年3月	関係学研究 第37巻第1号 （11ページ）	Ⅰの連続研究として、心理劇を活用した理論的枠組み学習を行う「アクションガイド」の効果を質的研究により検証した。実施直後の「感想・気づき」の自由記述を素材としてKJ法により15のカテゴリーの出現頻度から、効果及び課題を検討した。アクションガイドで取り上げる内容の違いにより、強調される効果が異なることが明らかになった。義永睦子・小原敏郎・神蔵幸子。（pp.17～26）。共同研究により抽出不可。
保育学生の幼児･学童期における遊び体験に関する調査研究	共著	2011年3月	洗足論叢 第39号 （10ページ）	保育学生を対象に、幼児・児童期の遊び体験を質問紙法により調査し、実態を把握するとともに、文化や運動遊びの伝承者、指導者となるものへの指導の観点を探った。学生の経験率の高い鬼遊びなどのいっそうの工夫、伝承遊びの再体験の必要、遊びの選択における男女差をなくすことなどができるようにすることを提言した。神蔵幸子・長島万里子・岡本かおり。（pp.23～32）。共同研究により抽出不可
学生の教職実践力育成をめざす授業実践 ―保育への明確な役割意識の違いに着目して	共著	2011年12月	心理劇 第16巻第1号 （11ページ）	関係学を基盤とした学生の教職実践力を育成する心理劇プログラムを実施した。参加学生の保育への明確な役割意識の違いによって心理劇プログラムの効果がどのように異なるかを分析した。自由記述の分析から、保育への役割意識の高い群は、心理劇から得られた体験や気づきを自己の枠組みに再構成し意識化しているのではないかと考察された。小原敏郎・義永睦子・神蔵幸子。（pp.57～67）。共同研究により抽出不可。

幼児の体力向上に関する基礎的研究 ―S幼稚園児の足蹠測定と生活アンケート結果の関連	共著	2012年3月	洗足論叢 第40号 (8ページ)	幼児の体力向上に資する保育内容の提言に向けての基礎資料を得るために、川崎市のS幼稚園児を対象に足蹠測定と保護者への生活アンケートを実施した。①土踏まずの形成は年齢が上がるごとに進んでいる、②生活習慣では良い睡眠習慣が形成されていること等が認められたが、多くの生活習慣と土踏まずの形成の関連には顕著な相関は見出せなかった。一方、子どもの運動量の認識に保護者と担任教師間に差がみられたことなど、今後の研究への視点を得ることができた。神蔵幸子・石濱加奈子・長島万里子。(pp.163～170)。共同研究により抽出不可。
学生の保育教材研究能力の育成 －保育内容・健康におけるお手玉を題材とした授業実践	共著	2013年2月	洗足論叢 第41号 (11ページ)	保育教材研究能力を身に付けることのできる授業展開について考察することを目的に、幼稚園・保育所の子どもの遊びを想定してお手玉を手作りし実際遊ぶことを通した教材研究の演習を行った。質問紙調査により、その授業効果を測定した結果、演習形式の授業で保育教材を実践的に学ぶ機会を取り入れることによって、保育学生が子どもの発達や保育目標に沿った保育教材を手作りしたり、選択したりする能力、そして遊びを創造する能力が高まることが示唆された。長島万里子・岡本かおり・神蔵幸子(pp.79～89)。共同研究により抽出不可。
日本の伝統音楽の保育内容への導入と展開	共著	2014年3月	洗足論叢 第42号 (10ページ)	日本の伝統文化、特に伝統音楽を保育内容に導入・展開することについて、その方法と課題を検討した。幼児期の教育においては音楽的体験が、「音楽教育」としてではなく、身体的、言語的な要素を含みながら総合的に経験されるものであることを認識しつつ、本研究においては「わらべうた」に着目し、S幼稚園における5歳児との実践を行いながら導入計画を提案した。 神蔵幸子、長谷川真由(pp.187～196)共同研究により抽出不可。
幼児の運動能力向上を促す保育活動の提案: S幼稚園児の足蹠・運動能力・生活習慣の関連性から	共著	2014年9月	運動・健康教育研究 第23巻第1号 (8 ページ)	神奈川県S幼稚園年長児の足蹠、運動能力測定と保護者記述による生活の様子アンケート結果の関連を調査した。運動能力については、男女とも土踏まずが形成されている子どもの方が、形成されていない子どもよりすぐれていること、また、日常の運動量や経験が影響していることが明らかとなった。しかし、土踏まずの有無と生活アンケートとの間には有意な関連は見出せなかった。これらをもとに、S幼稚園の環境を考慮し、隣接する大学の校地を活用した保育活動等の提案を行った。長島万里子、石濱加奈子、神蔵幸子(pp.13～20)。
保育現場における伝統的な音楽の実践と小学校音楽科カリキュラムとの関連性について	共著	2015年3月	小田原短期大学 研究紀要 第45号 (13ページ)	神奈川県で採択されている小学校音楽科の教科書収録曲目の中に占める日本の伝統的な音楽の実態を調査し、保育現場ではそれらの曲がどのような活動で用いられているかを調査した。結果を、1.わらべ歌・子守歌 2.伝統的な音楽に触れる機会　3.活動の取り組みとして　4.子どもの育ちとの関わり　5.地域との交流　6.小学校を見据えての各観点から考察した。東元りか、神蔵幸子(pp.10～22)。共同研究により抽出不可。

幼児期の発達調査に関する提言ーS幼稚園児の土踏まず測定と生活アンケート結果をもとに	共著	2016年3月	洗足論叢 第44号 （10ページ）	3年間縦断的に集積したS幼稚園における園児の土踏まずの形成状況と保護者へ向けた生活に関するアンケート結果との関連を報告し、発達を促すと考えられる生活習慣、運動習慣を検討することを目的とした。また、この結果より得られたhhあった津調査研究の限界と課題を明確にし、現在広く行われている発達調査に対する課題に言及し、今後の発達調査を的確におこなうための一助とすべく提言をおこなった。石濱加奈子、長島万里子、神蔵幸子。共同研究により抽出不可。
（学会発表）				
幼・保・小の連携に関する考察 ーテーマトークによる相互理解ー	共著	2009年5月	日本保育学会 第62回大会	幼稚園、保育所、小学校の連携の第一歩として試みた職員間の話し合いについて、その経過と課題を報告した。事前にアンケートを実施し、その結果を共通のテーマとして話を進めたことが、それぞれの専門性に立脚した感じ方を理解するのに役立ったととらえられた。宮川萬寿美・神蔵幸子。P.339
幼児における人間関係展開場面の考察ー言葉に出さない力についてー	単著	2009年10月	日本人間関係学会 第15回大会	幼児の人間観関係力が育つとはどのようなことかについて、保育所での参加観察及び保育士との話し合いを通して探った結果、保育者は幼児が他者を気遣い自己を抑制することができた場面に成長を強く実感していた。年長児クラスで見られた3事例を取り上げ考察した。(pp. 40～41)
テーマトークによる幼保小の相互理解（1） ー保育者がとらえた子どもの入学後の様子を手がかりに	共著	2010年5月	日本保育学会 第63回大会	保幼小連携事業の一環として保育者が小学校の授業を参観し、卒園児の小学校入学後の成長について話し合った内容から、今後の連携のあり方を考察した。小学校入学は子どもにとって大きな節目となり、基本的生活習慣や態度が整うことが見出された。一方、小学校の授業のねらいは、学習内容の到達にあることを改めて理解した。連携においては、保育者・教師間が本音を出し合うことが大切であるととらえられた。神蔵幸子・宮川萬寿美。(p.603)
テーマトークによる幼保小の相互理解（2） ー内容の連携について　5歳児担任と「読む」「書く」に関して考えるー	共著	2010年5月	日本保育学会 第63回大会	(1)の話し合いの前に保育者に行ったアンケートによれば、小学校入学後の授業への適応を視野に入れて行う、文字環境への工夫についての関心が高かった。保育環境として子どもに無理なく興味関心を持たせるための活動として、月刊誌をみんなで読む、行事の招待状を書く、などの取り組みがあったことを報告した。宮川萬寿美・神蔵幸子。(p.604)
多様な視点を育てる授業の工夫 ーグループディスカッションの効果的進め方ー	共著	2010年9月	全国保育士養成協議会 第49回研究大会	学生が自らの考えを成立させながら同時に多様な見方、考え方があることに気づき、それらを受け入れながら自分としての新たな考えを構築していく態度を養うことをねらいとして行われたグループディスカッションの進め方と工夫について報告した。神蔵幸子・宮川萬寿美。pp. 88～89
保育実践力の向上をめざす授業実践 ー心理劇・ロールプレイングの活用ー	共著	2010年9月	全国保育士養成協議会 第49回研究大会	心理劇・ロールプレイングの授業への導入にあたり、体験を再現したり、How to 的に課題解決を考えるレベルにとどまらないあり方について、ウオーミングアップ、劇化、共有・終結の各位相における配慮と工夫について整理した。義永睦子・神蔵幸子・小原敏郎。pp. 264～265

幼児の人間関係力 －人との関わりの実践知を探る－	共著	2010年1月	日本人間関係学会 第16回大会	幼児の「人と関わる力」に意味があるととらえられたエピソードの中から①「人とのつながり方」のきっかけを見つけ応用する。②「同じ」の中にあらわされる親しさ③物や役割を介して状況の転換のきっかけを作る、について各２事例をもとに考察した。神蔵幸子・宮川萬寿美。pp. 8～9
保育学生の幼児・児童期の遊び体験から（1） ―自由記述アンケートの分析・保育者としての遊び理解にむけて	共著	2011年5月	日本保育学会 第64回大会	保育者をめざす学生自身の遊び体験アンケート結果から、遊びの傾向を集計、ディスカッションへと授業展開した。①幼児期；少人数でイメージを共有②幼児後期；園生活での遊び③学童期；多人数でルールがある遊びなどの傾向が捉えられた。学生は幼児期の記憶は曖昧であるが、「何となく楽しかった」ことの大切さなど「幼児期の遊び」について考える手がかりを得ていった。神蔵幸子・宮川萬寿美。P.756
保育学生の幼児・児童期の遊び体験から（2） ―お気に入りの遊びのプロフィール	共著	2011年5月	日本保育学会 第64回大会	保育学生の幼児・児童期の遊び体験に関するアンケート調査のうち、「お気に入りの遊び」についての自由記述部分を取り上げ考察した。学生たちは、身体運動を伴う遊び、模倣を通じての役割取得や役割構造、友達とイメージを共有しての遊び、ルールを伴う遊びなど、発達過程に応じて、まんべんなく様々な遊びを体験していたことが分かった。また、アンケートを書き、「気に入った」理由を意識化することで「遊ぶこと自体の大切さ」を実感し、遊び理解への一助となったことが推察された。宮川萬寿美・神蔵幸子。P.757
多様な視点を育てる授業の工夫（2） グループワークの構造化と役割付与の効果	共著	2011年9月	全国保育士養成協議会 第50回研究大会	多様な視点を育てる授業の工夫（1）の連続研究として、特に役割叙述法（自分がもし**ならばという仮説のもとに叙述を進めるにあたり、他の役割との関連で自分の役割の叙述を行う）技法を応用した。また、進め方として、話し合いのみではなく、作業を挿入したり、途中で全体化するなどを試み、一定の成果をみることができた。宮川萬寿美・神蔵幸子　pp. 336～337
「幼児の人間関係」をとらえる保育学生の視点 ―教育実習の体験から	共著	2011年11月	日本人間関係学会 第19回大会	教育実習体験を素材とした授業展開から学生が捉える人間関係の視点について整理した。実習生は自分と子どもとの直接的経験に注目し考察するものが多かった。子ども同士の関係については、遊び場面での「一緒に」「貸し借り」「協力して」などに視点を置くものが多かった。また、トラブル場面に注目する事例が多く見られた。個と集団の関係やトラブル以外への注目についての授業展開の必要が示唆された。宮川萬寿美、神蔵幸子　pp. 18～19
子どもの身体能力を高める遊びの提案 ―S幼稚園における保育条件と生活アンケートより	共著	2012年2月	日本幼少児健康教育学会 第30回大会	神奈川県S幼稚園をフィールドとして生活アンケート及び運動能力の基礎調査を行い、その結果をもとに幼児の身体能力向上に資する保育内容の提案を行った。保護者に行ったアンケート結果では、自分の子どもの運動量が多いと認識している割合が多かったが、運動能力テスト結果は必ずしも高くはなかった。園の保育は自由遊びを基本としているが、全身運動を伴う遊びに十分な広さが確保されていない園庭の条件を踏まえ、ホールその他の場所の使い方の工夫や球技等の簡単な遊びの導入を提案した。長島万里子・石濱加奈子・神蔵幸子

からだの発達に必要な運動遊びと生活スタイルについて—S幼稚園児における土踏まずの有無と体力テストの関連から	共著	2012年3月	日本発育発達学会 第10回大会	神奈川県S幼稚園に在籍する年長児を対象に、体力テスト（25m走、立ち幅跳び、テニスボール投げ、後方両手両足走、両足連続跳び越し）と土踏まず測定を実施し、その結果をもとに効果的にからだの発育を促す運動遊びを提案した。体力テストのいずれの項目に関しても土踏まずありの群の方が良い傾向が示され、全身の巧みな動きを伴う運動遊びと日常の歩行量を確保することが必要であると考えられた。石濱加奈子・長島万里子・神蔵幸子
保育学生の伝承遊び体験① —伝承遊びの有無とお手玉体験—	共著	2012年5月	日本保育学会 第65回大会	伝承遊びが子どもの成長や発達に有効であるとの見地から近年、様々な伝承遊びを保育教材として導入している保育所、幼稚園があるが,保育者自身の伝承遊びに対する知識不足も指摘されているので、本研究においては「お手玉」を取り上げ、製作及び遊びを体験する授業を展開した。子どもの時代の経験者は少なかったが、体験することによって「お手玉」に対するイメージが変化し興味を持っていった。子ども時代の経験値のみでなく、養成校での遊び体験の必要性が捉えられた。岡本かおり、神蔵幸子、長島万里子 pp. 325
保育学生の伝承遊び体験② —お手玉授業の効果—	共著	2012年5月	日本保育学会 第65回大会	伝承遊びは文化の継承とともに、子どもの発達を総合的に促進する様々な要素が含まれているが、地域社会の中での伝承が困難な状況にあり、幼稚園や保育所で保育者が伝えていくことの意味が大きくなっていると考えられる。本研究では「お手玉」をとりあげた保育内容・健康の授業を振り返り、学生へのアンケート結果を分析し、その効果を検証した。学生は3回の授業を通し、お手玉に対するに高感度や親しみやすさを向上させていった。実際に遊びを体験し、また、遊びに関わる道具を手作りしたりすることを積極的に取り入れた授業を行うことが、学生の伝承遊びへの関心を高め、理解を深めることに効果的であることが示唆された。長島万里子、神蔵幸子、岡本かおり（p.326）
保育観形成への手がかり —学生の捉える好ましい子どもの姿—	共著	2012年5月	日本保育学会 第65回大会	保育者を志す学生自身が潜在的にどのような「子ども観」を持っているかに気づき、学びの課程で具体的に自身の「保育観」を育てていけるようにというねらいのもとに実習体験で捉えた好ましい子どもの姿からを記述する課題を出した。結果、子どもの「心情」「意欲」「態度」のそれぞれから好ましい姿を捉えているが、全体としては心情的な側面に好意を持つ例が多かった。学生が保育者として成長していく段階で、自身の子ども観や価値観を認識し、それがどのような視点から作られたものであるかを掘り下げながら、次の課題を見出していけるような、段階を踏んだ指導への手がかりを得ることができた。宮川萬寿美、神蔵幸子 p.501
基礎力を培い、実践力を養うレポート課題の工夫	共著	2012年9月	全国保育士養成協議会 第51回研究大会	基礎的な知識をもとに情報を理解し、どのように展開できるかという実践力を養うことを目的に「園児募集のちらし」、「クラス便り」「卒園生への手紙」を作成するグループ課題を課し、その結果と、終了後の学生へのアンケートを対応させて、レポート課題の出し方、提出後の活用について考察した。①学習動機の成立、②課題内容や必要な情報の理解、③学習方略などの視点から考察した。大多数の学生は自身の経験をもとに課題に取り組むこと、また、他の学生の発表を聞いたり、見たりすることによる学びの実感が顕著であることが捉えられた。宮川萬寿美、神蔵幸子 pp. 260～261

保育者養成の諸段階における心理劇・ロールプレイング―心理劇・ロールプレイングの導入	共著	2012年9月	全国保育士養成協議会 第51回研究大会	保育者養成課程における心理劇・ロールプレイングを授業に導入するに当たっての、基礎的考え方と教授者の留意点・配慮事項を文献等から整理するとともに、本研究者らが、心理劇・ロールプレイングの導入において実施した展開例から演習方法の3例「見立ててやり取りをする」、「子どもの目線」、「丸くなって集まる」）を報告し考察した。神蔵幸子、義永睦子、小原敏郎 pp. 262～263
幼児の人間関係力 －人との関わりの実践知を探る（2）－	共著	2012年9月	日本人間関係学会 第17回大会	幼稚園・保育所における保育場面から幼児の「人と関わる力」の育ちに意味があると捉えられたエピソードを「役割取得・演技」に焦点をあて抽出し考察した。生活の中での他者からの小さな働きかけが即興的な役割生成のきっかけとなり、その役をまといながら、それ「らしく振舞う」な中で仲間の気持ちに気付いたり、我慢するなどができるようになり、自己調整力や交渉力へとつながっていくことが推察された。神蔵幸子、宮川萬寿美
保育内容・健康におけるお手玉を題材とした実践的授業の効果 ―学生の保育教材としてのお手玉に対する意識変化―	共著	2013年3月	日本幼少児健康教育学会 第31回大会	幼児の体力・運動能力の向上に効果的な遊びが様々あることを理解する機会を設けるため、日本の伝承遊びの1つであるお手玉を保育内容・健康の授業で取り上げ、そこでの学生の意識変化について調査した。質問紙から、実践的授業によって学生のお手玉に対する意識が「難しいもの」から「簡単・身近なもの」へと変化し、お手玉の魅力や遊びの幅の広さにも気付いていったことが明らかになった。他に学生がお手玉を「幼児に喪扱いやすいもの」として捉えなおしたこと、お手玉の大きさ、重さ、中に入れる素材を変化させることで、運動発達段階を意識した遊びを工夫できることに気付いていったことが考察された。長島万里子・岡本かおり・神蔵幸子
保育者養成の諸段階における心理劇・ロールプレイング(2)―実習後の展開	共著	2013年9月	全国保育士養成協議会 第52回研究大会	保育者養成課程の実習後に心理劇・ロールプレイングを活用した授業を行い、有効であるととらえられた2例について経過を整理し、そこで教授者が配慮した事柄について考察した。例1「実習体験のインタヴュー」、例2「課題の劇化による学び（発見）」。実習での様々な体験について、学生が意味あるものとして先につなげることができるようにすること、また、「今、ここで、新しく」体験する現実からの学びを伝えていくことの重要性が確認された。神蔵幸子・義永睦子・小原敏郎・宮川萬寿美（pp.184-185）
多様な視点を育てる授業の工夫(3)行為法の導入	共著	2013年9月	全国保育士養成協議会 第52回研究大会	連続研究の(3)としてレポート課題の発表について考察した。レポート課題は個々に課されるものであるが、発表の機会を持つことで、視野の広がりや自身のレポートを再評価しながら内容を深めていくことができるととらえられた。また、シェアリングに際し、心理劇の構成要素に着目して行為法を導入することが、効果を上げるのにより効であると確認された。宮川萬寿美・神蔵幸子（pp. 458～459）

幼児の人間関係力―人と関わる力の実践力を探る(3)「誘う」	共著	2013年11月	日本人間関係学会 第21回大会	幼児期の子どもの人と関わる力について「誘う」をキーワードに3事例のエピソードから考察した。共に過ごすことを楽しむためには、仲間になる型をなぞる（入れてーいいよ）方法もあるが、あえてその必要のない場面もある。 また、大人には滑稽に見えるやり取りを真剣に交わす場面もある。様々な試行錯誤を経て、より適切な行動へと進んでいくことが推測された。宮川萬寿美、神蔵幸子（pp. 17～18）
幼児教育・保育領域の大学教育における心理劇の展開―「アクションガイド」を用いた劇化のふりかえりについて	共著	2013年11月	日本心理劇学会 第19回大会	保育実践力を養成するプロセスにおいては、学生が何を学んだかを意識化し、次の学びにつなげる「学びの連続性」が問われている。本研究では行為法の初心者であっても主体的に参加できる心理劇の方法として「ウォーミングアップ」、「人形を使った心理劇」を行い、「認識的な整理」と「行為による終結」を統合させた「アクションガイド」を活用した。学生の劇後の記述の整理を通して、学習課題の成立が促進され、保育者としての主体的な学習に繋がる学習方法であることが示唆された。小原敏郎、義永睦子、神蔵幸子（pp. 58～59）
地域の伝統文化を取り入れた保育活動の展開の可能性	共著	2014年5月	日本保育学会 第67回大会	地域の伝統文化を再認識し、保育活動に展開することの可能性について考察した。祭り、食事、行事等を年間の保育内容に位置づけている静岡県I保育園の実践を取り上げ、地域との連携の下に子どもを育てていくときに、地域の伝統文化を保育内容に取り入れていくことの果たす役割の大きさを確認した。一方、その地域の中で役割を果たせる保育者や伝統文化を自らの体験として持って子ども達に伝えることのできる保育者の養成の必要性が課題として捉えられた。神蔵幸子、宮川萬寿美、東元りか
地域の祭りをきっかけとした保育内容―地域文化の継承と創造―	共著	2014年9月	全国保育士養成協議会 第53回大会	地域の伝統文化や伝統音楽を取り入れた保育活動のうち、「祭り」を保育内容に位置づけ生きとした活動を展開している静岡県I保育園と神奈川県S認定こども園の事例を紹介し考察した。そこには、お囃子、みこし、獅子舞など、地域に伝わる文化があること、また、継承されてきた文化を引き継いでいこうとする思いを受け止めるとともに、幼児にも体験できるように工夫し、創造する保育者の姿勢などが見出された。祭りという題材を生かせる保育者を養成することの必要も捉えられた。 宮川萬寿美、神蔵幸子、佐野真弓、東元りか
校外授業を通した保育内容の総合的理解	共著	2015年5月	日本保育学会 第68回大会	S短期大学1年次前期に開講される保育内容「健康」「環境」において保育内容の総合的理解を目指す合同校外授業を企画、実施した。 保育の実践を想定し、実際の素材を共有しながらの学習は具体的な学びとして学生の意欲を引き出し、加えて本企画は学生同士がグループで協同学習する体験でもあり多くの学習成果を生み出すことができた。地域に森林公園があったことが大きな契機となっており、養成校の様々な工夫はどのような地域資源を見出すかによるところが大きいことが認識された。 共著者：並木真理子、曽野麻紀、桃枝智子、岡本かおり

幼稚園教育におけるわらべ歌遊びと子どもの発達ー「はないちもんめ」に注目して	単著	2015年6月	日本関係学会 第37回大会	保育実践者の視点から捉えた「はないちもんめ」の遊びの特徴を探り、幼稚園教育にわらべ歌遊びを導入することの教育的、発達的意義を明らかにすることを目的とした。現職幼稚園教諭65名を対象に行った質問し調査の結果、子どもの年齢と「はないちもんめ」の難易度は関連しており、その導入における観点では、子どもが今できていることの少し先の課題に取り組むことの有効性と必要性が認識されていた。特に、名前を知ることと、他児への興味、仲間意識などに関する記述が多かったが、運動的発達も導入の目安としているものが多かった。
保育園等におけるゼロ歳児向け子育て支援サービス調査－市川市と小田原市を対象として	共著	2015年9月	全国保育士養成協議会 第54回研究大会	0歳児向け支援サービス提案への手がかりを得ることを目的として、市川市（千葉県）と小田原市（神奈川県）の実態を各施設へのアンケートにより調査した。 地域の子育て力向上には保護者向けプログラムの展開・発展が有効と考えられ、意図的な保護者グループ活動の発展の模索を支援・強化する必要があると考えられた。また、各地域の情報を広く収集・提供することが必要と思われた。 共著者：中川秋実・宮川萬寿美
S幼稚園における幼少児の土踏まず測定と生活アンケート結果の分析－年長時の測定で土踏まずが形成されていた子どもの特徴	共著	2016年3月	日本幼少児健康教育学会　第34回大会	幼児期の土踏まず形成を促す要素を検討する目的で、年少時に土踏まず形成が見られなかった幼児のうち、年長時には土踏まずが形成が見らた幼児と年長時にも土踏まず形成が見られなかった幼児の生活アンケート調査結果をマン・ホイットニーのU検定を実施し比較しあた。その結果、「早寝・早起きの規則正しい生活をすること」「活発な動きを含む遊び」の重要性が示唆された。共同研究により抽出不可。
S幼稚園における幼少児の土踏まず測定と生活アンケート結果の分析－年長時の測定で土踏まずが形成されていた子どもの特徴	共著	2016年3月	日本幼少児健康教育学会　第34回大会	幼児期の土踏まず形成を促進する要素を検討する目的で、年少時に土踏まず形成が見られなかった幼児のうち、年長時に形成が見られた幼児とみられなかった幼児の生活アンケート調査結果をマン・ホイットニーのU検定を実施し比較した。その結果、「早寝早起きの規則正しい生活」「保育の場や家庭で活発に活動する」「母親が幼児とともに運動を積極的におこなう」「家族でスポーツに関する話題を楽しむ」の項目が土踏まず形成群に有意に多く見られ、これらが幼児の体力・運動能力を向上させることにつながる可能性が示唆された。長島万里子、石濱加奈子、神蔵幸子（pp. 30～31）
保育内容「人間関係」・「言葉」の科目間連携による授業展開 ― 保育理解の深まりを目指して：共通教材（VTR）の利用 ―	共著	2016年5月	日本保育学会 第69回大会	S短期大学後期開講科目の「人間関係」(神蔵・桃枝)と「言葉」(並木・曽野・井上)において共通教材(VTR)を用いての授業を試みた。学生が保育理解を深めることを目的として、それぞれの科目の観点からの内容をすすめながら、併せて共通教材としたVTR事例について異なる視点からアプローチを重ねた展開部分について報告した。 神蔵幸子、並木真理子、曽野麻紀、桃枝智子、井上眞理子

教　育　研　究　業　績　書

２０１８年５月１日
氏名　黒須　和清

著書･学術論文などの名称	単　著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概　　要
(著書)				
「手づくりアンパンマンがいっぱい」		2006年	フレーベル館	
「お菓子なカードを作りましょう」		2007年	すずき出版	
「かんたん＆楽しいパフォーマンスブック」	共著	2008年	メイト	
「ドキドキ！妖怪きりがみ」		2008年	東京書店株式会社	
「最新からくりワールド工作図鑑」		2008年	東京書籍株式会社	
「キンダーブック　しぜん　紙であそぼう」		2009年	フレーベル館	
「たのしいおもちゃ屋さん」		2010年	すずき出版	
「魔法のスパイス」		2014年	ブイツーソリューション	
お絵描きにが宛の保育士さんのためのイラストハンドブック「せんせい、ぞうさんかいて！」		2015年	ブイツーソリューション	
小学生の自由工作パーフェクト（低学年編）	共著	2016年	成美堂出版	
小学生の自由工作パーフェクト（高学年編）	共著	2016年	成美堂出版	
一枚の紙から立ち上がる！2.5次元のペーパークラフト		2016年	小学館クリエイティブ	
「魔法のスパイスエピソード0」		2017年	ブイツーソリューション	
(執筆)				
＜身近なものからかんたん工作＞		2006年	「保育の友」	(現在まで毎月連載中)
＜くまおじさんのたのしいクッキング＞		2007年	「ピコロ10月号」	(人形劇)
＜モーモーフアミリーものまねショー＞		2008年	「ピコロ12月号」	(人形劇)
＜ペーパーシアターおむすびのえんそく＞		2008年	「ひろば月号」	(人形劇)
＜ソフトクリームのクリスマス＞		2009年	「ピコロ11月号」	(人形劇)
＜女の子たちの風車＞		2009年	「幼児の教育」	(エッセイ)
＜一枚の紙から恐竜むっくり＞		2009年	「朝日小学生新聞」	(工作)
「新しい図画工作」＜チャレンジひろば＞		2009年	図工教科書（東京書籍）	(工作)
＜お正月のおもちゃをつくろう＞		2010年	「ひろば12月号」	(工作)
＜くろくまとしろくまのなかよしチョコレート＞		2010年	「ピコロ1月号」	(人形劇)
「新しい図工」指導編・研究編＜チャレンジひろば＞		2011年	図工教科書（東京書籍）	(工作)
＜おさんぽだんご＞		2011年	「ピコロ9月号」	(人形劇)
＜おにのケーキ屋さん＞		2013年	「ピコロ1月号」	(人形劇)

＜おべんとうかぞえうた＞		2014年	「ピコロ1月号」	（人形劇）
＜年賀状＆お正月おもちゃ＞		2015年	「ひろば12月号」	（工作）
＜在園児が作る卒園プレゼント＞		2016年	「ひろば2月号」	（工作）
＜遊べる！たのしい！てづくりおもちゃ＞		2016年	「幼児教育じほう5月号」	（エッセイ）
＜かささぎのたなばた屋＞		2016年	「ピコロ6月号」	（人形劇）
＜遊べる！たのしい！てづくりおもちゃ＞		2017年	「幼児教育じほう」	（エッセイ）隔月で連載
＜工作ページ＞		2017年4月～	「幼児と保育」	（工作）毎月連載
（研修会講師）				
千葉佐倉　宮崎　藤沢　福井　神戸　茅ヶ崎　野田　沖縄　姫路　目白　沖縄糸満　多摩　別府　平塚　佐倉　桑名　国立音大　高崎　広島　宇都宮　福生　岡山　水沢江刺　桜上水　伊勢原　板橋　山形		2006年		てづくりおもちゃ　人形劇
秦野　我孫子　京都　座間　千葉　埼玉　柏　相模原　広島　姫路　国立音大　船橋　高崎　上諏訪　木曽　宇都宮　相模大野　伊勢原　江東区　入間　福生　佐倉　名古屋　小淵沢　富山		2007年		てづくりおもちゃ　人形劇
釧路　東所沢　小手指　富山　千葉　福生　千葉　白井　川崎　京都　成田　山形　高崎　国立音大　宇都宮　沖縄　板橋　川崎　甲府		2008年		てづくりおもちゃ　人形劇
小手指　墨田区　中原　千葉　横浜　京都　高崎　国立音大　向ケ丘遊園　板橋区　千葉白井 洋光台　神保原		2009年		てづくりおもちゃ　人形劇
宇都宮　能見台　名古屋岩倉　甲府　新宿　岐阜　河口湖　国立音大　静岡金谷　高崎　国立音大　浦安　新百合ケ丘		2010年		てづくりおもちゃ　人形劇
横須賀　新宿　千葉　青森　光が丘　相原　国立音大　幕張　白峰学園　金谷　高崎　茨城キリスト教大学　沖縄　山梨　小田原　我孫子　千歳船橋		2011年		てづくりおもちゃ　人形劇
青葉台　相模原　新井薬師　能見台　新宿　高崎　千葉　青森　埼玉学園大学　名古屋家政学院　幕張　国立音大　伊香保　白峰学園　松戸　山形　笹塚　川崎　千歳船橋　筑西		2012年		てづくりおもちゃ　人形劇
我孫子　島田　横浜　箱根湯本　伊勢崎　高崎　埼玉学園大学　綾瀬　NHK放送センター　国立音大　伊香保　白峰学園　相模原　東京家政学院　日立　寒川　飯田橋　千歳船橋		2013年		てづくりおもちゃ　人形劇

茂原　飯田橋　茅ヶ崎　お茶の水女子大　高崎　千葉　北区　山口柳井　伊香保　相模原国立音大　白峰学園　上布田保育園家政学院大　渋谷区　飯田橋　市川NHK放送センター		2014年		てづくりおもちゃ　人形劇
三鷹　立川　船越保育園　日本橋鈴木楽器高崎　千葉　伊香保　国立音大　白峰学園佐倉　本町幼稚園　川崎高津区　横浜　羽村　飯田橋		2015年		てづくりおもちゃ　人形劇
飯田橋　富山　藤沢　横浜　金沢区保育ボランティア　高崎　千葉自治労　徳島　家政学院大学　両国　伊香保　白峰学園　国立音大　秦野　高津区		2016年		てづくりおもちゃ　人形劇
宮前区　大和　高崎　千葉自治労グローイングランマ　家政学院大学伊香保東京保育専門学校　白峰学園国立音大　新潟こども医療専門学校新島学園　千葉　井土ケ谷　羽村		2017年		てづくりおもちゃ　人形劇
新潟こども医療専門学校		2018年		てづくりおもちゃ　人形劇

（展覧会）				
世田谷文学館「ウルトラマン40周年記念展」		2006年		ペーパークラフト作品出品
池袋サンシャインシティ「ウルトラマンフェスティバル」		2007年		ペーパークラフト作品出品
名古屋駅ビルタワーズプラザギャラリーにて「切り起こしペーパークラフト展」		2008年		
山口県小野田サンバークにて「黒須和清のウルトラペーパーワールド」展		2009年		
岐阜美濃和紙の里会館にて「紙工房展」		2009年		
瀬戸蔵多目的ホール「平成の招き猫100人展」にペーパークラフト作品出品		2011年		
富山こどもみらい館にて「花とおばけとかんのん展」		2012年		
銀座ソニービルにて「2.5次元のペーパークラフト展」		2013年		
銀座ソニービルにて「2.5次元のペーパークラフト展」		2014年		
ウルトラ怪獣募金箱製作		2015年		円谷プロダクション
四谷ランプ坂ギャラリーにて「ランプ坂博覧会」		2016年		
トッパンホームズ汐留本社1Fにてペーパーレストラン2016に作品出展		2016年		
トッパンホームズ汐留本社1Fにてペーパーレストラン2017に作品出展		2017年		
山梨切り絵の森美術館にてペーパーレストラン巡回展		2017年		
四谷ランプ坂ギャラリーにて「ランプ坂博覧会2」		2018年		
日本橋三越はじまりのカフェ「CAP CAT CUT 猫とペーパーアートの出逢い」		2018年		

教　育　研　究　業　績　書

２０１８年５月１日
氏名　秋山　徹

著書･学術論文などの名称	発行又は 発表の年月	発行所､発表雑誌又は 発表学会などの名称	概　　要
(学会発表等)			
フンパーディング　作曲 オペラ｢ヘンゼルとグレーテル｣	2008年5月18日	東京都児童会館事業	東京都児童会館主催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)フンパーディング:オペラ｢ヘンゼルとグレーテル｣
子どものためのクラッシックコンサート	2008年9月23日	東京都児童会館事業	東京都児童会館主催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)大中恩:おなかのへるうた、バスの歌、森田公一:南の島のハメハメハ大王　他
林光　作曲 オペラ｢あまんじゃくとうりこひめ｣	2008年10月29日	洗足学園附属幼稚園 親子の為の音楽会 洗足学園大学附属幼稚園 主催	洗足学園大学附属幼稚園主催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)林光:オペラ｢あまんじゃくとうりこひめ｣
松井和彦　作曲 オペラ｢日本むかしばなし｣	2009年2月28日	洗足学園音楽大学/大学院 主催演奏会	洗足学園音楽大学/大学院主催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ｢日本むかしばなし｣
石川亮太　作曲 オペラ｢浦島太郎｣	2009年3月29日	東京都児童会館事業	東京都児童会館主催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)石川亮太:オペラ｢浦島太郎｣
ミューザ川崎市民合唱祭	2009年7月4日	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟 / 文化財団　主催 音楽の街かわさき推進委員会　後援
障害児･者と共に歩む 輪･和･Waコンサート	2009年8月22日	大和YMCA事業 大和YMCA実行委員会　主催 大和市教育委員会　後援	大和YMCA実行委員会主催、大和市教育委員会後援の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)中田喜直:夏の思い出、オペレッタ版:コーヒーカンタータ　他
子供のための クラッシックコンサート	2009年9月22日	東京都児童会館事業	東京都児童会館主催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)團伊玖磨:花の街、大中恩:ドロップスの歌、山田耕作:あわて床屋　他
W･A･モーツァルト　作曲 オペラ｢魔笛｣	2009年9月27日	大和シティオペラ公演 大和市/大和市教育委員会･他　後援	大和シティオペラ主催、大和市･大和市教育委員会･他後援の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)モーツァルト:オペラ｢魔笛｣
G･ヴェルディ　作曲 オペラ｢椿姫｣	2009年10月24日	Senzoku マスターズコンサート	洗足学園音楽大学 / 大学院　主催
松井和彦　作曲 オペラ｢はなさかじいさん｣	2009年10月28日	洗足学園大学附属幼稚園 親子の為の音楽会	洗足学園大学附属幼稚園主催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ｢はなさかじいさん｣
L･v･ベートーヴェン　作曲 交響曲第9番｢合唱｣	2009年12月1日	FUYUON 2009	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学 主催
C･オルフ　作曲 カルミナ･ブラーナ	2009年12月20日	洗足学園音楽大学演奏会	洗足学園音楽大学/大学院　主催

G・プッチーニ / G・ビゼー　作曲 オペラ「蝶々夫人」/「カルメン」	2010年3月4日	みなとみらいホール事業	横浜みなとみらいホール　主催 神奈川新聞社　他　後援
オペラの名曲への誘い	2010年3月28日	広島市ひとまちネットワーク事業	広島市ひとまちネットワーク　主催
生徒と父母のための音楽会	2010年4月28日	城西大学付属中/高 音楽観賞会	城西大学付属中学校/高等学校　主催
石川亮太　作曲 オペラ「浦島太郎」	2010年5月16日	たかたの丘音楽祭 横浜市港北区　主催	横浜市港北区主催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 （演奏曲目）石川亮太：オペラ「浦島太郎」
L・v・ベートーヴェン　作曲 交響曲第9番「合唱」	2010年6月13日	アシュケナージ氏 就任記念演奏会	洗足学園　主催
ミューザ川崎市民合唱祭	2010年7月10日	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/文化財団　主催 音楽の街かわさき推進委員会　後援
G・ヴェルディ　作曲 オペラ「椿姫」	2010年7月31日	エリザベート音楽大学 同窓生事業	エリザベート音楽大学同窓生　主催 エリザベート音楽大学/中国新聞社　後援
障害児・者と共に歩む 輪・和・Waコンサート	2010年11月20日	大和YMCA事業 大和市教育委員会　後援	大和YMCA実行委員会主催、大和市教育委員会後援の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 （演奏曲目）石川亮太：オペラ「浦島太郎」
L・v・ベートーヴェン　作曲 交響曲第9番「合唱」	2010年12月4日	FUYUON 2010	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学 主催
合唱第30回記念定期演奏会	2010年12月5日	FUYUON 2010	洗足学園音楽大学/大学院　主催
L・v・ベートーヴェン　作曲 交響曲第9番「合唱」	2010年12月23日	北本第九合唱団演奏会	北本第九合唱団　主催 埼玉県/埼玉県教育委員会　他　後援
松井和彦　作曲 オペラ「泣いた赤鬼」	2011年5月14日・15日	高津区協働推進事業 子どもの音楽文化体験事業 実行委員会/高津区役所/ 洗足学園音楽大学　共催	子どもの音楽文化体験事業実行委員会/高津区役所/洗足学園音楽大学共催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 （演奏曲目）松井和彦：オペラ「泣いた赤鬼」
障害児・者と共に歩む 輪・和・Waコンサート	2011年7月2日	横浜YMCA事業	横浜YMCA実行委員会　主催 都筑区　後援
松井和彦　作曲 オペラ「泣いた赤鬼」	2011年10月12日	洗足学園附属幼稚園 親子の為の音楽会 洗足学園大学附属幼稚園 主催	洗足学園大学附属幼稚園主催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 （演奏曲目）松井和彦：オペラ「泣いた赤鬼」
L・v・ベートーヴェン　作曲 交響曲第9番「合唱」	2011年12月2日	FUYUON 2011	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学 主催
松井和彦　作曲 オペラ「泣いた赤鬼」	2012年1月14日	みなとみらいホール事業 横浜みなとみらいホール 主催　文化庁　支援	横浜みなとみらいホール主催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 （演奏曲目）松井和彦：オペラ「泣いた赤鬼」

さとうきび畑こんさあと	2012年1月29日	「さとうきび畑」歌碑建立 実行委員会演奏会	「さとうきび畑」歌碑建立実行委員会　主催 秦野市/秦野市教育委員会　後援
コーラルフェストかわさき	2012年2月5日	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/川崎市文化協会　主催
鈴木敬介　追悼コンサート オペラ名曲の夕べ	2012年8月20日	日生劇場事業	公益財団法人ニッセイ文化振興財団　主催
プッチーニ　作曲 オペラ「ラ・ボエーム」	2012年8月25日	「ラ・ボエーム」実行委員会 演奏会	「ラ・ボエーム」実行委員会　主催 エリザベート音楽大学　後援
松井和彦　作曲 オペラ「泣いた赤鬼」	2012年9月1日	高津区協働推進事業 子どもの音楽文化体験事業 実行委員会/高津区役所/ 洗足学園音楽大学　共催	子どもの音楽文化体験事業実行委員会・高津区役所・/洗足学園音楽大学共催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 （演奏曲目）松井和彦：オペラ「泣いた赤鬼」
ゲーテ作「ファウスト」より生まれた 声楽作品	2012年9月8日	洗足音楽表現教育研究会	SeMEESフォーラム実行委員会　主催
G・C・メノッティ　作曲 オペラ「電話」	2012年10月10日	かなっくホール事業	かなっくホール　主催 神奈川区役所　後援
障害児・者とともに You ＆Ｉコンサート	2012年10月28日	You ＆Ｉ コンサート運営 委員会事業 横浜市都筑区社会福祉 協議会　主催 横浜市教育委員会　後援	横浜市都筑区社会福祉協議会主催、横浜市教育委員会後援の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 （演奏曲目）小岩悦也：オペレッタ「商売上手」
L・v・ベートーヴェン　作曲 交響曲第9番「合唱」	2012年12月7日	FUYUON 2012	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学 主催
L・v・ベートーヴェン　作曲 交響曲第9番「合唱」	2012年12月23日	北本合唱団演奏会	北本合唱団　主催 埼玉県/埼玉県教育委員会・他　後援
日本洋楽の旅	2013年2月10日	平塚音楽家協会事業 平塚音楽家協会　主催 平塚市/平塚市教育委員会 後援	平塚音楽家協会主催、平塚市/平塚市教育委員会後援の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 （演奏曲目）石桁真礼生：オペレッタ「河童譚」
G・ヴェルディ　作曲 オペラ「リゴレット」	2013年3月1日	横浜みなとみらいホール事業	横浜みなとみらいホール　主催 神奈川新聞社・他　後援
ゴールデンウェーブ　in 横浜	2013年4月16日	横浜みなとみらいホール事業	横浜みなとみらいホール　主催 神奈川県/横浜市　他　後援
ミューザ川崎市民合唱祭	2013年7月6日	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/文化財団　主催 音楽の街かわさき推進委員会　後援
平和への祈り 川崎ぞうれっしゃコンサート	2013年8月25日	川崎ぞうれっしゃ実行委員会 事業／川崎ぞうれっしゃ実行 委員会主催／川崎市/川崎 市教育委員会　他　後援	川崎ぞうれっしゃ実行委員会主催、川崎市・川崎市教育委員会・他後援演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 （演奏曲目）藤村記一郎：「ぞうれっしゃがやってきた」

松井和彦　作曲 オペラ「泣いた赤鬼」	2013年9月7日	高津区地域課題対応事業 子どもの音楽文化体験事業 実行委員会/高津区役所/ 洗足学園音楽大学　共催	子どもの音楽文化体験事業実行委員会・高津区役所・洗足学園音楽大学共催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 （演奏曲目）松井和彦：オペラ「泣いた赤鬼」
障害児・者とともに You ＆Ｉコンサート	2013年9月28日	横浜北YMCA事業 横浜市都筑区社会福祉協議会　主催 横浜市教育委員会　後援	横浜市都筑区社会福祉協議会主催、横浜市教育委員会後援の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 （演奏曲目）小岩悦也：オペラ「赤ずきん」
「4＋1＝10/20」	2013年10月20日	シルバーマウンテン オープニングコンサート	洗足学園音楽大学　主催
「喜びの息吹き達BからBへ」	2013年11月14日	シルバーマウンテン オープニングコンサート	洗足学園音楽大学　主催
ベートーヴェン　作曲 交響曲第9番「合唱」	2013年12月6日	FUYUON 2013	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学 主催
ベートーヴェン　作曲 交響曲第9番「合唱」	2013年12月8日	平塚市まちづくり財団事業	平塚市・平塚市まちづくり財団　主催 平塚市教育委員会　他　後援
「X'mas ロマンティックコンサート」	2013年12月22日	シルバーマウンテン オープニングコンサート	洗足学園音楽大学　主催
オペラティックコンサート ～鈴木敬介先生を偲んで～	2014年2月14日	マスターズコンサート	洗足学園音楽大学/大学院　主催 「音楽のまちかわさき」推進協議会　後援
ゴールデンウェーブ　in 横浜	2014年4月14日	横浜みなとみらいホール事業	横浜みなとみらいホール　主催 神奈川県/横浜市　他　後援
ミューザ川崎市民合唱祭	2014年6月29日	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/文化財団　主催 音楽の街かわさき推進委員会　後援
おやこオペラ教室2014 松井和彦　作曲 オペラ「泣いた赤鬼」	2014年8月4日	文化庁劇場・音楽堂 活性化事業 横浜みなとみらいホール 主催	横浜みなとみらいホール主催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 （演奏曲目）松井和彦：オペラ「泣いた赤鬼」
洗足学園小学校コンサート	2014年8月17日	洗足学園90周年記念 コンサート	洗足学園音楽大学　主催
松井和彦　作曲 オペラ「泣いた赤鬼」	2014年9月6日	高津区地域課題対応事業 子どもの音楽文化体験事業 実行委員会/高津区役所/ 洗足学園音楽大学　共催	子どもの音楽文化体験事業実行委員会/高津区役所/洗足学園音楽大学共催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 （演奏曲目）松井和彦：オペラ「泣いた赤鬼」
ベートーヴェン　作曲 交響曲第9番「合唱」	2014年12月5日	FUYUON 2014	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学 主催
洗足学園小学校オーケストラ演奏会	2014年12月7日	FUYUON 2014	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学 主催
高津区民音楽祭	2014年12月13日	高津区地域課題対応事業	高津区民音楽祭運営委員会/高津区役所 主催 音楽の街かわさき推進委員会　後援
鎌倉風致保存会 創立50周年記念コンサート	2014年12月27日	鎌倉風致保存会事業	鎌倉風致保存会　主催 鎌倉・逗子・葉山市教育委員会　他　後援
音楽鑑賞教室	2015年3月13日	狛江市文化振興事業	狛江市文化振興事業団　主催

フィリアジュニア合唱団コンサート	2015年3月22日	フィリアホール事業 洗足学園音楽大学　後援	フィリアホール主催、洗足学園音楽大学後援の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 （演奏曲目）湯山昭：電話　他
ゴールデンウェーブ　in 横浜	2015年4月13日	横浜みなとみらいホール事業	横浜みなとみらいホール　主催 神奈川県/横浜市　他　後援
秦野市楽友協会創立30周年コンサート	2015年6月14日	秦野市楽友協会演奏会	秦野市楽友協会　主催 秦野市　共催 秦野市教育委員会/秦野市音楽協会　後援
ミューザ川崎市民合唱祭	2015年6月28日	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/文化財団　主催 音楽の街かわさき推進委員会　後援
芸術鑑賞会	2015年7月8日	神奈川県立厚木北高等学校 芸術鑑賞会	神奈川県立厚木北高等学校　主催
相模原市合唱祭	2015年7月12日	相模原市合唱連盟演奏会	相模原市合唱連盟　主催 相模原市民文化財団　共催 相模原市　他　後援
厚木合唱祭	2015年7月20日	厚木合唱連盟演奏会	厚木合唱連盟　主催 厚木市　共催 厚木市音楽協会　後援
川崎の風コンサート2015	2015年8月29日	川崎市文化協会演奏会 川崎市文化協会　主催 川崎市 /川崎区　共催 川崎市教育委員会 他 後援	川崎市文化協会主催、川崎市・川崎区共催、川崎市教育委員会・他後援演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 （演奏曲目）藤村記一郎：「ぞうれっしゃがやってきた」
松井和彦　作曲 オペラ「泣いた赤鬼」	2015年9月5日	高津区地域課題対応事業 子どもの音楽文化体験事業 実行委員会/高津区役所/ 洗足学園音楽大学　共催	子どもの音楽文化体験事業実行委員会・高津区役所・洗足学園音楽大学共催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 （演奏曲目）松井和彦：オペラ「泣いた赤鬼」
厚木男声合唱団定期演奏会	2015年10月17日	厚木男声合唱団演奏会	厚木男声合唱団　主催　厚木市　共催 厚木合唱連盟/厚木市音楽協会　後援
芸術鑑賞会	2015年10月24日	横浜市立荏田南小学校 芸術鑑賞会	横浜市立荏田南小学校　主催
ベートーヴェン　作曲 交響曲第9番「合唱」	2015年12月3日	FUYUON 2015	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学 主催
鎌倉風致保存会コンサート	2016年1月31日	鎌倉風致保存会事業	鎌倉風致保存会　主催 鎌倉・逗子・葉山市教育委員会　他　後援
フィリアジュニア合唱団コンサート	2016年3月20日	フィリアホール事業	フィリアホール主催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 （演奏曲目）シューベルト：魔王、ビゼー：オペラ「カルメン」闘牛士の歌
ゴールデンウェーブ　in 横浜	2016年4月11日	横浜みなとみらいホール事業	横浜みなとみらいホール　他　主催 神奈川県・横浜市　他　後援
厚木混声合唱団定期演奏会	2016年6月19日	厚木混声合唱団演奏会	厚木混声合唱団　主催 厚木市　共催 厚木合唱連盟/厚木市音楽協会　後援

プッチーニ　作曲 オペラ「蝶々夫人」	2016年7月2日	「蝶々夫人」実行委員会 演奏会	「蝶々夫人」実行委員会　主催 エリザベート音楽大学　後援
相模原市合唱祭	2016年7月10日	相模原市合唱連盟演奏会	相模原市合唱連盟　主催 相模原市民文化財団　共催 相模原市　他　後援
ミューザ川崎市民合唱祭	2016年7月17日	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/文化財団　主催 音楽の街かわさき推進委員会　後援
厚木合唱祭	2016年7月18日	厚木合唱連盟演奏会	厚木合唱連盟　主催 厚木市　共催 厚木市音楽協会　後援
ワーグナー　作曲 オペラ「トリスタンとイゾルデ」	2016年9月11日・17日	東京二期会 オペラ劇場公演	東京二期会　主催 読売日本交響楽団　共催 ドイツ連邦共和国大使館　他　後援
秦野マンドリンクラブ定期演奏会	2016年11月23日	秦野マンドリンクラブ 演奏会	秦野マンドリンクラブ　主催 秦野市/秦野市教育委員会　後援
女声合唱団「すみれ会」定期演奏会	2016年11月26日	すみれ会演奏会	すみれ会　主催 相模原市教育委員会/ 相模原市合唱連盟　後援
ベートーヴェン　作曲 交響曲第9番「合唱」	2016年12月5日	FUYUON 2016	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学 主催
フィリアジュニア合唱団コンサート	2017年3月18日	フィリアホール事業	フィリアホール主催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 （演奏曲目）ムソルグスキー：蚤の歌、大中恩：早口ことばのうた
小黒恵子童謡記念館リニューアルオープン記念コンサート	2017年4月1日	小黒恵子童謡記念館事業	小黒恵子童謡記念館リニューアルオープンに伴う記念コンサートにおいて、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 （演奏曲目）小黒恵子の詩による5曲のメドレー
ゴールデンウェーブ　in 横浜	2017年4月10日	横浜みなとみらいホール事業	横浜みなとみらいホール　他　主催 神奈川県/横浜市　他　後援
せたがや歌の広場コンサート	2017年5月19日	世田谷うたの広場 「詩と作曲の会」事業	世田谷うたの広場「詩と作曲の会」/ 世田谷区　主催
ミューザ川崎市民合唱祭	2017年6月17日	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/文化財団　主催 音楽の街かわさき推進委員会　後援
相模原市合唱祭	2017年7月9日	相模原市合唱連盟演奏会	相模原市合唱連盟　主催 相模原市民文化財団　共催 相模原市　他　後援
厚木合唱祭	2017年7月17日	厚木合唱連盟演奏会	厚木合唱連盟　主催 厚木市　共催 厚木市音楽協会　後援

松井和彦　作曲 オペラ「泣いた赤鬼」	2017年9月2日	高津区音楽のまち推進事業 子どもの音楽文化体験事業 実行委員会/高津区役所/ 洗足学園音楽大学　共催	子どもの音楽文化体験事業実行委員会/ 高津区役所/洗足学園音楽大学共催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 （演奏曲目）松井和彦：オペラ「泣いた赤鬼」
レーヴェ＆ドイツ歌曲のワンダーランド	2017年9月11日	日本カール・レーヴェ協会 演奏会	日本カール・レーヴェ協会 主催 国際カール・レーヴェ協会　後援
芸術鑑賞会	2017年10月21日	横浜市立荏田南小学校 芸術鑑賞会	横浜市立荏田南小学校　主催
モラヴィアの風	2017年10月27日	純声会演奏会	純声会　主催 チェコ大使館/ 洗足学園音楽大学　他　後援
ベートーヴェン　作曲 交響曲第9番「合唱」	2017年12月7日	FUYUON 2017	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学 主催
厚木混声合唱団定期演奏会	2017年12月24日	厚木混声合唱団演奏会	厚木合唱連盟　主催 厚木市　共催 厚木市音楽協会　後援
ゴールデンウェーブ　in 横浜	2018年4月16日	横浜みなとみらいホール事業	横浜みなとみらいホール　他　主催 神奈川県/横浜市　他　後援

（講演、学会における役職等）			
「華麗なるオペラの世界」 講師	2009年4月 ～ 2015年3月	昭和女子大学 オープンカレッジ講座	昭和女子大学オープンカレッジ主催講座において、オペラをテーマに講演した。
「保育士を志す学生の集い研修会」 講師	2009年6月6日～ 2017年6月3日	神奈川県保育士養成施設 協会主催研修会	神奈川県保育士養成施設協会主催研修会において、幼児教育の現場でも取り上げられる楽曲をテーマとして、各楽曲の解説を、実演を含めて講演した。（全9回）
「園歌・校歌等のCDの紹介と活用について」 講師	2009年8月19日	秦野市教育研究会 秦野市教育委員会　主催	秦野市教育委員会教育研究発表会において、制作した園歌・校歌のCDについて講演した。
秦野青少年音楽祭　審査員	2010年7月4日	秦野青少年音楽祭 秦野市　主催	秦野市主管の秦野市青少年音楽祭において、審査員を務めた。
「華麗なるオペラの世界」 講師	2010年10月31日	秦野市南ヶ丘公民館 公開講座	秦野市主催の公開講座において、オペラをテーマに講演した。
「オペラ入門講座」 講師	2011年2月6日	秦野市事業	秦野市主催の公開講座において、オペラをテーマに講演した。
「オペラの世界にようこそ」 講師	2011年2月20日	秦野市楽友協会 音楽講習会	秦野市楽友協会主催の公開講座において、オペラをテーマに講演した。
「オペラの名曲への誘い」 講師	2011年3月20日	広島市 ひとまちネットワーク事業	広島市ひとまちネットワーク主催の公開講座において、オペラをテーマに講演した。
秦野青少年音楽祭　審査員	2011年7月3日	秦野青少年音楽祭 秦野市　主催	秦野市主管の秦野市青少年音楽祭において、審査員を務めた。
「クラッシック音楽のたのしみ方 オペラとオペレッタ」 講師	2011年11月16日・30日	目黒区教育委員会文化講座	目黒区教育委員会主催の公開講座において、オペラとオペレッタをテーマに講演した。
秦野青少年音楽祭　審査員	2012年7月1日	秦野青少年音楽祭 秦野市　主催	秦野市主管の秦野市青少年音楽祭において、審査員を務めた。
「子育てセミナー」 講師	2013年7月5日	川崎市幼稚園協会事業	川崎市幼稚園協会事業において、子育ての中での音楽の重要性や具体的な楽曲の紹介など、実演を含めて講演した。
「クリスマスソングを歌いましょう 」 講師	2013年12月9日	洗足学園小幼部洗足会事業	洗足学園小幼部洗足会事業において、幼児向けのクリスマスソングの楽曲を、実演を含めて講演した。
秦野青少年音楽祭　審査員	2014年7月6日	秦野青少年音楽祭 秦野市　主催	秦野市主管の秦野市青少年音楽祭において、審査員を務めた。
秦野青少年音楽祭　審査員	2015年8月9日	秦野青少年音楽祭 秦野市　主催	秦野市主管の秦野市青少年音楽祭において、審査員を務めた。
「幼児期に必要な音楽とは」 講師	2016年7月25日	緑区幼保小教育交流事業 夏季合同職員研修会　講師 緑区　主催	緑区幼保小教育交流事業合同職員研修会において、幼児期に必要な音楽をテーマとして、楽曲の紹介や解説、指導上の留意点、それに伴う発声や発音について講演した。

「音楽リズムと乳幼児の保育」 講師	2016年11月9日	高津区保育施設職員研修 高津区　主催 洗足こども短期大学　共催	高津区保育者対象人材育成研修において、音楽リズムと乳幼児の保育をテーマとして、幼児教育の現場で取り上げられる代表的なリズム楽器について、実演を含めて講演した。
「幼児の音楽指導の実践について」 講師	2017年5月31日	うめのき保育園職員研修 うめのき保育園　主催	うめのき保育園職員研修会において、乳幼児の音楽指導の実践についてをテーマとして、幼児教育の現場で取り上げられる代表的なリズム楽器について、実演を含めて講演した。
「乳幼児の発達に即した楽器遊び」 講師	2017年6月1日	高津区保育施設職員研修 高津区　主催 洗足こども短期大学　共催	高津区保育施設職員研修会において、乳幼児の発達に即した楽器遊びをテーマとして、幼児教育の現場で取り上げられる代表的なリズム楽器について、実演を含めて講演した。
（その他、教育活動）			
（CD制作） 幼児歌曲集	2011年4月1日	洗足こども短期大学	幼児歌曲集（教材）の収録曲のCDを、楽曲のレパートリーと楽曲知識向上のために作成した。
（単著） 乳幼児に受け入れられる演奏って？	2012年4月1日	NPO昭和 「かるがも便り」Vol.65 （1ページ）	乳幼児期は本能的に音楽に多様な反応を示す。乳幼児に対して演奏を行う時、本能的に心地良く受け入れる事の出来る音楽とは何かを考察して演奏する事は、音楽の本質を探究する上でも大変重要であるといった内容の執筆を、子育てと演奏をテーマに機関誌に掲載した。
（単著） コード伴奏による幼児歌曲100曲集	2015年4月1日 第1刷 2016年4月1日 第2刷 2017年4月1日 第3刷 2018年3月1日 第4刷	カワイ出版 （128ページ）	楽曲の弾き歌い技能向上の為、運指が行い易くコード伴奏で演奏可能な幼児歌曲集を、調性、和音、発想用語など、原曲を損なわぬよう配慮して、幼児歌曲より100曲を精選して作成。全曲にコード、ならびにオリジナル楽譜が参考となる楽曲についてはピアノ鍵盤図を付記した。また、演奏に際しての留意点、弾き歌いの実践方法、各調の主要三和音と伴奏例の実践方法などの解説を記載し、教材としても活用している。
小黒恵子童謡記念館における 解説資料作成	2017年4月1日	小黒恵子童謡記念館事業	小黒恵子童謡記念館における 館内展示の解説資料作成者を務めた。

教　育　研　究　業　績　書

２０１８年５月１日
氏名　石濱　加奈子

著書･学術論文などの名称	単　著･共著の別	発行又は発表の年月	発行所､発表雑誌又は発表学会などの名称	概　　要
(学術論文)				
S短期大学の女子学生における体力の推移について ―2010年から2016年までの測定結果より―	単著	2018年2月	洗足論叢 第46号 (8ページ)	2010～2016年にS短期大学に在籍した女子学生のうち，体力テストと背筋力のデータに欠損のない3778名を対象にした．体力テストについては，横ばいもしくは多少の向上傾向であった．背筋力については，低下傾向であった．もっとも高値を示した2013年と最も低値を示した2016年との平均値を比較する10kg以上にもなった．また，いずれの年も両側に均等に分布しているものの，幅は2016年の方が広い分布となった．(pp.379～386)
幼児期の発達調査に関する提言 －S幼稚園児の土踏まず測定と生活アンケート結果をもとに－	共著	2016年2月	洗足論叢 第44号 (10ページ)	S幼稚園児を対象に、土踏まずの測定と生活に関するアンケート調査を3年間縦断的におこなった。その結果、男児においては、身体を活発に動かす活動を好む、素早い身のこなしができる、母親との運動遊びをよくおこなう、父母が運動を好む、という項目と、土踏まずの有無との間に関連がみられたが、女児ではそのような結果を得ることができなかった。(共同研究のため抽出不可、足跡測定・分析および背景・考察の執筆を担当)
幼児の運動能力向上を促す保育活動の提案:S幼稚園年長児の足蹠・運動能力・生活習慣の関連性から	共著	2014年9月	運動・健康教育研究 第23巻1号 (8ページ)	足蹠測定、運動能力テスト、保護者を対象とした生活アンケートから、運動能力向上のための保育活動を提案することを目的とした。その結果、日常の運動量や運動経験が影響を及ぼしていると考えられ、対象園児は運動経験が乏しいことが考えられる結果となった。そこで、広い敷地を利用し運動量を確保すること、多様な動きを伴う運動を取り入れること、歩行量を増やすこと、などの提案をした。(共同研究のため抽出不可、足跡測定・運動能力テストの準備、実施および調査結果の分析を担当)
背筋力からみた運動習慣・生活習慣への提案	単著	2014年2月	洗足論叢 第42号 (7ページ)	背筋力の測定と運動・生活に関するアンケートとの結果から、背筋力の維持・向上に必要な生活・運動習慣を導き出すことを目的とした。その結果、背筋力指数(背筋力／体重)1.5以上群の方が、1.5未満群よりも運動に意欲的であり、集中や協調性、社交性なども優れていた。運動のみならず生活行動全般への意欲的な取り組みが、背筋力の向上につながるということが示唆された。(pp.179～185)
子育て支援における一考察　－子育て支援セミナー参加者に対するアンケートの分析より－	共著	2012年3月	洗足論叢 第40号 (6ページ)	平成23年5月に行われた子育て支援セミナーに参加した参加者よりアンケートを集計し、子育て支援の在り方について検討した。その結果、教育機関であるという特性を活かし、専門的な立場から地域における育児負担感を軽減することの必要性が浮き彫りになった。(共同研究により抽出不可、プログラム内容および方法の執筆)

幼児の体力向上に関する基礎研究 －S幼稚園児の足蹠測定と生活アンケート結果の関連－	共著	平成24年3月	洗足論叢 第40号 （8ページ）	幼児の体力向上に資する保育内容の提言にむけての基礎資料を得るために、川崎市のS幼稚園児を対象に、足蹠測定と、保護者への生活アンケートを実施し関連を考察した。①土踏まずの形成は年齢が上がるごとに進んでいること、②生活習慣では良い睡眠習慣が形成されていること等が認められたが、多くの生活習慣と土踏まずの形成の関連には顕著な相関は見出せなかった。一方、子どもの運動量の認識に保護者と担任教師間に差が見られたことなど、今後の研究への視点が見出された。（共同研究のため抽出不可、足跡測定・分析および研究背景・方法の一部の執筆を担当）
保育者養成校における体育授業に求められる課題について　～幼児教育保育科学生の体力の現状より～	単著	2011年2月	洗足論叢 第39号 （7ページ）	幼児教育保育科に在籍する女子学生650名を対象に新体力テストと背筋力測定を行い、体育授業における課題を明確にすることを目的とした。体力テストの結果は、全国平均とほぼ同等であったが、背筋力は育児に適応できるとされる値に達しておらず、体幹の筋力向上が課題であることが明らかとなった。（pp.15～21）
（その他・学会発表等）				
子どもが「自由時間にやりたいこと」とその生活関連要因の検討 ―世田谷区の悉皆調査の結果を基に―	共著	2018年3月	日本発育発達学会 第16回大会	世田谷区の公立小学校に在籍する3～6年生14911名を対象とした．「自由時間にやりたいこと」は，からだを動かして遊ぶと答えた児童が多く，高学年になるにつれ，携帯電話・スマートフォン・タブレット・パソコンを使うが多くなった．生活関連要因とでは，からだを動かして遊ぶと答えた児童は日常で外遊びをすると答える割合が高く，日ごろおこなっていることがやりたいことにつながることが考えられた．
体力の感覚的判断と背筋力との関連につい	単著	2017年8月	日本体育学会 第68回大会	女子短大生584名を対象に，体力に対する自信と背筋力との関連を2011年と2016年の比較から検討することを目的とした．背筋力の平均値は2016年が有意に低値を示した．体力に対する自信について，いずれの年も「ある」「ふつう」「あまりない」と答えた割合は変わらなかった．これらのことから，背筋力の有無は体力の自信とは関係がないが，相対的な割合が変わらないことから，周囲との比較によって自信につながっていることが明らかとなった．
保育科学生における体格と体力・アンケート調査結果との関連　～やせ傾向の学生に着目して～	単著	2017年3月	日本幼少児健康教育学会　第35回大会	保育科学生284名を対象に、体重・体脂肪・体力テスト・アンケート調査を実施した。その結果、BMI18.5未満、体脂肪率20%未満に該当する者は、35名だった。やせ傾向の者と普通以上の者とでは、体力テストの結果に差はなかったが、テレビ視聴時間が長く、気持ちの集中と粘り強さが低いことが示された。さらに、やせ傾向の者を、低体重、低体脂肪、両方ともに低い、とに分けたところ、低体重の者は他の者よりも握力・背筋力が有意に低いという結果を示した。

女子短期大学生における持久走と感情・意欲との関連について	単著	2016年8月	日本体育学会 第67回大会	女子短大生1240名を対象に、持久走の測定ととアンケート調査を実施した。その結果、持久走タイムが速い方が、「健康である」「体力がある」と感じる割合が高く、意欲や行動力が高いことが示された。また、粘り強さや人付き合いといった外へ働きかける力も高いことが明らかとなり、持久走の測定は、個人の意欲や行動力、自信のバロメータとなることが考えられた。
女子短大生における背筋力・BMI・体力テストの関連について	単著	2016年3月	日本幼少児健康教育学会　第34回大会	女子短大生1330名を対象に、背筋力と体重、体力テストを実施し、それらの関連を調査した。その結果、背筋力指数(背筋力/体重)1.5以上であっても、BMIが低いとパワー系の種目が有意に低いことが示された。背筋力指数1.5未満の者は、BMIが低いとパワーが、BMIが高いと体を移動させる種目が低いことが示された。これらのことから、背筋力指数に合わせ、BMIも含めた体力の検討が必要であることがわかった。
S幼稚園における幼少児の土踏まず測定と生活アンケート結果の分析	共著	2016年3月	日本幼少児健康教育学会　第34回大会	S幼稚園児を対象に、土踏まずの測定と生活に関するアンケート調査を3年間縦断的におこない、在園中に土踏まずができた幼児を分析した結果、早寝・早起き、活発な身体活動をよくする、母親と運動遊びをよくおこなう、保護者と運動に関する話題をよくする、という項目において、他の群との間に有意な差がみられた。幼児期には、運動への興味を促す家庭環境が必要であり、実際に活発な身体活動をおこなうことが土踏まずの発達を促すものと考えられた。
The relation between back strength, mental action and lifestyle in S-college students	単著	2015年8月	第20回東アジア運動・スポーツ科学学会	S短期大学の女子学生266名を対象に、背筋力や上体起こしの向上が意欲や自信にもたらす影響について検討した。その結果、背筋力や上体起こしの向上にともなって、スポーツの嗜好や意欲、自信における項目が良い傾向を示した。また、背筋力値が高い方が、スポーツの嗜好、意欲、自信における項目が高くなり、筋力の維持・向上と精神的な要素との関連が明らかとなった。
土踏まずの形成を促す生活要因について	共著	2014年12月	第34回 子どものからだと心・全国研究会議	幼児期の土踏まずの発達要因を探るため、土踏まずが形成されている子どもの生活の特徴を検討した。その結果、「活発にからだを動かす活動をよくする」「食事をよく食べる」「母親と一緒に運動遊びをおこなう」「父親が運動をおこなう」「保護者と運動に関する話題をする」というアンケート項目に関し、形成群と未形成群との間で有意な差をみることができ、生活の中に運動があることが望ましいと考えられた。
A Study of the Respiratory rate time and the Tidal volume in the Long breathing exercise method	共著	2014年8月	The 19th Annual Congress of East Asia Sport Exercise Science Society	操体呼吸法における呼吸時間と換気量について検討することを目的とした。その結果、熟練者において、足芯呼吸において吸息時間が長くなることによって換気量が多くなった。運動終了後に呼吸時間の延長と換気量に増加がみられた。ゆっくりとした呼吸をすることによってこれらの減少がみられたと論じた。

Detecting a Different of the Skill Level during the Long Breathing Exercise Method by Expiration Gas Analysis (操体呼吸法時の呼気ガス分析による熟練度の相違について)	共著	2014年3月	Journal of International Society of Life Information Science	操体呼吸法時の呼吸量やリズムについて、熟練者と初心者とを比較検討した。その結果、熟練者は、足芯呼吸時に呼息と吸息とをコントロールし、ゆっくりと深い呼吸が出きていることから動作と呼吸の調和をはかっていることが考えられた。
からだの発育に必要な運動遊びと生活スタイルについて　～S幼稚園における土踏まずの有無と体力テストの関連から～	共著	2012年3月	日本発育発達学会 第10回大会 名古屋学院大学	神奈川県川崎市のS幼稚園に在籍する年長児を対象に、体力テスト(25m走、立ち幅跳び、テニスボール投げ、後方両手両足走、両足連続跳び越し)と土踏まず測定を実施し、その結果から効果的にからだの発育を促す運動遊びを提案することを目的とした。体力テストのいずれの種目に関しても土踏まずあり群の方が良い傾向が示され、全身の巧みな動きを伴う運動遊びと日常の歩行量を確保することが必要であると考えられた。
子どもの身体能力を高める遊びの提案 ―S幼稚園における保育条件と生活アンケートより―	共著	2012年2月	日本幼少児健康教育学会 第30回記念大会 東京理科大学	本研究は神奈川県S幼稚園において2011年に実施した足蹠測定、生活アンケート及び運動能力測定から、幼児の身体能力向上に資する保育内容の提案にむけての基礎資料を得ることを目的としたものである。神奈川県教育委員会の報告と比較した調査結果と「広さが十分ではない園庭」と「自由遊びが主活動」という保育条件から、S幼稚園に対し遊び場所の工夫、広さに制限のある場所における遊び方の工夫、保育者の子どもの遊び観察の実施、の3点を提案した。
体育実技授業における体幹筋力向上の効果について　～保育者養成校の女子学生を対象として～	単著	2011年12月	第33回 子どものからだと心・全国研究会議	保育者養成校であるS短期大学女子学生を対象に上体起こしと背筋力の測定から授業内容を再考することを目的とした。上体起こしは向上し、背筋力は元々測定値の低い者のみ向上がみられた。現在の授業内容では、筋力の低い者に対しては筋力の向上が期待できるが、個々に対する負荷には差があることが確認された。
Making of the evaluation standard of the lactate training test in the university cross-country skier	共著	2011年8月	第16回 東アジア運動・スポーツ科学学会	大学クロスカントリースキー選手を対象にしたLTテストは、雪上における競技力を予測することが可能であることを明らかにし、LLTPとHLTPの値からパフォーマンスの評価基準を作成することができた
アレルギー疾患を罹患している男子生徒のコンディショニングに関する一事例　～簡易血液測定を利用して～	共著	2010年12月	第32回 子どものからだと心・全国研究会議	陸上競技をおこなっているアトピー性皮膚炎と喘息を罹患している18歳男子生徒に対し、コンディショニングをおこなった事例を報告し、客観的指標の有効性を検討した。

（社会的活動・講演、学会における役職等等）				
川崎市幼稚園協会　幼稚園教諭免許状更新講習会		2016年9月		
川崎市保育会　夏季研修会		2016年7月		
日本幼少児健康教育学会　第35回大会大会組織委員		2016年4月～		平成29年3月に開催される学会大会まで委員としての任務にあたる
川崎市幼稚園協会　幼稚園教諭免許状更新講習会		2015年9月		
川崎市保育会　夏季研修会		2015年7月		
横浜マーチャンダイジングセンター　社長会健康・体操についての講習会講師		2015年6月		
川崎市幼稚園協会　幼稚園教諭免許状更新講習会		2014年9月		
川崎市保育会　夏季研修会		2014年7月		
川崎市幼稚園協会　幼稚園教諭免許状更新講習会		2013年9月		
川崎市保育会　夏季研修会		2013年7月		
川崎市幼稚園協会　新任教諭研修会		2011年11月		
川崎市保育会　夏季研修会		2011年7月		
洗足こども短期大学、保育・子育て研究所『子育てコンパス実践編』セミナー		2011年5月		
川崎市保育会　夏季研修会		2010年7月		
「脳を鍛えて健康生活～ワクワク！ドキドキ！キラリ！」		2010年2月		洗足学園大学附属幼稚園

教　育　研　究　業　績　書

２０１８年５月１日
氏名　柳井　郁子

著書･学術論文などの名称	単　著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概　　要
（著書）				
『ジェンダーフリー・性教育バッシング　そこが知りたい50のQ&A』	共著	2003年12月	大月書店（152ページ）	男女混合名簿、夫婦別姓に関するQ&Aを執筆した。男女混合名簿では学校のなかのかくれたカリキュラムが性役割の固定化、性に関する規範の浸透につながることを論じた。夫婦別姓に関しては、別姓が家族の崩壊を招くという批判の背景にある、「家」制度や性別役割分業を志向する家族観を問い直す必要があることを提起した。（pp.88～92）
『フィンランドにおける性的ライフスタイルの変容―3世代200の自分史による調査研究』（翻訳）	共著	2006年6月	大月書店（280ページ）	「第2章　子ども期」を担当。20世紀に大きく変化したフィンランドの性文化を人々の自叙伝という質的調査と、同時期に行われた統計調査とを照らし合わせて構造的に把握することを試みている。自叙伝などの分析から世代間の性に関する態度や行動、意味付けの違いを、それを変容させる大きな歴史的変化という文脈のなかに位置付け、3世代モデルを導き出している。（pp.38～54）
『はじめて学ぶ乳児保育』（コラム6担当）	共著	2009年4月	同文書院（187ページ）	保育士養成課程の学生向けに、保育所に子どもを通わせている家庭の様子を具体的に記し、子育てをしている家庭が抱える困難について記した。そのうえで、保育者による子どもや保護者への丁寧なかかわりの大切さや、家庭へのどのような支援が必要かを記述した。また、子どもが豊かな人間関係の中で育つことの大切さを指摘し、保育者の役割、保育所での集団保育の意義を論述した。（pp:94～97） 志村聡子　編著 吉長真子・藤枝充子・渡邊美智子・坂田知子・塩崎美穂・柳井郁子・小柳康子・宇都弘美　著
『青年の社会的自立と教育－高度成長期日本における地域・学校・家族-』（第Ⅳ部第２章「家族計画運動と炭鉱労働者家族の子ども観」担当）	共著	2011年2月	大月書店（384ページ）	第Ⅳ部第２章「家族計画運動と炭鉱労働者家族の子ども観」を執筆。 戦後における青年の社会的自立と教育というテーマのもと、拙稿「1950年代における家族計画運動と労働者家族の子ども観」を加筆修正した。1950年代の家族計画運動は、家族側の事情と企業側の労務管理の指導との利害が一致したところで、急速に受け入れられていった。その上で、少なく産まれた子どもたちに手厚い教育を受けさせていくという家族戦略が、時代状況に対応して徐々に受け入れられていったことを明らかにした。（pp:298-314） 著者：橋本紀子・木村元・小林千枝子・中野新之祐・柳井郁子 他5名

『はじめて学ぶ乳児保育（第二版）』（コラム7担当）	共著	2018年3月	同文書院 （203ページ）	保育者を志す学生向けに、保育の場での子どもの育ち、保護者の成長について記した。また、園生活を通じて子どもが保育者や園児たちとの関係を構築し、親も保育者や保護者とのかかわりをもつことは豊かな園生活のために大切であることを述べた。保育所での経験が子どもと保護者それぞれにどのような影響を及ぼすのか、そこで保育者に期待される役割とは何かについて論じた。（pp:122-126） 志村聡子　編著 吉長真子・藤枝充子・渡邊美智子・坂田知子・塩崎美穂・柳井郁子・小柳康子・宇都弘美　著
（論文）				
「昭和戦前・戦中期における家庭教育論に関する考察―日本両親再教育協会機関誌『いとし児』の分析を中心として―」	単著	1996年3月	東京大学大学院 教育学研究科修士論文 （89ページ）	子どもの発達を阻害しかねない超早期教育への傾倒、その一方で幼児虐待の増加といった今日の家庭での教育における様々な問題を相対化するために、家庭教育の歴史的変遷の一端を明らかにすることを試みた。1928年に設立された日本両親再教育協会の機関紙『いとし児』の分析を通して新中間層の子育ての実像に迫り、現代的子育ての源流をそこに見出せることを明らかにした。
「中教審答申における「家庭」―「家庭の教育力」をめぐって―」	共著	1997年3月	民主教育研究所編 『人間と教育』13号 労働旬報社 （9ページ）	家庭の「教育力低下」の背景には、これまで企業中心社会の基盤として過重な負担を強いられてきた家族が地域社会の連帯の希薄化や女性の社会進出といった変化のなかで機能不全に陥っているという状況があることを指摘した。さらに今後は、「家族だのみ」の社会保障制度を改め、子どもの権利保障を最優先課題にしながら、育児資源となる社会的基盤を整備していくことが課題であることを示し、それは経済論理優先の社会システム全体の見直しへとつながるものであることを論じた。（共同研究につき抽出不可） （高橋美紀・柳井郁子著）
「ドイツにおける育児支援の動向―育児の社会化への展望―」	単著	1997年6月	『東京小児科医会報』 vol.16 No. 1 （6ページ）	ドイツにおける保育制度と家族政策・育児支援について整理し、保育政策や家庭・育児支援政策における今後の課題を指摘している。保育の社会化を推進するためには、家族や企業社会のなかでのジェンダー関係を見直す必要があるが、その際、社会保障制度における「補充性（補完性）原則」をどう解釈していくかが問題であり、家族・市民社会・国家が保育機能の担い手としていかに連帯するかが模索されねばならないことを論じた。（pp. 20～25）
「明治期高等女学校教育における教育科・家事科の位置―文部省例規類纂を用いて―」	単著	1997年8月	東京大学大学院教育学研究科　教育学研究室 『文部省例規類纂の研究』 （11ページ）	高等女学校の教育内容において、家庭教育の担い手としての賢母育成がどのように計画されていたのか、家事科教育はいかなる理念のもとに行われていたのかを、文部省例規類纂を手がかりに考察した。文部省の側では高等女学校を女教員養成機関としてよりもむしろ賢母育成の機関として位置付けていたこと、家事科教育の内容として、既に明治30年代に科学的知識に基づく家事教育がなされようとしていたことを明らかにした。（pp. 132～142）

「1950-60年代における企業による家族管理—新生活運動の展開に即して—」	単著	2002年3月	『東京大学大学院教育学研究科紀要』第41巻（9ページ）	企業で展開された新生活運動に注目し、すでに1950年代において企業は、労働者だけではなくその家庭をも管理の対象として位置づけ、妻の労働力再生産をいかに向上させるかに高い関心をもっていたこと、そこで提示された家族モデルは性別役割分業を基盤としていることに加えて、夫を通じて企業に貢献する妻、さらにはそれを通じて社会に寄与する妻というあり方を要求するものであったことを明らかにした。さらに、このような企業の労務管理策が労働者家族の教育意識にも変化をもたらすものであったことを論じた。（pp. 106～115）
「昭和戦前期における両親再教育運動と家族のおこなう教育—日本両親再教育協会機関誌『いとし児』を中心に—」	単著	2003年2月	女子栄養大学栄養学部教育学研究室『教育学研究室紀要—＜教育とジェンダー＞研究—』（14ページ）	両親再教育協会が昭和初期に設立され、機関誌『いとし児』を中心とした運動が展開された背景には、一つには、子どもの教育に熱心な新中間層の存在があった。そしてもう一つの背景として、新しい家庭像・主婦像の影響を受けた母親の存在があった。これらを背景としてこの時期、知能、成績、早期教育などが子育ての問題として取り上げられるようになり、新しい育児法や育児知識の習得に積極的な母親が増加した。両親再教育協会の運動はそうした家族の教育要求に応えるものであったことを明らかにした。（pp.35～48）
「ジェンダーと教育－ジェンダー視点からみた教育統計を中心に－」	共著	2005年3月	『教育学研究』第72巻第1号（10ページ）	家庭教育領域におけるジェンダー統計の現状について、第一に家庭でのジェンダーの再生産への着目がなされているか、第二に家庭生活において子どものジェンダー・アイデンティティがいかに形成されるのかを明らかにする統計がとられているかという点を考察した。また、家庭教育領域におけるジェンダー統計の今後の課題についても検討した。（pp..88～89）
「1950年代における家族計画運動と労働者家族の子ども観」	単著	2006年3月	『洗足論叢』No.34（2005年度）（11ページ）	日本家族計画普及会が発行した『家族計画』や、常磐炭鉱における家族計画運動の報告書等を資料とし、常磐炭鉱の家族計画運動がいかなる目的のもと行われ、そこで労働者家族に起こった変化とはいかなるものであったかを考察した。常磐炭鉱の労働者家族にとっての家族計画はまずは経済上の理由から行われたが、そこには教育家族的な「少なく産んでよりよく育てる」という教育への関心が芽生えていたことを明らかにした。（pp. 63～73）
「家庭教育振興政策下の家庭教育論－大日本連合婦人会『家庭』を手がかりに」	単著	2007年3月	『洗足論叢』No.35（2006年度）（15ページ）	1930年に創設された大日本連合婦人会（以下、連婦）において展開された家庭教育論を、機関誌『家庭』を主な史料として考察した。昭和戦前期から戦時期にかけての連婦における議論と運動の展開について、次第にその主題が家庭教育論から「婦人の修養」論へと置き替えられていったこと、その修養論とは「家庭生活」と「家庭教育」という二つの場で「生活に即した」「修養」と「奉仕」を実践するべきことを説くものであったことを明らかにした。（pp. 69～.83）

「1950-60年代における親の幼児教育意識」	単著	2015年2月	『洗足論叢』 第43号 （洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学） （11ページ）	家庭教育雑誌『母の友』及び家庭教育意識に関する調査の検討を通して、1950－60年代の親の幼児教育意識について考察した。考察を通して、幼稚園普及にしたがって幼稚園での幼児教育の発達的意義が次第に親たちに理解されるようになり、幼児期の社会性や自立心を育てるといった幼児教育の目標は親たちにも受容されるようになっていった様相を描き出した。また、幼児教育の意義を認めつつも、親の教育要求は学校教育でよい成績をとる、あるいは高い学歴を獲得するといった志向性をもつものであったとい うことを明らかにした。 （pp:153～163）
「保育者養成校初学者における子ども理解：詩的表現の試み」	共著	2018年2月	『洗足論叢』 第46号 （洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学） （12ページ）	子ども理解について、第一に保育の実践研究として保育の中で起こっていることをどのように観察し記録するかという問題、第二に観察者と子どもとの関係性について、そして、第三に子ども理解における主観性の問題に注目し、それぞれの論点について先行研究を整理した。そのうえで、平成28年度S短期大学1年前期に実施した幼稚園半日体験において、学生自身の体験の振り返りを詩的表現によって記録することを試みる意義について論じた。 （共同研究につき抽出不可：問題関心と課題設定及び先行研究の整理に当たる部分を担当） 著者：金允貞・岡本かおり・桃枝智子・柳井郁子
（報告書）				
「今日の子どもの変化をめぐる保育者の意識―保育者にとって「気になる」傾向を手がかりに ―」	共著	1997年10月	平成8年度東京大学教育学部特定研究『乳幼児の変化と保育・育児の課題―臨床的育児・保育研究およびアンケート調査を中心に』平成8年度東京大学教育学部特定研究報告書（研究グループ代表 汐見稔幸） 子どもの変化と学校教師の課題（その2） （124ページ）	保育の現場で、保育者にとって「気になる子」とはどのような子なのか。このことを明らかにするため、東京23区の公立保育園50園を対象に保育者の意識をアンケートによって調査した。その結果として、「気になる」子どもの傾向として、身体性、対人関係、精神面での不安定傾向に関する指摘が多いこと等を明らかにした。（共同研究につき抽出不可） （高橋美紀・柳井郁子著,データ分析・考察・論文執筆ともに両者でおこなった。）
「各領域のジェンダー統計の生産状況と必要統計―家庭教育領域―」	単著	2004年8月	日本教育学会 課題研究「ジェンダーと教育」研究委員会報告集『ジェンダーと教育』 （5ページ）	家庭教育に関する男女別の統計は、政府機関よりも地方自治体と民間機関によって、より詳細に行われており、特に性別役割分集意識や子育てにおける「男らしさ」「女らしさ」など、ジェンダーの平等の問題そのものを問う統計は、全国的な統計では十分ではないことを指摘した。 必要統計としては、さまざまな男女別のクロス集計が考えられる。それにより、子どもの育ちにおける性差と家庭環境の関連を検討し課題を明らかにしていく必要があることを提起した。（pp. 35～39）

（口頭発表）				
第40回教育史学会、学会発表 「昭和戦前・戦中期における家庭教育論の展開―日本両親再教育協会『いとし児』の分析から―」	単著	1996年9月	教育史学会 第40回大会	日本両親再教育協会の機関紙『いとし児』における家庭教育論が戦時下にどのような展開を見せるのかを考察した。その結果明らかとなったのは、『いとし児』が戦時下においてなお、児童研究の成果を積極的に取り入れ子どもの心理や個性に注目し続けたということである。本誌は、むしろ大正期における子ども本位の家庭教育論流れを基本的には継承しており、その上に科学性・合理性への指向をさらに明確に打ち出していったことを論じた。
第42回教育史学会、学会発表 「家庭教育振興政策下の婦人団体―大日本連合婦人会の動向を中心に―」	単著	1998年10月	教育史学会 第42回大会	家庭教育は、国家や社会からの影響を絶えず受け近代以降大きく変化してきたが、国家が家庭教育振興を目指したとき、そこでのイデオロギーとはどのようなものであったのか。このことを明らかにするために、昭和5年創設の大日本連合婦人会における家庭教育論を検討した。 機関紙『家庭』を分析し、その主題が家庭教育論から婦人の修養論へと移行したこと、その家庭教育振興策の内実は第一に母性の修養にあったこと等を明らかにした。
第62回日本教育学会、学会発表 「男女共学制度下の学校におけるジェンダーフリー教育の実践と課題」	共著	2003年8月	第62回 日本教育学会	男女共学論の質的な深まりを男女共学と男女平等教育との関連を軸にとらえた。また、「女子教育」からジェンダーフリー教育への展開とその後の女性学教育やフェミニズムの視点から取り組まれてきた実践を含んだジェンダーフリー教育の広がりを検証し、ジェンダーフリー教育の展開を整理した。 今後の課題として、親の意識や子どもの生活実態を把握した教材づくりが求められていることを示した。（橋本紀子・井上恵美子・水崎富美・田代美江子・柳井郁子・中嶋みさき）
第63回日本教育学会、学会発表 「ジェンダーと教育―ジェンダー視点からみた教育統計を中心に―」	共著	2004年8月	第63回 日本教育学会	既存の教育に関する統計において、ジェンダー視点が学校・社会・家庭でどれだけもたれているのかといった点を中心に、その現状を把握し、今後の課題を明らかにした。具体的には、男女の関係構造をあらわしたジェンダー統計の教育領域における全体動向の把握と教育の各領域におけるジェンダー統計の現状を分析し、今後期待される必要統計や統計生産のための課題について提起した。 （橋本紀子・井上恵美子・柳井郁子・中嶋みさき・廣田健・艮香織・森政淳子）
「赤ちゃんの泣きと保育環境・方法に関する研究(7)-乳児保育実践史から-」	共著	2007年5月	日本保育学会 第60回大会	乳児保育実践を振り返る史料として、保育現場でよく読まれてきた保育雑誌『幼児と保育』（小学館、1955年4月創刊）を分析した。いつ乳児保育は雑誌上で語られ始めるのか、そして、そこに現れる赤ちゃん観、「泣き」観はどのようなものか、乳児の保育カリキュラムが意識的に語られるようになるのはいつどのようにかを明らかにした。（塩崎美穂・星三和子・柳井郁子・勝間田万喜・大川理香）

（その他）				
辞典項目執筆： 「学校外教育」「家庭教育」「家庭教育学級」「家庭訪問」「帰国子女教育」「公民館」「国際理解教育」「子ども劇場」「子ども文庫」「在外日本人学校」「社会教育」「地域異年齢集団」「地域の教育力」「PTA」「病院内学級」「訪問教育」「幼児教育」「幼稚園」		2002年4月	柏女霊峰他編『子ども家庭福祉・保健用語辞典』資生堂社会福祉事業財団（301ページ）	それぞれの項目について、基本概念や歴史的経緯を整理すると同時に、文部科学省や厚生労働省の最近の動向、各分野での学術レベルでの議論をふまえて論述し、教育学的視点から今後の展望を述べた。
「解題：藤井治枝著『これからの女性と女子教育—社会進出時代の女子教育の見方考え方—』」	単著	2005年5月	『「現代女子教育文献集」解説』,日本図書センター（5ページ）	1969年に出版された『これからの女性と女子教育—社会進出時代の女子教育の見方考え方—』について、その意義を検討した。本書は、当時の女子教育の課題を知ることができるだけではなく、その後の女子教育や女子労働論、ジェンダー論で論じられることになる枠組みをすでに提示しているという点でその先見性を示していることを指摘した。（pp. 169～173）
「解題：奥山えみ子編『共働きのもんだい』」	単著	2005年5月	『「現代女子教育文献集」解説』 日本図書センター （5ページ）	1971年に出版された『共働きのもんだい』について、その意義を検討した。本書の提起する家事・育児の家庭内での分担と労働時間の短縮は、今日の政策課題とされる家事労働と雇用労働との間のジェンダーフリーなワークシェアリングの前提条件となるものであるが、今もなお女性労働者を取り巻く現実は厳しいものであり、本書で示された課題は引き続き女性だけではなく男性をも含めた労働者全体の連帯によって達成がめざされるべきものであることを指摘した。（pp. 199～203）
「私の推薦図書」	単著	2012年7月	洗足学園音楽大学 附属図書館 洗足こども短期大学 附属図書館 （8ページ）	学生向けに、堀尾輝久著『教育入門』（岩波書店、1989年）を紹介した。初版から20年を経てもなお、本書が指摘する「「過剰な教育」のもとでの教育不在」という問題状況は改善されておらず、教育現場での子どもの権利思想の実現についても多くの課題を抱えている。「学ぶっておもしろい」「わかるって楽しい」という子どもたちの実感をともなう学びとはどういうものなのか、そしてそれはいかにして実現可能なのか、といった本書の提起するテーマの今日的意義を指摘した。（p.1）

教　育　研　究　業　績　書

２０１８年５月１日
氏名　堀　純子

著書･学術論文などの名称	単　著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概　　要
(著書)				
幼児の健康と運動遊び	共著	1999年4月	保育出版社 (226ページ)	幼稚園教諭･保育士をめざす学生に対し、幼児期における健康と運動遊びの重要性を提唱した教科書として編集された。幼児の「生活習慣の自立」を食事･排泄･清潔一睡眠･衣服の着脱について、自立の目安をあげて概説した。 3章4節(pp.45～46) 宇土正彦監修　畠山倫子編集 堀純子他44名分担執筆
保育のための小児保健	共著	2001年4月	保育出版社 (238ページ)	保育の現場で実際に役立つような小児保健の知識と考え方を習得できる本を目指して編集された。新生児期、乳児期、幼児期の「運動機能の発達」について担当し、先行研究だけではなく、写真を載せ、具体例をあげて、わかりやすい解説になるよう工夫した。 6章2-4節(pp.81～87) 高内正子編著 堀純子他28名分担執筆
子育て支援における保健相談マニュアル	共著	2007年6月	日本小児医事出版社 (320ページ)	保育園の子育て支援という役割の重要性に基づき、保護者向けのパンフレットの部分と保育士として現場で必要な保健知識の部分の二つより構成されている。「子どもの心の健康のためのコーチング」を担当し、「1.ベビーマッサージ、2.情緒の発達とペット、3.子どもの心をつかむ聴き方・話し方、4.心の健康を守るために心がけること」について写真や図を用いてわかりやすく記述した。 48(pp.285～288)田中哲郎監修 堀純子他41名分担執筆
小児保健実習	共著	2008年3月	株式会社みらい (198ページ)	保育士養成校の小児保健実習の教科書として、保育士が現場で必要な内容を最新の情報に基づいてワークやコラムなども盛り込んで編成されている。 「保育における健康観察」について、「発育の観察」と「生理、感覚、運動、精神機能などの発達の観察と評価」を担当した。 2章4-5節(pp.24～42) 中根淳子，服部右子編 堀純子他9名分担執筆
子育て支援における保健相談マニュアル 改訂版	共著	2009年9月	日本小児医事出版社 (321ページ)	保育園の子育て支援という役割の重要性に基づき、保護者向けのパンフレットの部分と保育士として現場で必要な保健知識の部分の二つより構成されている。48「子どもの心の健康のためのコーチング」を担当し、「1.ベビーマッサージ、2.情緒の発達とペット、3.子どもの心をつかむ聴き方・話し方、4.心の健康を守るために心がけること」について写真や図を用いてわかりやすく記述した。(pp.286～289) 田中哲郎監修 堀純子他41名分担執筆

心とからだを育む子どもの保健Ⅰ	共著	2012年2月	保育出版社 （192ページ）	保育の現場で実際に役立つような子どもの保健の知識と考え方を習得できる本を目指し、「小児保健」から「子どもの保健」への名称変更に伴い、改編された。6章1-2節「子どもと運動機能の発達」「運動発達の方向性」について担当し、写真とともに各月齢・年齢における具体例を挙げて、体を動かして遊ぶことで体の機能の発達が促されることについて、わかりやすい解説になるよう工夫した。（pp.65～69） 高内正子編著 堀純子他39名分担執筆
演習　子どもの保健Ⅱ	共著	2012年5月	株式会社みらい （226ページ）	保育士養成校の子どもの保健（演習）の教科書として、保育士が現場で必要な内容を最新の情報に基づいてワークやコラムなども盛り込んで編成されている。 2章「保育における健康観察」について、4節「発育の観察」と5節「生理、感覚、運動、精神機能などの発達の観察と評価」を担当した。健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作りだす力を養うことの重要性についての解説などをした。（pp.30～49） 中根淳子，服部右子編 堀純子他9名分担執筆
子育て支援における保健相談マニュアル 改訂第3版 保護者用パンフレットCD付	共著	2013年3月	日本小児医事出版社 （407ページ）	保育園の子育て支援という役割の重要性に基づき、保護者向けのパンフレットの部分と保育士として現場で必要な保健知識の部分の二つの構成は変えずに、内容を追加、編集を変更した。園で実際に保護者に配布できるようにCD版が同封された。「第Ⅷ章 育児に必要な知識12子どもの心の健康のためのコーチング」について担当した。（pp.372～374） 田中哲郎監修 堀純子他48名分担執筆
心とからだを育む子どもの保健Ⅱ（演習）	共著	2013年3月	保育出版社 （142ページ）	子どもに親しみをもてるような保健演習を通して、保育者養成校にて「子どもの保健Ⅱ」を学ぶために編集された。2章2節「胎児の成長と母親の健康診査」（1.不妊外来と不妊治療の在り方、2.胎児期の母子の健康な成長の在り方）について担当した。乳幼児期の健康は母親の健康状態からも影響を受けており、それは出生後から始まるのではなく、胎児期から始まっていることなど、母子保健について認識を深める内容とした。（pp.22-23） 高内正子編著 堀純子他33名分担執筆
保育者養成課程　子どもの保健Ⅱ	共著	2013年10月	光生館 （184ページ）	保育士養成課程カリキュラムの変更に伴い、「小児保健実習」の内容を改正した「子どもの保健Ⅱ」（演習）のテキストとして刊行された。2章「子どもの保健と環境」（1.保健における養護と教育の一体性、2.子どもの健康増進と保育の環境、3.子どもの生活習慣と心身の健康、4.子どもの発達援助と保健活動）について担当した。（pp.22～52） 志賀清悟編著 堀純子他9名分担執筆

保育者養成シリーズ　子どもの保健Ⅰ	共著	2014年3月	一藝社 （213ページ）	保育者養成校で「子どもの保健Ⅰ」を学ぶために必要な事項をわかりすくコンパクトにまとめた本である。第3章「小児の発育と発達」（第1節　発育と発達、第2節　発育と発達の様子　第3節　発育・発達と保育）および、第15章「母子保健対策と保育」（第1節　母子保健と子ども　第2節母子保健に関するわが国の現状　第3節　母子保健対策）を担当した。（pp.38～47、pp.200～210） 林邦雄・谷田貝公昭監修 加部一彦編著 堀純子他9名分担執筆
現場のエピソードに学ぶ保育士受験対策講座　子どもの保健　（三幸保育カレッジ）	共著	2016年10月	株式会社 日本教育クリエイト （112ページ）	保育士受験対策講座で使用するテキストとして編集されたシリーズ。第2章「子どもの発育・発達と保健」、第3章「子どもの疾病と保育」、第4章「子どもの精神保健」、第5章「環境および衛生管理並びに安全管理」を担当した。心と体の健康は相互に密接な関係があること、自分の体を大切にしようとする気持ちが育つような保育者の働きかけが重要であること、子どもの情緒の安定を図りながら、遊びを通して安全について学ぶようにすることについて理解を深められるような内容にした。（pp.21～43、pp.45～64、pp.67～75、pp.77～84） 吉田眞理監修　宇佐美かおる編　堀純子 宮川萬寿美　内山有子著
（学術論文）				
教育実習の実態調査 －実習における実習生の生活実態と課題－	共著	2007年3月	洗足論叢 第35号	1年次の教育実習において多様化する幼稚園の考え方や保育方法と、学生の実態を把握し、今後の教育実習指導に生かすための課題を見出した。 坪井葉子，堀純子 第35号（平成18年度）: pp.135～143
教育実習の実態調査 －2年次実習における課題－	共著	2008年1月	洗足論叢 第36号	2年次の教育実習について1年次との比較検討から2年次の教育実習のあり方や課題について検討した。 堀純子，坪井葉子 第36号（平成19年度）: pp.191～200
教育実習における自己評価 －実習指導の課題を探る－	共著	2009年1月	洗足論叢 第37号	2年次の教育実習について、これまでの実態調査に加えて、学生自身の自己評価の結果から実習指導の課題について検討した。 堀純子、坪井葉子、大條あこ 第37号（平成20年度）:pp. 281～298
教育実習の課題 －実態と自己評価から課題を探る－	共著	2010年1月	洗足論叢 第38号	平成17年度から継続して行っている教育実習の実態調査から、学生の実習に望む態度の変化として、準備不足や自己分析能力の低下の可能性が示唆された。 坪井葉子、堀純子 第38号（平成21年度）: pp.189-210
保育士に求められる 保健分野の知識・技術についての現状と課題	単著	2016年2月	洗足論叢 第44号 （13ページ）	「子どもの保健」の授業について改善を図るために、①「子どもの保健（演習）」の実技テストの結果から学生の現状を知り、②現役保育士を対象としたアンケートから、保育士が保健分野の知識や技術をどこまでどのように習得すべきかを検討した。演習形式であるから見えてくる問題点や保育士として現場で重要だと感じられていることが明らかとなった。（pp.187～199）

(学会発表：口頭・ポスター)				
小中学生の身長・体重月次データ5年間の解析	共同	1997年10月	日本学校保健学会	発育研究では横断的方法だけではなく、個人の月次データを時系列解析するという縦断的方法の重要性が指摘されてきている。しかし、長年にわたる短期間ごとの測定は困難であるうえ、進学を機にデータが途切れることも多い。本研究では5年間の連続した月次データが得られた小中学生について、その発育特性を調べた。 堀純子、岩城淳子、小林正子、東郷正美、衛藤隆
幼稚園教育実習の実態調査と実習指導の課題	共同	2009年5月	日本保育学会	幼稚園教育実習について、学生が記入した実態調査の結果、子どもとの関わりはできているが、個々への配慮を含む援助や指導的な関わりが難しいことを経験し、今後の課題として自覚できていることがわかった。学生自身が数値で達成率を確認する自己評価は、学生に自信を持たせる効果があると考えられた。 堀純子、坪井葉子、大條あこ
保育士養成校における 保健分野の技術取得状況と課題	単独	2014年11月	日本公衆衛生学会	保育士養成過程における「子どもの保健（演習）」科目の実技試験結果から、短期大学生の保健分野における技術取得状況を調べた。学生の資質が変化しているなかで、手順やポイントを習得できていないだけでなく、考える力や配慮に乏しいことに対する改善策が必要であることが明らかになった。
保育者に求められる保健分野の知識についての一考察	単独	2015年5月	日本保育学会	保育士資格取得の必修科目の1つである「子どもの保健」の授業内容について、現役の保育士が感じている実情を調べることで、現在、保育者に求められている保健知識を見直すことを目的とした。「乳児の養育方法」は実習前に習得が期待されることや、「感染症の知識」の重要性がわかり、また、保護者への対応には苦慮している様子も伺えた。
短期大学学生の保健体育に関する知識の現状と今後の課題	単独	2015年11月	日本学校保健学会	短期大学生が保健体育に関する知識をどの程度身につけているかは明確でない。今回の調査では、避妊方法、人工妊娠中絶や、妊娠、出産などについては認知度が高く、検診や病気、不妊や生殖補助医療などについては理解が不十分か知らない割合が高いことがわかった。学生生活最後であり、その後の妊娠・出産や子育て支援につながる学びの場という認識で内容を再考する必要があることがわかった。
保育所実習における保健分野の実践と学びについて	単独	2016年5月	日本保育学会	現役の保育士を対象としたアンケート結果から、現在、保育所で保育士に必要とされている保健知識を調べた。「乳児の養育方法」は実習前に習得が望ましく、「病気（特に感染症）の知識」が重要だと感じている保育士が多かった。保健分野においても、保護者に対応できる知識に加えて、思考力やコミュニケーション能力が必要不可欠であるということがわかった。

(その他：講演等)				
「子どもの中の世界/世界の中の子ども」 第10回 「子どものからだとスポーツ」	単独	1998年11月	1998年度 かがわ女性カレッジ	香川県主催のかがわ女性カレッジの講師を務めた。香川県民対象の公開講座のうちシリーズの一回を担当した。子どもの発育および運動発達と、スポーツを行う際に知っておきたいことについて解説した。
「食育 ～今、なぜ食育？家庭での食育とは？～」	単独	2006年11月	幼稚園児を持つ母親のための 「洗足会講演会」	洗足学園大学附属幼稚園主催の幼稚園児を持つ母親のための「洗足会講演会」の講師を務めた。食育に関心を持つ幼稚園児の母親を対象に、附属幼稚園での講演会を担当した。食を取り巻く現状や行政の取組みを紹介しながら、家庭での食育について考える内容とした。
「子どもの食生活 （①子どもの口の動き ②生活リズム ③子どもの角度から食事を考える）」	単独	2007年2月	多摩市栄養士 担当者部会 研修会	多摩市主催の多摩市栄養士担当者部会研修会の講師を務めた。多摩市の栄養士を対象とした研修会の一回を担当した。乳児期の哺乳と離乳食について口の動きに着目した内容と、生活リズムや子どもの角度から食生活を見直す内容とした。
「子どもの保健 （感染症の動向と予防接種 ・母子健康手帳の改正 ・生殖補助医療と出生前診断）」	単独	2013年7月	(財)川崎市保育会 職員夏季研修会	(財)川崎市保育会主催の職員夏季研修会の講師を務めた。「子どもの保健（感染症の動向と予防接種・母子健康手帳の改正・生殖補助医療と出生前診断）」について、（(財)川崎市保育会　職員夏季研修会）川崎市保育会の保育士を対象とした研修会の一講座を担当した。
「子どもの保健 （子どもの生活習慣とからだの変化 ・母子健康手帳の改正と母子保健情報 ・感染症の動向と予防接種の改正 ・子どもの事故を防ぐために）」	単独	2014年7月	(財)川崎市保育会 職員夏季研修会	(財)川崎市保育会主催の職員夏季研修会の講師を務めた。「子どもの保健（子どもの生活習慣とからだの変化・母子健康手帳の改正と母子保健情報・感染症の動向と予防接種の改正・子どもの事故を防ぐために）」について、（(財)川崎市保育会　職員夏季研修会）川崎市保育会の保育士を対象とした研修会の一講座を担当した。
「子どもの生活習慣とからだの変化を踏まえた課題について考える」	単独	2014年8月 2015年8月 2016年8月 2017年8月	公益社団法人 川崎市幼稚園協会	公益社団法人川崎市幼稚園協会主催の免許状更新講習の講師を務めた。担当項目「子どもの変化についての理解」のうち、「子どもの生活の変化を踏まえた課題」について、「子どもの生活習慣とからだの変化を踏まえた課題について考える」というテーマで「1．子どもの生活習慣とからだの変化、2．乳幼児健診、母子健康手帳と母子保健、3．感染症と予防接種、4．子どもの事故を防ぐために」を取り上げ、最新のデータや最近の話題を紹介しながら解説した。
短大見学会（オープンキャンパス）体験授業	単独	2013年8月 2014年8月 2015年8月 2016年7月 2016年8月	洗足こども短期大学 オープンキャンパス	短大見学会（オープンキャンパス）の大学講義体験授業（「赤ちゃんのお世話」）を担当している。
高校出張講義・高校生来校模擬授業	単独	2008年4月～	玉川学園高等部、 神奈川県立百合ヶ丘高等学校、 神奈川県立旭高等学校 他	高校への出張・高校生の来校により大学講義模擬授業（「赤ちゃんのお世話と保育者の仕事」 他）を担当している。

教　育　研　究　業　績　書

２０１８年５月１日
氏名　並木　真理子

著書･学術論文などの名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概　　要
（著書）				
「保育実践に生かす保育内容「環境」」	共著	2014年3月31日	保育出版社 （181ページ）	保育内容「環境」において必要な基礎・基本的な内容と現場での実践に役立つよう問題構成され、章ごとの事例問題や演習問題などを事前学習や事後学習として活用できる。 子どもが自然と関わる力を身に付けるための学びに関する「季節の変化に応じる」、ものや道具に関わる力を身に付けるための学びに関する「ものや道具を大切にする」「ものや道具を使って園生活を快適に過ごす」について執筆。監修：高井正子　編著：上中修 著者：中田範子、五十嵐淳子、須永進、並木真理子、他34名 （pp.56～57、pp.70～71、pp.74～75）
「実践　保育内容シリーズ４　言葉」	共著	2014年4月1日	一藝社 （169ページ）	保育における言葉とは何か、言葉の発達、言葉を育てる環境、言葉を育てる児童文化、言葉に関する諸問題、の5つの要素で構成されたテキスト。 「言葉を豊かにする保育環境」の章を担当し、言葉を育む保育者の役割や言葉がけにおける応答的関わりの重要性、保育室の環境が子どもに与える影響では子どもが言葉を獲得するための環境構成について執筆。 監修：谷田貝公昭　編者：谷田貝公昭　廣澤満之　著者：荒牧美佐子、後藤正矢、小林徹、並木真理子、西方毅、野尻美枝、廣澤満之、前田敬子、村上凡子、村木桂子、吉田貴子、米川泉子、和田美香 （pp.74～83）
「生活事例からはじめる保育原理」	共著	2015年4月1日	青踏社 （182ページ）	「保育」を学ぶための入門書として構成されたテキスト。全10章で構成され、保育の学びの柱を立てることを目的としている。 第10章「保育の計画」において教育課程や全体的な計画（保育課程）から指導計画への考え方を、第11章「子どもの育ち・学びの連続性」では幼児期と児童期の学習の違いや幼保小連携について執筆した。 編著：神蔵幸子　宮川萬寿美 著者：桃枝智子、曽野麻紀、井上知香、並木真理子、金允貞 （pp.110～131）
「新版　保育用語辞典」	共著	2016年2月10日	一藝社 （462ページ）	保育者が知っておくべき保育に関する用語1183項目をまとめた辞典。「一時保育（一時預かり事業）」「1歳児保育」「駅型保育施設」、「研修」、「公立保育園」「公立幼稚園」「コミュニケーション」「ストーリーテリング」「設定保育」の項を担当し、子育て支援に関する項目や教職員の資質向上に関する項目、保育を支える法的な根拠、言葉の意味について執筆した。 編集代表：谷田貝公昭 著者：青木豊、石橋哲也、髙玉和子、高橋弥生、中野由美子、廣澤満之、山田一夫、並木真理子　他100名 （p.16　p.17　p.31　p.125　p.134 p.135　p.150　pp.238～239　pp.251～252）

「保育を支える生活の基礎～豊かな環境のつくり手として～」	共著	2013年3月26日	萌林書林 （140ページ）	子どもと園生活を共にしながら生活文化や環境を提供する保育者になるために、学生自身がなりたい保育者像を探し求めつつ、自分自身の生活を見直し、豊かな生活を送る指針となる「生活の基礎」に着目したテキスト。第2章「保育の1年間の生活」において、月ごとの保育行事や園生活の様子、その時期の自然や絵本について執筆。 編著：神蔵幸子 中川秋美 著者：伊坪有紀子、宇杉美絵子、北村麻衣、小宮恭子、佐藤智広、菅沼恵子、曽野麻紀、高橋里帆、中村光絵、並木真理子、松野真、本蔵達也 （p.14～48）
（研究報告書）				
「幼児期の教育と発達に関する都市と農村の比較研究育児情報班：祖父母世代および子育て世代が望む地域の世代間交流にみる育児情報－孤立化する母親を支援するための視点から－」	共著	2013年3月	有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 研究プロジェクト 研究報告書 （11ページ）	有明教育芸術短期大学子ども教育学科の研究プロジェクト「幼児期の教育と発達に関する都市と農村の比較研究」において、育児情報を視点とした世代間交流の実態調査を行い、都市部と農村部における世代間交流のあり方を検討した。 共著者：並木真理子、杉本 信、富岡麻由子、諸井泰子 （共同研究につき抽出不可：研究の背景と目的、結果と考察、まとめについて執筆）
（論文）				
（学術論文） 「子育て支援事業における学生参加の意義」	共著	2009年12月	乳幼児教育学研究 第18号 （13ページ）	子育て支援事業「親子サロン」への学生参加の学習効果について、行動観察から分析を行った。その結果、学生と子どもとの間によりよいコミュニケーションがあった。親は子どもと学生のコミュニケーションを見ることによって学生参加に満足していた。また、学生の自己評価において、「親子サロン」への参加が次の実習に有効であることが示された。 共著者：石塚広美、並木真理子、杉本 信 （共同研究につき抽出不可：研究の背景、結果と考察、まとめについて執筆）
「幼稚園における集団への絵本の読み方が幼児の身体的･言語的反応に及ぼす影響」	単著	2010年3月	絵本学 第12号 （10ページ）	幼稚園の4歳児・5歳児を対象に集団に対する読み聞かせ場面において、「淡々と読む」ケースと「抑揚をつけて読む」ケースに対して、幼児の身体的反応・言語的反応について分析を行った。その結果、読み方の違いは、幼児の身体的反応に大きく影響した。また、読み方の違いが及ぼす身体的反応・言語的反応は、幼児の年齢によって違う結果となった。 （pp.59～68）
「幼稚園における集団への同一絵本のくり返し読みの意義の検討－入園年齢の幼児の身体的反応・言語的反応とクラスの育ちとの関連から－」	単著	2011年12月	乳幼児教育学研究 第20号 （19ページ）	公立幼稚園の入園年齢4歳児を対象に同一絵本のくり返し読みに対する幼児の身体的反応と言語的反応について観察・記録し、クラスの育ちの様子との比較から分析を行った。その結果、クラスの育ちに変容のみられた時期に、身体的反応の違いがみられ、同一絵本のくり返し読みには、読み方や提示の仕方に工夫が必要であることが示唆された。 （pp.27～45）
「幼稚園教育実習直後における学生の実習に対する自己調整学習方略」	共著	2011年3月	チャイルドサイエンス Vol.8 （5ページ）	本研究では、幼稚園実習中に使用した自己調整学習方略について、実習直後の学生の意識を調査し、実習中自己調整学習方略として『反復・関係づけリハーサル方略』、『負担回避方略』、『成功イメージ方略』、『報酬方略』の4因子が抽出された。また、『反復・関係づけリハーサル方略』と『成功イメージ方略』では、実習を経験していない4年制大学の3年生の方が実習を経験している短期大学2年生より得点が高く、『報酬方略』では、短期大学2年生の方が4年制大学3年生より得点が高かった。 共著者：並木真理子、杉本 信 （共同研究につき抽出不可：研究の背景と目的、結果と考察、まとめについて執筆）

「幼稚園における絵本の読み聞かせの構成および保育者の動作・発話が幼児の発話に及ぼす影響」	単著	2012年12月	保育学研究 第50巻第2号 （15ページ）	本研究の目的は、幼稚園の入園年齢のクラスにおいて、絵本の読み聞かせの構成や保育者の動作および発話が幼児の発話にどのように影響しているのかを検討することであった。その結果、(1)幼児が安定して絵本に集中できる環境、(2)幼児のイメージを深めるための登場人物の感情や絵の描写についての保育者の発話や間の取り方、(3)読後における幼児の気づきや遊びの情報化が重要であることが示唆された。(pp.75～89)
「子育て世代が望む地域の祖父母世代との交流」	共著	2012年12月	乳幼児教育学研究 第21号 （9ページ）	本研究は、子育て世代が祖父母世代に対して希望する育児に関する支援や交流を検討した。その結果、子ども・育児の知識の伝達、日常的な交流、子育てのストレスや負担の軽減が望まれる支援として明らかになった。また、農村部の子育て世代の方が祖父母世代との交流経験が多く、交流の希望に影響するのはおもに祖父母世代との交流経験の多寡であることが示された。 共著者：富岡麻由子、杉本 信、並木真理子、諸井泰子 （共同研究につき抽出不可：結果と考察について執筆）
「乳幼児の安全学習と安全管理－乳幼児の危険体験数と危険体験に対する母親の容認度に着目して－」	共著	2012年3月	保育士養成研究 第30号 （10ページ）	本研究は、乳幼児の危険体験と危険体験に対する母親の容認度における安全学習と安全管理のとの関連について検討した。その結果、保育所における危険体験数は少なく、母親の容認度は都市部より農村部のほうが高かった。また、乳幼児の危険体験による安全学習は母親が子どもと一緒に自然体験することで促進されることが示唆された。 共著者：杉本 信、塩崎みづほ、並木真理子、富岡麻由子、諸井泰子 （共同研究につき抽出不可：考察、まとめを部分的に執筆）
「祖父母世代が望む地域の子育て世代との交流－都市地域と農村地域との比較を通して－」	共著	2013年12月	乳幼児教育学研究 第22号 （11ページ）	祖父母世代が子育て世代に対して希望する育児に関する支援や交流を検討した。その結果、祖父母世代が望む支援や交流は、子育て世代や孫世代との交流経験があるほど強く希望された。また、子どもの成長や子育ての悩みの相談を受けることや生活・文化伝承を行うことについては居住地域に関わらず、祖母世代の方が希望すること、農村部の祖父母世代は都市部の祖父母世代よりも日常的な子どもとの遊びや交流を望むことが示された。 共著者：並木真理子、杉本 信、富岡麻由子 （共同研究につき抽出不可：研究の背景と目的、結果と考察、まとめについて執筆）
「幼稚園入園年齢4歳児への読み聞かせにおける絵本の選書理由および保育者の読み聞かせスタイルの検討　－「降園前」の読み聞かせ場面に着目して－」	単著	2014年3月	チャイルドサイエンス Vol.10 （5ページ）	入園年齢4歳児クラスにおける担任の絵本の選書理由と読み聞かせスタイルを分析した結果、保育者が比較的自由に選書を行う「降園前」の読み聞かせには、担任と幼児との信頼関係の構築、絵本への興味の向上、クラスで読み合う楽しさを体験するための絵本が選書されていた。また、保育者は、物語理解の手掛かりとなる直接的な読み聞かせスタイルと、お話の展開への期待感を高めるための間接的な読み聞かせスタイルを行っていた。(pp. 66～70)

「幼稚園実習における実習園評価の開示と実習自己評価及び幼稚園実習自己効力感の変容との関連」	共著	2014年3月	チャイルドサイエンス Vol.10 （5ページ）	幼稚園教育実習における実習園評価の開示が実習自己効力感と自己評価に及ぼす影響を分析した。その結果、1 回目の実習時は実習園評価の開示によって過大な自己評価を低く調整し実習自己効力感も低下するが、2 回目の実習経験によって自己評価及び実習自己効力感が高まることが明らかになった。 共著者：杉本 信、並木真理子 （共同研究につき抽出不可：質問紙作成、データ表、分析部分について執筆）
「母親の子どもに対する怒り感情の抑制と評価、子育てに関するメタ認知及び育児効力感との関連」	共著	2015年12月	保育学研究 第52巻第2号 （14ページ）	本研究の目的は、母親の怒り感情の抑制と怒り感情への評価、子育てに関するメタ認知、育児自己効力感の関連を検討することであった。 結果、以下の点が明らかとなった。怒り感情への評価の『他者懸念』と子育てに関するメタ認知の「他者をとおした省察」との間に有意な正の相関を見出し、怒り感情に対して他者を意識している母親は、他者をとおして自分の育児を見直していることを示した。また、怒り感情への評価の『負担感』と育児自己効力感との間に有意な負の相関が見出され、怒り感情を負担であると評価していない母親の育児自己効力感が高いことを示した。 共著者：杉本 信、並木真理子 （共同研究につき抽出不可：研究の背景、考察について執筆）
（紀要論文） 「教育実習評価表の学生への開示が学生の自己評価と学習態度に及ぼす影響」	共著	2010年3月	有明教育芸術短期大学 紀要第1号 （12ページ）	実習園評価の開示による自己評価と実習に対する原因帰属への影響を分析した。その結果、実習園評価開示後に実習に対する成功感から失敗感への変容がみられ、開示後に努力から能力、運への帰属の変化がみられた。また、実習に対する成功感が高かった被験者は現在・未来の自分に肯定的に影響し、失敗感が高かった被験者は現在・未来の自分に否定的に影響することが示された。 共著者：並木真理子、杉本 信 （共同研究につき抽出不可：研究の背景と目的、結果と考察、まとめについて執筆）
「幼稚園教育実習における学習過程に対する学生の自己調整学習に関する研究」	共著	2011年3月	有明教育芸術短期大学 紀要第2号 （10ページ）	幼稚園実習の実習前の学習に対して使うことが予測される学生の自己調整学習の実態を調査した。その結果、実習前自己調整学習には、認知的側面、情動制御的動機づけ側面、外発的動機づけ側面の自己調整学習が行われていることが示された。また、幼稚園実習前における実習経験群と実習未経験群の自己調整学習のt検定の結果、「反復・関係づけリハーサル方略」の平均値に有意差が認められ、実習未経験群の方が実習経験群より得点が高かった。 共著者：並木真理子、杉本 信 （共同研究につき抽出不可：研究の背景と目的、結果と考察、まとめについて執筆）
「都市と農村の保育・子育て支援システムの比較(1)−江東区と木島平村の「前期次世代育成支援行動計画」の分析−」	共著	2012年3月	有明教育芸術短期大学 紀要第3号 （14ページ）	東京都江東区と長野県木島平村が作成した「次世代育成支援行動計画」および「子育てニーズ調査」をもとに2つの地域の子育て家庭の現状と子育て支援システムの相違点を分析した。その結果、都市では「支援の個別化」、農村では「支援の共同化」の傾向がみられた。 共著者：日暮トモ子、小鴨成夫、富岡麻由子、並木真理子、藤井喜一 （共同研究につき抽出不可：結果と考察について執筆）

「都市と農村の保育・子育て支援システムの比較（2）−江東区と木島平村の子育て支援の在り方を中心に−」	共著	2013年3月	有明教育芸術短期大学紀要第4号 （16ページ）	本研究では、都市と農村の子育て支援の在り方の比較を通じて、両地域の保育・子育て支援システムの特徴を検討した。現地での行政担当者、保育者、保護者からの聞き取り調査やアンケート調査の結果から、農村部でも保育所の統合等によって地域の子育て機能が低下しており、都市部と同様に保護者の多様なニーズに応じる形で子育て支援を個別化している傾向が認められた。都市においても農村においても、今後地域の子育て機能をどのように回復していくかが共通する課題であることを指摘した。 共著者：日暮トモ子、小鴨成夫、富岡麻由子、並木真理子、藤井喜一 （共同研究につき抽出不可：結果と考察について執筆）
「子育てにおける世代間交流の実態－農村地域の高齢者が望む地域の乳幼児の保護者との交流－」	共著	201年3月	有明教育芸術短期大学紀要第4号 （10ページ）	本研究では、少子高齢化の進む農村部において高齢者が望む地域の乳幼児やその養育者との交流及び交流希望に関連する要因を検討した。その結果、古くからの生活や文化を伝えること、遊びや世話を通した子どもとの触れ合い、子育ての悩みやストレスへの相談にのることが希望する交流として示された。また、祖父世代より祖母世代の方が子育てに関する相談や援助をより強く希望することが示された。 共著者：諸井泰子、並木真理子、富岡麻由子、杉本 信 （共同研究につき抽出不可：結果と考察について執筆）
「未就園児をもつ母親の育児メタ認知、メタ情動、育児効力感の関連」	共著	2014年3月	有明教育芸術短期大学紀要第4号 （10ページ）	子育て支援事業に参加している未就園児をもつ母親を対象に、メタ認知、メタ情動、育児効力感の実態を検討した。その結果、メタ認知の「親自身に関する省察」、「子どもに関する省察」、メタ情動の「気分の明瞭さ」、「気分の評価」、育児効力感の「子どもを安堵させる自身」、「PSAM］が比較的高い値を示した。 共著者：杉本 信、並木真理子 （共同研究につき抽出不可：質問紙作成、データ表、分析部分について執筆）
「幼児の砂遊び研究の動向と行動観察カテゴリーの作成」	単著	2014年2月	洗足論叢 第42号 （13ページ）	砂遊びに関する先行研究においてどのような視点で幼児の行動観察が行われてきたのかを概観した。また、砂遊びにおける幼児の行動カテゴリーについて、先行研究で検討された幼児の行動をもとに「幼児の砂へのかかわり行動観察カテゴリー」、「砂にかかわる遊び時の幼児の表情・発話観察カテゴリー」、「他者とのかかわり行動観察カテゴリー」を作成した。 （pp.155～167）
[「保育内容・言葉」の授業における幼稚園実習中の事例分析を用いた学習効果」	共著	2015年2月	洗足論叢 第43号 （15ページ）	「保育内容・言葉」の授業において、学生が直接体験した事例を用いて主体的に「幼児理解」を進める授業を試み、その学習効果を検証した。その結果、学生の事例を用いた授業実践には、学ぶことに対する意欲を向上させ、幼児の言葉の発達過程や特徴を具体的に学べる学習効果があったことが示唆された。 著者：並木真理子、井上知香 （共同研究につき抽出不可：研究の背景と目的、方法、結果と考察、まとめについて執筆）

「行動観察カテゴリーを用いた砂遊びの研究手法の検討」	単著	2016年2月	洗足論叢 第44号 （12ページ）	幼児の砂遊びの操作行動を分析する手法として行動観察カテゴリーを使用した分析を試みた。その結果、行動観察カテゴリーを使用することによって観察者の経験による差異や課題があることが示された。特に保育現場経験者と研究者によって視点の違いがみられた。また、砂遊び自体、操作行動が複合化されており、どの時点でのカテゴリーを記録するかという課題も明らかになった。（pp:175～186）
（学会発表）				
「保育現場における絵本設置環境が及ぼす子どもの絵本への関わり方についての考察」	単著	2009年5月	日本保育学会 第61回大会 ポスター発表 名古屋市立大学 （愛知県）	保育現場で絵本がどのような環境におかれ、幼児がどのように絵本に関わっているのかについて質問紙調査と行動観察による分析を行った。その結果、他の遊びに左右されない時間とスペースの確保や表紙の見える絵本の設置場所や高さ、工夫が幼児の絵本への関心・行動につながることが示唆された。
「幼稚園における集団への絵本の読み方が児の身体的･言語的反応に及ぼす影響　」	単著	2009年	絵本学会 第12回大会 研究発表 京都女子大学 （京都府）	幼稚園の4歳児・5歳児を対象に集団に対する読み聞かせ場面において、「淡々と読む」ケースと「抑揚をつけて読む」ケースに対して、幼児の身体的反応・言語的反応について観察・記録し、分析を行った。その結果、読み方の違いは、幼児の身体的反応に大きく影響した。また、読み方の違いが及ぼす身体的反応・言語的反応は、幼児の年齢によって違う結果となった。
「教育実習評価表の学生への開示が学生の自己評価と原因帰属に及ぼす影響」	共著	2009年5月	日本保育学会 第62回大会 ポスター発表 千葉大学 （千葉県）	実習園評価の開示による自己評価と実習に対する原因帰属への影響を分析した。その結果、実習園評価開示前後での自己評価に有意な変化はみられなかった。しかし、実習園評価開示後に実習に対する成功感から失敗感への変容がみられ、開示後に努力から能力、運への帰属の変化がみられた。 共著者：並木真理子、杉本 信
「実習生の自己調整学習が自己決定動機づけに及ぼす影響」	共著	2011年5月	日本保育学会 第64回大会 ポスター発表 玉川大学 （東京都）	幼稚園実習の実習前および実習中自己調整学習と自己決定動機づけとの関連性を検討した結果、実習前は、取り入れ的、同一化的、内発的動機づけと、実習中は、同一化的、内発的動機づけとの関連性が認められた。 共著者：並木真理子、杉本 信
「幼稚園における絵本のくり返し読みの意義の検討ークラスの育ちと繰り返し読み絵本に対する幼児の身体的・言語的反応との関連から」	単著	2011年	絵本学会 第14回大会 口頭発表 大正大学 （東京都）	入園年齢（4歳児）の2クラスの行動観察の分析から、集団における同一絵本のくり返し読みの意義は、個の安心感やお話を理解できている自信につながるとともに、友達とのイメージの共有につながることでクラスの一体感を向上させることにあることが示された。課題として、読み手となる担任が、クラスの育ちに合わせて、くり返し読みを行う時期、絵本の示し方や読み方の工夫を配慮することあげられた。

「実習評価表の開示が自己評価能力育成に及ぼす影響」	共著	2011年	日本乳幼児教育学会 第21回大会 口頭発表 東京成徳大学 （東京都）	実習園評価開示によって学生が実習園評価を受け入れ、自己評価を客観的に見直して調整する効果は、実習経験に対する自己省察の積み重ねによって深まることが示唆された。一方、保育者効力感については、実習園評価の開示による変容はみられなかった。これは、単に実習経験や自己省察で保育者効力感が変容するのではなく、学生が持っている実習に対する不安や学習課題に対する意識によって保育者効力感が変容したためと考えられる。 共著者：並木真理子、杉本 信
「幼稚園教育実習の学習過程における学生の自己調整学習に関する研究」	共著	2012年5月	日本保育学会 第65回大会 ポスター発表 東京家政大学 （東京都）	本研究では、幼稚園実習における段階的な実習経験による実習中の自己調整学習の変容と目標志向性、実習自己効力感の変容の実態を調査した。その結果、動機づけ的自己調整学習方略では「負担軽減方略」、「成功イメージ方略」が、情動制御的自己調整学習方略では、「課題不安低減方略」、「相談方略」、「受容準備方略」が示された。また、目標志向性では、「遂行接近目標」、「遂行回避目標」、「熟達目標」が示された。「遂行回避目標」、「熟達目標」では、事前指導、6月実習、11月実習における一要因分散分析の結果、事前指導1回目（4月）より、後期事前指導（10月）の方が低くなった。 共著者：並木真理子、杉本 信
「子育てにおける世代間交流の実態－農村地域の高齢者が望む地域の乳幼児の養育者との交流－」	共著	2012年5月	日本保育学会 第65回大会 ポスター発表 東京家政大学 （東京都）	本研究では、少子高齢化の進む農村部において高齢者が望む地域の乳幼児やその養育者との交流及び交流希望に関連する要因を検討した。その結果、古くからの生活や文化を伝えること、遊びや世話を通した子どもとの触れ合い、子育ての悩みやストレスへの相談にのることが希望する交流として示された。また、祖父世代より祖母世代の方が子育てに関する相談や援助をより強く希望することが示された。 共著者：富岡麻由子、並木真理子、諸井泰子
「保育所実習の振り返りにおける学生の学びのとらえ方」	共著	2015年5月	日本保育学会 第68回大会 ポスター発表 椙山女学園大学 （名古屋市）	短期大学2年次の保育所実習終了時点での振り返りの内容分析を通して、学生が子どもの姿から何を学びとしてとらえているか、その傾向を明らかにするとともに、学生の実態に即した今後の実習指導のあり方を検討した。 共著者：曽野麻紀　並木真理子　桃枝智子　山本有紀
「校外授業を通した保育内容の総合的理解」	共著	2015年5月	日本保育学会 第68回大会 ポスター発表 椙山女学園大学 （名古屋市）	1年次前期開講科目の「健康」及び「環境」における校外(地域の森林公園)合同授業による5領域の総合的理解を目指した展開事例を報告した。 共著者：神蔵幸子　並木真理子　曽野麻紀　桃枝智子　岡本かおり
「3歳児の砂遊びにおける「はじまり」と「おわり」の行動特性」	単著	2015年5月	日本保育学会 第68回大会 ポスター発表 椙山女学園大学 （名古屋市）	私立幼稚園の3歳児専用の砂場で長期的に観察した砂遊びにおいて、どのような「はじまり」と「終わり」がみられるのかに着目し、その行動特性を検討した。その結果、「はじまり：」においては保育者をモデルとした基本となる砂遊びの操作行動から経験の積み重ねや安定した友達関係によってその種類や複合性が変容することがわかった。「終わり」については、遊びの満足感によって終わるポジティブな行動と遊びの展開に「迷う」「途切れる」などのネガティブな行動とがあることがわかった。

「5歳児の砂遊び場面における砂の操作過程」	単著	2016年5月	日本保育学会 第69回大会 ポスター発表 東京学芸大学 （東京都）	私立幼稚園の5歳児専用の砂場で長期的に観察した砂遊びにおいて、友達関係と砂の操作過程に着目し、その行動特性を検討した。その結果、5月では目的を共有することにより動作的共同が生まれ、砂の変容過程そのものを遊びとして楽しむ姿であったが、10月では目的を共有することによって課題的共同が生まれ、課題を達成するために砂の変容を見通したり利用したりして遊びを進める姿であった。5歳児の砂の操作行動には時期による共同遊びの実態の違いがあることが示されたと考えられる。
「保育内容「人間関係」・「言葉」の科目間連携による授業展開」	共著	2016年5月	日本保育学会 第69回大会 ポスター発表 東京学芸大学 （東京都）	1年次後期開講科目の「人間関係」及び「言葉」における共通ビデオ教材による6領域の総合的理解を目指した展開事例を報告した。 共著者：神蔵幸子　並木真理子　曽野麻紀 桃枝智子　井上眞理子
「学外学習から見えた学生の保育者イメージ」	共著	2016年5月	日本保育学会 第70回大会 ポスター発表 川崎医療福祉大学 （倉敷市）	1年次後期開講科目の「人間関係」及び「言葉」における共通ビデオ教材による6領域の総合的理解を目指した展開事例を報告した。 共著者：神蔵幸子　並木真理子　曽野麻紀 桃枝智子　井上眞理子
（講演会）				
「幼稚園教育における絵本研究の動向と方向性」	単独	2011年6月1日	江東区立 幼稚園教育研究会 （江東区教育センター）	江東区立幼稚園の２年間の教育研究への示唆として、幼稚園教育における絵本の読み聞かせの意義、行動観察法を用いた研究方法、乳幼児の発達過程に基づいた絵本の選書のあり方について解説した。
「幼稚園・保育園の選び方・見学のポイント」	単独	2011年～2013年	赤ちゃんと暮らしの 研究会 （グランチャ東雲）	平成23年より、毎年、未就園児を持つ保護者および保育関係者を対象に保育園と幼稚園の法的な違いをもとに入園対象園の選び方や見学時の視点について解説している。この講演は江東区社会福祉協議会助成金事業として行われた。
教員免許更新講習「乳幼児の言葉の発達と発達に即した視聴覚教材」	共同	2012年8月1日	有明教育芸術短期大学	教員免許更新講習会の講師として、選択領域「教員免許状更新講習－乳幼児の言葉の発達と発達に即した視聴覚教材－」を担当した。
公益社団法人川崎市幼稚園協会 教員免許更新講習会 必修領域「教員免許状更新講習－新学習指導要領における小学校1年生の学習内容からみた幼少接続について－」	単独	2013年8月1日	洗足こども短期大学	公益社団法人川崎市幼稚園協会における教員免許更新講習会の講師として、必修領域「教員免許状更新講習－新学習指導要領における小学校1年生の学習内容からみた幼少接続について－」を担当している（現在に至る）。
公益社団法人川崎市幼稚園協会 教員免許更新講習会 選択領域「教員免許状更新講習－乳幼児の言葉の発達と発達に即した視聴覚教材－」	単独	2013年11月1日	武蔵小杉　ユニオンビル セミナールームA	公益社団法人川崎市幼稚園協会における教員免許更新講習会の講師として選択領域「教員免許状更新講習－乳幼児の言葉の発達と発達に即した視聴覚教材－」を担当している（現在に至る）。
「入園後によくあるこどもの行動と対処法-保幼準備講座①」	単独	2015年4月4日	（株）イマココ・クリエイト （豊洲文化センター）	新入園児・未就園児を持つ保護者および保育関係者を対象に入園後によくあるこどもの行動と対処法について講演した。

ナーシングドゥーラ資格講座 「在宅保育の方法の理論と実践」	単独	2016年9月18日	国際ナーシングドゥーラ研修会 (株)イマココ・クリエイト （明石町オープンアカデミー）	看護資格を持つ家事育児支援者としてナーシングドゥーラ資格取得のための養成講座において、「在宅保育の方法の理論と実践」を担当した。
ナーシングドゥーラ資格講座 「在宅保育の方法の理論と実践」	単独	2016年11月～現在	国際ナーシングドゥーラ研修会 (株)イマココ・クリエイト	看護資格を持つ家事育児支援者としてナーシングドゥーラ資格取得のための養成講座において、ビデオ講座「在宅保育の方法の理論と実践」を担当している。
自治労神奈川県本部　保育集会講演 「保育の質を考える ー保育者の現状と保護者のニーズを つなぐ保育のあり方ー」	単独	2016年11月20日	ワークピア横浜	自治体経営の保育園、幼稚園に勤務する公務員の保育士、幼稚園教諭を対象に「保育の質」について、保護者との連携を考えながらどのように保育の質を向上させていくのかという視点で講演を行った。
川崎市高津区役所保健福祉センターみまもり支援センター保育所等・地域連携事例検討研修会「第1回 『ことば』～子どもの言葉を広げる保育者の働きかけ～」	単独	2017年11月	高津区役所 保健福祉センター 会議室	研修会受講者による研修会テーマのディスカッションについて提案、講評を行った後、乳幼児期の言葉の発達の視点から子どもの言葉経験を広げるための保育のあり方を講演した。
川崎市高津区役所保健福祉センターみまもり支援センター保育所等・地域連携事例検討研修会「第2回『生活環境』～大切にしたい日常保育の生活環境～」	単独	平成29年11月1日	高津区役所 保健福祉センター 会議室	研修会受講者による研修会テーマのディスカッションについて提案、講評を行った後、保育現場が抱える課題に即した環境の作り方、活かし方について講演した。

教　育　研　究　業　績　書

２０１８年５月１日
氏名　岡本　かおり

著書･学術論文などの名称	単　著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所,発表雑誌又は発表学会などの名称	概　　要
(著書)				
乳幼児のための心理学	共著	2009年3月	保育出版社 (216ページ)	乳幼児の発達を支える環境として地域社会の影響を取り上げた.従来の地域で支える子育ては減少し,子ども同士の交流も減少している.また,地域の教育力の低下,子育て支援機能の低下が指摘されている.地域の子育て支援機能の低下を解決するための有効な支援方策として,地域住民参加型の子育て支援組織,ファミリー・サポート・センター事業の事例を示した.(第8章 乳幼児の発達を支える環境,第3節 発達と地域社会,pp.108～111)(小林芳郎 編者, 小林芳郎・岡本かおり,他45名分担執筆)
やさしく学ぶ発達心理学-出逢いと別れの心理学-	共著	2011年3月	ナカニシヤ出版 (229ページ)	レヴィンソンやハヴィガースト,Ｅ.Ｈエリクソンらの発達段階と発達課題を取り上げ,中年期における発達の基礎的概要を記した.また,特に中年期にみられる変化(①身体的変化,②家族における変化,③職業における変化)を紹介し,中年期に起こる心身の変化と激動する社会に対応しうるアイデンティティの再構築が必要となる現代の中年期について記した.(第7章 中年期の発達,第1節 見つめ直す人生,pp.167～177)(浜崎隆司・田村隆宏 編者, 浜崎隆司・田村隆宏・岡本かおり,他10名分担執筆)
保育士過去問題集’14年版	共著	2014年3月	成美堂出版 (216ページ)	解答・解説編の「保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)」を担当.(pp.50～53,pp.101～102,pp.124～125,pp.180～181,同問題集’13年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修,岡本かおり,他10名分担執筆
保育士重要項目’14年版	共著	2014年3月	成美堂出版 (302ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当.(pp.295～302,同問題集’13年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修,岡本かおり,他10名分担執筆
保育士一問一答問題集 ’14年版	共著	2014年3月	成美堂出版 (334ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(pp.320～333,同問題集’13年版の一部加筆修正を含む) 岡本かおり,他10名分担執筆
保育士過去問題集’15年版	共著	2015年1月	成美堂出版 (185ページ)	解答・解説編の「保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)」を担当.(p50～52,pp.102～105,pp.152～154,同問題集’14年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修,岡本かおり,他9名分担執筆

保育士重要項目’15年版	共著	2015年1月	成美堂出版 (302ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当.(pp.295～302,同問題集’14年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修,岡本かおり,他10名分担執筆
保育士一問一答問題集 ’15年版	共著	2015年3月	成美堂出版 (304ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(pp.320～333,同問題集’14年版の一部加筆修正を含む)近喰晴子 監修,岡本かおり,他10名分担執筆
保育士科目別問題集’15年版	共著	2015年3月	成美堂出版 (190ページ)	保育実習理論(pp.147～190,〈解答・解説編〉pp.21～26)の「保育所保育指針・その他法令等」を担当.(同問題集’14年版の一部加筆修正を含む)近喰晴子 監修,岡本かおり,他5名分担執筆
保育士入門テキスト’16年版	共著	2015年12月	成美堂出版 (223ページ)	「保育実習理論・指針等,言語」を担当.(pp.192～195,pp.216～219)近喰晴子 監修,岡本かおり,他8名分担執筆
保育士重要項目 ’16年版	共著	2015年12月	成美堂出版 (302ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当.(pp.295～302,同問題集’15年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修,岡本かおり,他10名分担執筆
保育士一問一答問題集 ’16年版	共著	2016年1月	成美堂出版 (334ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(pp.320～333,同問題集’15年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修,岡本かおり,他10名分担執筆
保育士過去問題集 ’16年版	共著	2016年1月	成美堂出版 (160ページ)	解答・解説編の「保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)」を担当.(pp.48～50,pp.100～103,pp.152～155,同問題集’15年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修,岡本かおり,他10名分担執筆
保育士科目別問題集’16年版	共著	2016年2月	成美堂出版 (190ページ)	保育実習理論(pp.144～190,解答・解説編pp.22～27の内「保育所保育指針・その他法令等」を担当.(同問題集’15年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修,岡本かおり,他5名分担執筆
保育士入門テキスト’17年版	共著	2016年11月	成美堂出版 (223ページ)	「保育実習理論・指針等,言語」を担当.(pp.192～195,pp.216～219,同問題集’16年版の一部加筆修正を含む)近喰晴子 監修,岡本かおり,他8名分担執筆
保育士重要項目 ’17年版	共著	2016年12月	成美堂出版 (302ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当.(pp.295～302,同問題集’16年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修,岡本かおり,他10名分担執筆

保育士一問一答問題集 ’17年版	共著	2017年1月	成美堂出版 (334ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(pp.320～333,同問題集’16年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修,岡本かおり,他10名分担執筆
保育士過去問題集 ’17年版	共著	2017年2月	成美堂出版 (209ページ)	解答・解説編の「保育原理」「保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)」を担当.(pp.7～12,pp.49～52,pp.59～64,pp.97～106,pp.148～157,pp.201～203,同問題集’16年版の一部加筆修正を含む)近喰晴子 監修,岡本かおり,他9名分担執筆
保育士試験完全予想模試 ’17年版	共著	2017年2月	成美堂出版 (100ページ)	「保育原理(第1回pp.14～31, 第2回pp.14～28,〈解答・解説〉第1回pp.10～15, 第2回pp.60～64)」を担当.(同問題集’16年版の一部加筆修正を含む)近喰晴子 監修,岡本かおり,他9名分担執筆
保育士試験問題集 ’17年版	共著	2017年3月	成美堂出版 (262ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当.(pp.244～245,pp.252～253,pp.256～262,同問題集’16年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修,岡本かおり,他8名分担執筆
保育士入門テキスト’18年版	共著	2017年12月	成美堂出版 (223ページ)	「保育実習理論・指針等,言語」を担当.(pp.192～195,pp.216～219,同問題集’17年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修,岡本かおり,他8名分担執筆
保育士重要項目 ’18年版	共著	2017年12月	成美堂出版 (302ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当.(pp.295～302,同問題集’17年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修,岡本かおり,他10名分担執筆
保育士一問一答問題集 ’18年版	共著	2017年12月	成美堂出版 (334ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(pp.320～333,同問題集’17年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修,岡本かおり,他9名分担執筆
本試験型保育士問題集 ’18年版	共著	2017年12月	成美堂出版 (262ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(pp.256～262,同問題集’17年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修,岡本かおり,他9名分担執筆
保育士過去問題集 ’18年版	共著	2018年3月	成美堂出版 (209ページ)	解答・解説編の「保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)」を担当.(pp.48～52,pp.100～102,pp.151～154,pp.199～202,同問題集’17年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修,岡本かおり,他10名分担執筆

(論文)				
保育実習が保育士志望および保育者効力感に及ぼす影響	共著	2008年5月	旭川荘研究年報 第39巻第1号 (7ページ)	保育士養成校の学生を対象とし,保育実習前後の希望職種の違いに注目して,実習における経験が学生の希望職種に影響を与えるかを検討した.さらに,保育実習前後の保育者効力感を査定し,実習前後で変化がみられるかを検討した.結果,少数ながら保育実習が卒業後の自分の進路に影響していることが示唆された.また,希望職種内容にかかわらず,保育実習によって保育学生の保育者効力感が高くなることが明らかにされた.(岡本かおり・浜崎隆司・加藤孝士・寺薗さおり, 共同研究につき抽出不可,『はじめに』『結果と考察』『今後の課題』に当たる部分を中心に担当)
英語学習における親子交流型レクリエーションの効果	単著	2009年3月	旭川荘研究年報 第40巻第1号 (4ページ)	親子がふれあいながら英語を使ったレクリエーションを楽しむことで,「親子のコミュニケーション」,「英語に対する考え方や捉え方」,「自分や子どもに対する発見」に影響がみられるのか検討した.結果,親子が参加できるレクリエーションの効果は,親子のふれあいできる機会の提供だけでなく,親の子どもに対する気づきの機会ともなっていることが分かった.
保育学生の幼児・学童期における遊び体験に関する調査研究	共著	2010年3月	洗足論叢 第39号 (10ページ)	学生自身の幼児期・学童期の遊びの体験について、種目による経験の差が見られ,遊びを体験できる環境が整っていることの重要性が指摘された。子どもたちが園生活において様々な遊びを体験し,遊びの中で体を十分に動かし楽しむことができるには, 保育学生自身が遊びを体験し,子どもたちに伝承できること,性差を超えて様々な遊びに関わり,子どもたちの興味・関心を高められる指導力と環境を構成する力の必要性が示唆される.実践的な学びによる保育実践力を授業で培うことの必要性も窺える.(神蔵幸子・長島万里子・岡本かおり,共同研究につき抽出不可,『結果および考察』に当たる部分を中心に担当)

親子のコミュニケーションに及ぼすレクリエーションの効果 - 英語学習場面を用いて -	単著	2010年3月	自由時間研究 第36号 （7ページ）	英語を取り入れた親子交流型レクリエーションに参加した保護者の参加前と参加後の意識の変化に着目し，英語に対する意識，親子の交流，子どもに関する発見について検討することを試みた．結果，親子ともども英語に親しみをもち学習意欲や英語に対する関心が高まることが明らかになった．さらに，親子の交流場面においても英語を取り入れたいという意識が高まり，実際に普段の親子の会話で英語が取り入れられていることがわかった．また，親子で参加するレクリエーションは，親が子どもの個性や特徴を知る機会となり，子ども理解が深まることが示された．（本研究は日本レクリエーション協会からの助成金による調査研究である）
相互援助型子育て支援参加者の意識変化に関する研究－ファミリー・サポート・センターにおける活動を通して－	単著	2011年4月	応用教育心理学研究 第28巻第1号 （13ページ）	本研究では，地域住民による相互援助システム，ファミリー・サポート・センターの参加者141名を対象に，参加前と参加後の意識の変化を質問紙調査法によって検討した．また，参加者は，子育て支援を依頼する依頼会員，依頼を受ける提供会員，依頼と提供の両方を兼ねる両方会員の３つの会員形態に分類されるため，会員形態による参加者意識の違いについても調査した．結果，会員として活動することによって，「自己充実感や満足感」，「子どもや子育てに対する意識」，「地域や地域の人に対する意識」が高まることが明らかになった．会員形態別にみると，3つの要因において，提供会員の意識の一部が依頼会員に比べて高いことが示された．以上の結果から，地域住民参加の相互援助型子育て支援は，家庭・地域のコミュニケーションや教育力を促進することが示唆された．
保育者の資質とは-養成課程の学生がもつイメージ-	共著	2012年2月	洗足論叢 第40号 （12ページ）	本調査は，将来保育者を目指す学生にとって，保育者になるために必要と思うことはなんであるかを問い，学生自身の視点から，保育者の適性や役割をどのように考えているかを理解することを目的とした．また卒業直前の学生と，入学直後の学生の考えや意見を比較することで，2年間の養成課程における自覚や意識の相違とその理由についても考察し，保育者養成校のプログラムやカリキュラムの検討に役立てることとした．結果，卒業前の2年生の学生は，入学直後の1年生の学生と比較して，保育者に求められていることに対してより具体的で，現実に則したイメージを持っていることが示された．しかしながら，保育者の細かい役割や責任については，まだ理解が浅く漠然とした意見も多くみられた．（橘川佳奈，金子真由子，岡本かおり．共同研究につき本人担当部分抽出不可，『はじめに』『調査結果と考察』に当たる部分を中心に担当）．

英語学習場面における親子参加型レクリエーションの効果-親子のコミュニケーションに注目して-	単著	2012年9月	応用教育心理学研究 第29巻第1号 (8ページ)	英語を取り入れた親子交流型レクリエーションに参加した保護者41名の参加する前と後の意識変化を調査した.結果,親子ともども英語に親しみをもち,子どもの英語学習意欲や英語に対する関心が高まることが明らかになった.さらに,普段の親子の会話に,英語を取り入れる姿もみられた.また,e英語に対する意識のみでなく,親の子ども理解が深まることが示された(本研究は日本レクリエーション協会からの助成金による調査研究である).
女子短期大学生の友人間における信頼感について	単著	2013年3月	洗足論叢 第41号 (8ページ)	女子短期大学生を対象に信頼できる友人の有無を尋ね,青年期女子における友人間における信頼感についての尺度開発を試みた.結果,24の質問項目から,「相互理解」因子,「絆の感覚」因子,「価値観の共有」因子の3因子が抽出された.この3因子と吉岡(2002:13-30)の「自己開示・信頼」因子との間に有意な正の相関がみられ,本研究の3因子についての妥当性が認められた.
学生の保育教材研究能力の育成―保育内容・健康におけるお手玉を題材とした授業実践―	共著	2013年3月	洗足論叢 第41号 (11ページ)	幼稚園・保育所の子どもの遊びを想定したお手玉作りと遊びの実践による教材研究を実施した.調査の結果,授業で保育教材の実践的な学びを取り入れることが,子どもの発達や保育目標に沿った保育教材を考え作り出す力,遊びを創造する力を高めることが示唆された.また,「幼児の運動能力に沿って,遊びを考えているかを大切にしたい」「1つの教材で1つの遊びしかできないことはほとんどない」といった回答がみられるように,子どもの運動能力を考慮し,1つの教材から様々な活動を展開できる保育実践力を育む可能性が指摘できる.(長島万里子・岡本かおり・神蔵幸子, 共同研究につき抽出不可,『結果』『考察』に当たる部分を中心に担当)
保育者のとらえる子どもとの信頼感	単著	2015年3月	学習開発研究 第8号 (10ページ)	保育者の視点から子どもとの信頼感をどのように捉えているかに着目し,保育のあり方について検討した.幼稚園教諭10名と保育士10名へのインタビューを分析した結果,子どもの言葉や行為に変化がみられることを保育者が実感していることがわかった.また,保育者は信頼関係を築くために,子どもに対して「受容・共感」しながら子どもへの多様な関わりを試みていることがわかった.さらに,この関わりの背景には,子どもや子どもの可能性を信じて全てを受け止める保育者の姿勢が窺え,このような保育のあり方は日本の特徴であることが示唆された.

保育者養成校初学者における子ども理解-詩的表現の試み-	共著	2018年3月	洗足論叢 第46号 （12ページ）	保育者養成校初学者を対象に,幼稚園半日体験での振り返りの保育記録を詩的表現という形式で実施することを試みた.結果,子どもの内面やその情況をよりよく表すことを見出すことができた.詩的表現による文章表現が,子どもを全体的存在として理解することを可能にすることが窺えた. 保育者の保育実践力として重要な要素である子ども理解が,詩的に表現することで学び得ることを考察した.（金充貞・岡本かおり・桃枝智子・柳井郁子,共同研究につき抽出不可,『はじめに』に当たる部分を中心に担当）
（学会発表）				
相互援助型子育て支援参加者に関する研究ーファミー・サポート・センターにおける活動を通してー	共著	2006年 3月	日本発達心理学会 第18回大会	相互援助型子育て支援組織,ファミリー・サポート・センター会員を対象に,参加者の活動前後による意識変化を明らかにした.結果,すべての会員形態（依頼会員・提供会員・両方会員）において,「地域との関係」,「自己充実感」,「子ども観」に対する意識の向上がみられたが,「子育て観」に関しては,自らが子育てを行い他人の育児の援助を行う両方会員にのみ意識の向上がみられることが明らかになった.
保育実習が保育士志望および保育者効力感に及ぼす影響	共著	2007年11月	第25回 旭川荘医療福祉学会	保育士養成校の学生を対象とし,保育実習前後の希望職種の違いに注目して,実習における経験が学生の希望職種に影響を与えるかを検討した.さらに,保育実習前後の保育者効力感を査定し,実習前後で変化がみられるかを検討した.結果,少数ながら保育実習が卒業後の自分の進路に影響していることが示唆された.また,希望職種内容にかかわらず,保育実習によって保育学生の保育者効力感が高くなることが明らかにされた.
英語学習における親子交流レクリエーションの効果	単著	2008年11月	第26回 旭川荘医療福祉学会	親子がふれあいながら英語を使ったレクリエーションを楽しむことによる参加者の意識変化について検討した.結果,親子で参加することに意味があり,レクリエーションが,親子のふれあう機会を提供するだけでなく,親の子どもに対する気づきの機会ともなっていることが分かった.
保育者効力観に影響する要因に関する研究-保育専攻学生を対象とした縦断的検討-	共著	2010年9月	日本保育士養成協議会 第49回研究大会	保育専攻学生１年生144名と2年生135名を対象に保育者効力感の変動を縦断的に検討した.結果,1年次では自信や自信喪失経験による保育者効力感の変動がみられるが,2年次では,たとえ自信を得る経験が少なくても,これまでの試行錯誤を繰り返して力をつけてきた自分を思い出し,保育者効力感に対して客観的な評価ができるようになることが示唆された.

養育者の子育て目標志向性と育児行動に関する原因帰属との関連性(1)	共著	2010年9月	日本心理学会 第74回大会	養育者の目標志向性,及び原因帰属の尺度を作成することを目的として1歳半・3歳児検診に参加した保護者や保育所・幼稚園の保護者310人を対象にアンケート調査を行った.目標志向性尺度について因子分析(主因子法・プロマックス回転)を行った結果,遂行接近目標志向性」「遂行回避目標志向性」「学習目標志向性」の3因子が抽出された.次に,失敗場面および成功場面の原因帰属尺度構造が従来想定した構造であるのかを確証的因子分析を用いて検討した結果,本研究で使用した尺度は,当初の予定通りの構造をしていることが示された.
養育者の子育て目標志向性と育児行動に関する原因帰属との関連性(2)	共著	2010年9月	日本心理学会 第74回大会	親子間における信頼関係尺度を作成し, その信頼性と妥当性を検討することを目的とした.結果,抽出された7因子の内, 「見守られ」因子, 「相談相手」因子.「自己受容」因子, 「親役割」因子「親の向上心」因子「親の支援」因子の6因子と落合ら(1996)の「信頼承認」, 「困難時の支援」との間に有意な正の相関がみられた.本研究の「親の感情抑制」因子と「信頼承認」, 「困難時の支援」との間に有意な負の相関がみられた.また,「親の感情抑制」は逆転項目であり, 負の相関が有意であることから, 親が理性的な態度であるほど「信頼承認」「困難時の支援」の尺度と高い正の相関があることを意味している.結果より,本尺度が十分な妥当性を備えていることが示された.
親子のコミュニケーションに及ぼすレクリエーションの効果 - 英語学習場面を用いて -	共著	2011年5月	日本保育学会 第64回大会	英語を取り入れた親子交流型レクリエーションに参加した保護者の参加する前と後の意識変化に着目した. 結果,親子ともども英語に親しみをもち学習意欲や英語に対する関心が高まることが明らかになった.さらに,親子の交流場面においても英語を取り入れたいという意識は高まり,実際に普段の親子の会話で英語が取り入れられていることがわかった.また,親子で参加するレクリエーションは,親が子どもの個性や特徴を知る機会となり,子ども理解が深まることが示された. (本研究は日本レクリエーション協会からの助成金による調査研究である)

保育専攻学生における自信獲得・喪失経験に関する縦断的検討	共著	2011年5月	日本保育学会 第64回大会	保育者養成校において様々な体験をしながらも,学生自身が自らの感覚に基づいて意味づけた自信獲得/喪失経験が,どのように相互作用しながら保育者効力感の変動に影響するのかについて,いくつかのパターンを抽出し,縦断的に検討することを目的とした.自信喪失経験の変容を背景要因として,自信獲得経験の推移パターンの類型化を行なった結果,「人気過大評価」「他者評価依存」「人気が支え」の3タイプに分類された.記述内容では,控え目な自己評価が具体的な保育者としての技術に関する内容へと,多く見られるようになることから,指導のあり方によっては少しの自信を糧にした学生の主体的な成長を促す「適度な」保育者効力感を形成できる可能性があると考えられた.
教師への信頼感形成に関する研究	単著	2011年11月	日本応用教育心理学会 第26回研究大会	幼稚園・保育所,小学校,中学校,高校の各ステージにおける幼児・児童・生徒の視点から信頼できる教師とはどのような関わりを持つ教師なのかを具体的体験の自由回想に基づき明らかにした.結果,各ステージにいくらかの特性がみられた.例えば,保育所・幼稚園時代では,「遊ぶ」「接する」などのスキンシップ的コミュニケーションが信頼をもたらす要因であるのに対して,小学校以後は,「聞く」「相談にのる」「言う」などの言語的コミュニケーションが教師への信頼の要因と変化していくことが示された.
親子の信頼関係尺度に関する予備的研究	共著	2011年11月	日本応用教育心理学会 第26回研究大会	親子間における信頼関係尺度を作成し，その信頼性と妥当性を検討することを目的とした.結果,抽出された7因子の内，「見守られ」因子，「相談相手」因子.「自己受容」因子，「親役割」因子「親の向上心」因子「親の支援」因子の6因子と落合ら(1996)の「信頼承認」，「困難時の支援」との間に有意な正の相関がみられた.本研究の「親の感情抑制」因子と「信頼承認」，「困難時の支援」との間に有意な負の相関がみられた.また,「親の感情抑制」の項目は逆転項目であり，負の相関が有意であるということは，親が感情を抑え理性的な態度であればあるほど「信頼承認」「困難時の支援」の尺度と高い正の相関があることを意味している.以上の結果は，予想される結果であり本尺度は十分な妥当性を備えていることが示された.

保育学生の伝承遊び体験①-伝承遊びの有無とお手玉体験-	共著	2012年5月	日本保育学会 第65回大会	保育者養成校での保育内容の授業における教材研究として,保育教材「お手玉」に注目し,製作を含めた「お手玉体験」を設定した.参加学生の自由記述から,授業におけるお手玉体験の効果について検討した結果,お手玉経験はあるものの,多くの保育学生は,お手玉に対して「昔のもの」といった印象を抱いており,お手玉を用いた様々な遊びの案を持っていないことが明らかになった.保育学生による子ども時代の経験値のみではなく,保育者養成校での遊び体験も必要であることが示唆された.
保育学生の伝承遊び体験②-お手玉授業の効果-	共著	2012年5月	日本保育学会 第65回大会	本研究での目的,伝承遊び「お手玉」の授業（全3回）を通した学生の意識変化を検証した結果,保育学生が養成校の授業を通してお手玉に対する好感度や親しみやすさを向上させ苦手意識を減少させたことが明らかになった.養成校において保育内容・健康の授業をすすめる上で,「伝承遊びを実際に行っている映像の視聴」や「学生が自身で,伝承遊びに使用する道具を製作すること」「体験すること」を積極的に取り入れることで,より効果的で実りある教育が行われることの可能性が示唆された.
保育内容・健康におけるお手玉を題材とした実践的授業の効果―学生の保育教材としてのお手玉に対する意識変化―	共著	2013年3月	日本幼少児健康 教育学会 第31回大会	幼児の体力・運動能力の向上に効果的な遊びが様々あることを理解する機会を設けるため,日本の伝承遊びの1つであるお手玉を保育内容・健康の授業で取り上げ,そこでの学生の意識変化について調査した.質問紙から,実践的授業によって学生のお手玉に対する意識が「難しいもの」から「簡単・身近なもの」へと変化し,お手玉の魅力や遊びの幅の広さにも気付いていったことが明らかになった.他に学生がお手玉を「幼児にも扱いやすいもの」として捉えなおしたこと,お手玉の大きさ,重さ,中に入れる素材を変化させることで,運動発達段階を意識した遊びを工夫できることに気付いていったことが考察された.
幼児の保育者に対する信頼感に関する研究	共著	2013年5月	日本保育学会 第66回大会	保育経験者58名を対象に質問紙調査法を用いて,子どもが保育者を信頼することについて,どのようにとらえているのかを調査した.結果,57名の保育者が子どもから信頼された実感をもっており,0歳から6歳の全ての年齢の子どもと信頼関係を築けた実感をもっていることがわかった.また,信頼されるために多くの保育者が,「一緒に子どもと遊ぶ」「真剣に子どもの話を聞く」「子どもの気持ちに寄り添い,受け止める」ことを実践していることが示唆された.受け止める,発信するという両方の行為から真摯に子どもと向き合い,子どもから信頼を得る実感をもつことが窺えた.

Examination of Feeling of Trust Toward Children for ECEC Teachers	共著	2014年8月	The15th Conference of the Pacific Early Childhood Education Reserch Association	This study examined how feeling of trust toward children is expressed by ECEC teachers through interview method. We carried out the interview investigation using the semi-structured method for 20 female ECEC teachers who had more than ten years of childcare career. They consisted of two groups: One is ten public kindergarten teachers and the other ten public nursery school teachers. We examined the characteristic feeling that they got when they were able to be confident to have trust feeling between a child and themselves. We found several differences between these two groups.
校外授業を通した保育内容の総合的理解	共著	2015年5月	日本保育学会 第68回大会	2年制の保育者養成校で保育内容の授業担当者による実践報告で,保育内容はそれぞれの領域の「ねらい」をもちながら,領域別に指導されるものではなく,遊びを通して総合的に展開されるものであることを学生が理解できることを目的とした2年間の取り組みである.校外授業により,1つの活動には,保育内容の観点が複合的に含まれていることを体験的に理解するきっかけとすることができたように捉えられた.また,保育の実践を想定し,実際の素材を共有しながらの学習は,具体的な学びとして学生の意欲を引き出し,より深く,また広く学習成果を生み出すことを提示した.
保育者のとらえる子どもからの信頼感を築く行動-子どもの年齢と保育経験による比較-	共著	2015年8月	日本学校心理士会 2015年度大会	保育者の視点を元に信頼感をとらえ,保育者に尋ねることにより,信頼関係を築くために保育者がどのような子どもへの関わりをしているのか,保育者の意識を明らかにした.また,子どもの年齢や保育歴によって信頼関係を築くための関わり方に対する意識に違いはあるのかについて着目した.結果,3歳以上の子どもにおいて,表面的な関わりである「外的接近」よりも,子どもの心に寄り添い内面まで理解して関わろうとする「内的接近」に対する保育者の意識が高いことがわかった.熟年保育者は若年保育者よりも子どもに関わる意識が高いことがわかった.
保育者のとらえる子どもとの信頼感-子どもと保育の変化-	単著	2015年12月	日本応用教育心理学会 第30回研究大会	保育者が子どもと信頼関係を築くことにより,どのような変化があるのかを明らかにした.結果,子どもの変化におけるカテゴリー「心」と「獲得」が出現し,信頼関係によって築かれた子どもの心の状態と何かができるようになるという獲得が関連していることがわかった.また,保育の変化におけるキーワード「保育者」「子ども」「保育実践」「保護者」「全体」は,保育者の肯定的感情を示すものであった.子どもとの信頼関係をもとにした保育を展開できるということが,保育職に対する肯定感に繋がり,仕事を続けられる要因となることが示唆された.

保育者のとらえる子どもとの信頼感-幼稚園教諭の保育歴による比較-	共著	2016年5月	日本保育学会 第69回大会	子どもとの信頼感を保育者の視点でとらえ,保育者が感じている信頼感をみる.保育者の語りからみられる「気付き」に着目し,保育者の意識を明らかすると共に保育歴による比較検討を行った.保育者の気付きの多くは,自分自身を振り返った反省や新たな見方を獲得するもので,これが信頼関係を築くための子どもへの多様な関わりを可能にすることを示唆した.また,経験は保育者にとっての確信した学びとなり(経験年数が関与する),子どもと信頼関係を築けた感覚が保育者としての自信や喜びに繋がることを示唆した.さらに,困った時に,的確な助言をもらい学べる環境は保育者としての専門的な見方をもって成長することを可能にすることを指摘した.
子どもとの信頼感-出会いから数年後の子どもの姿-	単著	2016年11月	日本応用教育心理学会 第31回研究大会	幼稚園教諭と小学校教諭の55名を対象に,子どもとの出会いから数年後に現れる子どもとの信頼感に関して語られたインタビューの結果をまとめた.一部の教師・保育者は,担任を離れた後に子どもとの接触があり,そこから長期に渡る信頼感の可能性を感じる場合もあることが示唆された.保育/教育としての日々の実践が,すぐに結果として実感できない場合もあることがわかった.しかし,数年後に,教師/保育者の前で現す子どもの姿は,当時の教師・保育者の存在が子どもの心に確かに残っていることを示す.教師・保育者の日々の姿から,子どもが確かに感じとっているものがあることが窺えた.
児童文化教材作成と指導案立案をつなぐ授業展開の課題-「保育内容・言葉」の授業における学生の意識調査から-	共著	2016年11月	日本乳乳幼児教育学会 第26回大会	「保育内容・言葉」の授業において,児童文化教材作成と指導案立案を行い,学生の意識調査を実施した.結果,教材の作成過程において子どもへの意識が高まっているにも関わらず,教材の出来不出来など技術的な側面や「言葉」という科目としての課題によってせっかく持っていた子どもへの思いがつながらないことが課題としてあげられた.子どもに伝えたいことを教材に具現化しながら,それを随時,指導案に反映させていくことで,指導案のねらいや内容につながりやすい過程を設定できることが考えられる.また,教材を作りながら保育手順を指導案に書き込んでいくことにより,子どもへの意識や教材の持つ楽しさへの意識,さらに具体的な立案への意識が高まることを期待する.

保育者がとらえる子どもとの信頼感-保育歴による子どもの姿-	単著	2016年12月	日本学校心理士会 2016年度大会	保育者が感じる信頼関係を築けた子どもの姿について,保育歴による比較検討を行った.結果,全ての保育者は,以前とは異なる子どもの言葉や態度から信頼関係を築けたことを感じていることが窺えた.特に,想いや考えを保育者に伝える子どもの姿は明確な子どもの変化としてとらえられていることがわかった.一方,保育者からの子どものへの働きかけに対して応答的に関わる子どもの姿については,若年保育者よりも熟年保育者の方が意識が高いことがわかった.熟年保育者は,自身の関わりからみられる子どもの姿についても,より敏感にとらえていることが示唆された.
保育者がとらえる子どもとの信頼感-保育士における検討-	共著	2017年5月	日本保育学会 第70回大会	保育士が感じている信頼感を子どもの姿から明らかにした結果,子どもの年齢により異なる姿がみられることがわかった.主に0歳から4歳では,信頼関係を築く前の子どもの姿について,「泣く/保育者を拒否する」子どもの態度が多く見られ,5歳-6歳では友達関係や活動における子どもの態度に関する内容が多かった.3歳以上児では,自分で出来ることが増える一方で自分の思いの全ては通らないことの他,友達や家庭のことも関係して子どもの内面がより複雑に現れた姿であることが窺えた.

(教育活動)				
高校生(神奈川県住吉高等学校3年生)を対象とした保育模擬授業		2013年5月		
高校生(神奈川県立城郷高等学校2年生)を対象とした保育模擬授業		2013年11月		
高校生(神奈川県立百合ヶ丘高等学校2年生)を対象とした保育模擬授業		2013年12月		
高校生(神奈川県立住吉高等学2年生)を対象とした保育模擬授業		2014年1月		
高校生を対象とした保育体験授業(短大見学会)		2014年8月		
高校生を対象とした保育体験授業(短大見学会)		2015年8月		
高校生(神奈川県立住吉高等学2年生)を対象とした保育模擬授業		2015年11月		
高校生を対象とした保育体験授業(短大見学会)		2016年8月		
高校生(東京都立若葉総合高校2年生)を対象とした保育模擬授業		2016年11月		
(社会的活動等)				
学校法人旭川荘 旭川荘療育アカデミー講師		2007年7月		
学校法人旭川荘 旭川荘療育アカデミー講師		2008年7月		
学校法人旭川荘 旭川荘療育アカデミー講師		2009年6月		
岡山市学童保育連絡協議会 講習会講師		2009年10月		
岡山市学童保育連絡協議会 講習会講師		2009年11月		
学校法人旭川荘 旭川荘療育アカデミー講師		2010年6月		
日本海新聞「子どもの周辺」執筆		2016年4月		タイトル『子どもとの信頼関係』の記事
日本海新聞「子どもの周辺」執筆		2016年12月		タイトル『外発的動機づけから内発的動機づけへ』の記事
日本海新聞「子どもの周辺」執筆		2017年10月		タイトル『子どもの反抗期』の記事
日本海新聞「子どもの周辺」執筆		2018年3月		タイトル『新しい環境』の記事

教　育　研　究　業　績　書

２０１８年５月１日
氏名　山本　有紀

著書･学術論文などの名称	単　著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概　　要
(論文･紀要等)				
「ラテラリティに関する心理学的研究 −利き手を決めるのは主観か−」	単著	2006年3月	青山学院大学 (69ページ)	学位論文(学士) ラテラリティには「身体の対器官において、一方が他方より優先的に使用されること」といった定義があるが、解釈は統一されていない。多く用いられている利き手の質問紙において、その信頼性が高く評価される一方、妥当性を問題視する先行研究が多い。利き手質問紙における妥当性の問題を、優先使用と機能的優先性の不一致の状況と仮定し、種々の課題から、意識の構えが、利き手を決定する要因として強いことを検討した。
「ラテラリティに関する心理学的研究 −利き手を決めるのは主観か−」	単著	2006年3月	青山心理学研究 (5), 別冊, 青山学院大学心理学会 (4ページ)	2005年度卒業論文要約集として、4ページにまとめたものである。(pp.121～124)
「現代大学生の対人関係における感受性 ー感じやすさの背景文脈ー」	単著	2008年3月	首都大学東京大学院 (99ページ)	学位論文(修士) 現代大学生の心的傷つきやすさがどのような文脈のもとに生じているのかについて、愛着、病理の枠組み、社会的スキルに代表される対人認知的側面からではなく、生物、文化、社会といった様々な要因が背景として複雑に絡み合う中で生きる個々の人間像として、発達的観点から青年期心性を捉えた。
「没入型ディスプレイを用いたアーケードゲームにおける視聴覚情報がプレイヤーのゲームパフォーマンスに及ぼす効果」	共著	2010年9月	デジタルゲーム学研究 4 (1) (10ページ)	実験実施協力者の役割であり、抽出不可。 瀬谷 安弘・佐藤 皇太郎・木村 祐介・大久保明・遠山 茂樹・山形 仁・笠原 和美・藤懸大也・山本 有紀・池田 華子・渡邊 克巳
「子ども理解と援助に関する心理科目からの検討(1)発達理解 ー実習での戸惑いと対応に関する実態調査ー」	単著	2011年2月	洗足学園音楽大学 洗足こども短期大学 洗足論叢　第39号 (12ページ)	子ども理解と援助の要素から発達理解に焦点を当て、実習での子どもとの関わり、発達と個人差の捉え方と発達理解の意義、理論と実際の相違の実感について実態を把握した。「子ども理解」の様々な側面、発達と個人差の捉え方、子ども理解の方法についてまとめた。調査を通じて、実習と心理科目の連関を目指した。(pp.111～122)(研究ノート)
「子ども理解と援助に関する心理科目からの検討(2)心情把握 ー実習における心情把握の方法および対応の実態ー」	単著	2012年2月	洗足学園音楽大学 洗足こども短期大学 洗足論叢　第40号 (10ページ)	実習での子どもの心情把握と援助の実態に焦点を当て、学生の意識、カウンセリングマインドの視点、心情把握の方法を探った。心情把握に困難を抱えている現状として、子どもの心情を直感的、感覚的に把握するばかりで、背景や直前直後の反応等の事実をつなげて考えていないこと、把握から実際の子どもの関わりへ反映、省察が不十分とわかった。(pp. 177～186)(研究ノート)

「観察および記録に関する一試論　ー心情把握の根拠ー」	単著	2013年2月	洗足学園音楽大学 洗足こども短期大学 洗足論叢 第41号 （14ページ）	実習での子どもの心情把握の方法（観察と記録、保育でのアセスメント）、根拠と確信、実習日誌（事例と考察、省察）の実態を探った。一方的な映像学習や非言語的特徴の分析のみでは、心情把握の客観性を高め、明確な根拠にならないという実感が深まった。心情把握で客観性や妥当性を高めるために全体性、関係性、状況性の視点が欠かせず、背景把握が必要とわかった。（pp.91～104）
「保育者養成課程における乳幼児の発達理解について　ー育ちの記録の作成による学びー」	単著	2017年2月	洗足学園音楽大学 洗足こども短期大学 洗足論叢 第45号 （15ページ）	保育者養成課程の心理科目で求められる到達目標のうち、生涯発達、個人差や発達過程に応じた保育、発達の課題に応じた援助や関わり、発達の連続性の教授法や事前事後学習の工夫が望まれる現状である。学生自身の幼少期の発達と養育者や保育者の関わりをまとめ、学生同士で課題を見合うことで、乳幼児の発達についての理解が深まり、発達の個人差を実感し、学びを確認、意欲を喚起した。学習成果を確認する機会となった。（pp.141～155）
（著書）				
「シードブック　保育にいかす精神保健」	共著	2010年3月	建帛社 （208ページ）	保育者に求められる姿勢であるカウンセリングマインド、保育者による保護者面接、送迎時などの日常の場を活用した支援、傾聴、受容、共感などカウンセリングの代表的な技法を用いた保護者とのコミュニケーションの方法をまとめた。子どもを取り巻く環境である保護者を支援することが、子どもへの援助につながることを述べた。（pp.176～178：第11章4「保護者への具体的な対応」） [編著] 宮本 信也、小野里 美帆 [共著] 山本 有紀、他11名
「シードブック　保育の心理学Ⅰ・Ⅱ」	共著	2011年1月	建帛社 （240ページ）	自閉症、注意欠陥多動性障害などの発達障害や知的障害などの全体構造、各障害の主症状と保育現場で関わる幼少期の子どもの状態、発達障害と虐待の関連性、PTSD、愛着障害の症状やその原因について述べ、保育での対応の留意点をまとめた。障害を含め、子どもの様々な状態を理解した発達援助の実践力の修得を目指して執筆した。（pp.123～133：第13章「子どもの精神的健康と障害」） [編著] 本郷 一夫 [共著] 山本 有紀、他14名
「学びと教えで育つ教育心理学　ー教育心理学入門ー」	共著	2011年3月	保育出版社 （196ページ）	粗大運動や微細運動といった乳幼児の身体運動発達の様相、児童期以降の運動能力の発達を述べた。運動不足、易疲労感、成熟前傾など現代社会の子どもの運動発達の問題、運動の成功体験による自己概念の形成、教育上の留意点を述べた。（pp.29～32：第2章3節「発達の諸相と教育身体と運動の発達」） [編著] 小林 芳郎 [共著] 山本 有紀、他30名

「保育の心理学Ⅰ」	共著	2012年4月	一藝社 (216ページ)	乳幼児の遊びの意味、見立て遊びやごっこ遊びなど遊びの分類、一人遊びや並行遊びなど発達の様相、保育者の遊びへの関わりと留意点、仲間関係の発達の様相、いざこざをはじめとする保育での仲間関係の問題、仲間関係の役割と学び、保育現場での子ども同士の関係づくりの支援について述べた。(pp.103～114:第8章「遊びと仲間関係」) [監修] 林 邦雄・谷田貝 公昭 [編著] 谷口 明子・西方 毅 [共著] 山本 有紀、他13名
「保育の心理学Ⅱ」	共著	2012年4月	一藝社 (208ページ)	乳幼児の身体運動発達、運動を通じた有能感による自己概念の形成、現代の子どもの身体運動傾向、乳幼児期の情緒の発達、情緒の機能、成立と分化、情緒の表出と調整、かみつきなど現代での情緒の問題と対応、足場づくりを主とした保育での関わりを述べた。(pp.37～48:第3章「身体運動・情緒発達における経験と環境、現代社会の問題」) [監修] 林 邦雄・谷田貝 公昭 [編著] 西方 毅・谷口 明子 [共著] 山本 有紀、他13名
「理論と子どもの心を結ぶ保育の心理学 」	共著	2012年4月	保育出版社 (184ページ)	ヴィゴツキーの理論から子どもの創造活動、創造過程、保育実践と結びつけて集団遊びでの創造性、幼少期の創造性について述べた。(pp.125～128:第8章2節「子どもの創造性とは」) ヴィゴツキーの理論をもとに、子どもの自己表現活動としてのアート、ごっこ遊びや劇遊びなどの遊びでの想像と創造、描画の発達、模倣、想像と創造を高める保育者の関わりについて述べた。(pp.129～132:第8章3節「子どものあそびとアート」) [編著] 大橋 喜美子 [共著] 山本 有紀、他29名
「生きる力を育てる臨床心理学」	共著	2013年4月	保育出版社 (183ページ)	性格形成に影響を与える内・外的要因と相互作用、学習による行動変容、自己制御、観察学習による性格形成について述べた。また各発達段階での性格形成の様相、幼少期であっても理想の自分を描き、望ましい性格や振る舞いをしようと努力すること、モラトリアムや中年期危機など、各発達段階で生じる適応の危機について述べた。(pp.21～23:第2章2節「性格の形成と発達段階」) [編著] 小林 芳郎 [共著] 山本 有紀、他52名
「保育の心理学ワークブック」	共著	2014年1月	建帛社 (128ページ)	乳幼児の信頼形成、適応、生きる力の形成を、子ども理解と援助や子育て相談を想定し、基本的生活習慣、保護者支援の事例を加えて解説した。第一反抗期と大人の関わり、愛着の問題と大人の関わり、情緒反応の乏しい子どもの障害や心の問題の演習を挙げた。関連して、愛着やエリクソンの発達課題も触れた。(pp.59～66:Ⅲ関係・連携の中での子どもの育ち 第8章「子どもと保育者の関係を育てる」) [編著] 本郷 一夫 [共著] 山本 有紀、他13名

「新しい心理学へのアプローチ」	共著	2014年12月	保育出版社 （188ページ）	感覚と知覚の違い、協応、視覚など感覚の構造、胎児期や乳児期など発達初期の様相を述べた。（pp.30～32：第3章1節「まわりの何を感じるのか 感覚とその種類」） 適刺激と不適刺激について、刺激閾と弁別閾について、感覚の順応について、視覚および聴覚の感覚の範囲について、乳幼児期の共感覚の原因、様相を述べた。（pp.33～34：第3章2節「まわりを感じ取る中身とは 感覚の性質と共感覚」） 喃語など前言語を含む言語発達、思考の道具としての言語、話し言葉と書き言葉の獲得について述べた。（pp.56～58：第5章1節「言葉はどのようにして身につくか 言語の獲得」） [編著] 小林 芳郎 [共著] 山本 有紀、他29名
「シードブック　保育の心理学Ⅰ・Ⅱ 第2版」	共著	2015年9月	建帛社 （232ページ）	2011年1月発行「シードブック　保育の心理学Ⅰ・Ⅱ」の第2版において、担当章の改訂を行った。DSM-ⅣからDSM-Ⅴへの改訂における特徴（新設、呼称変更、区分など）、自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害をはじめとし、知的能力障害、注意欠如・多動症/注意欠如・多動性障害（ADHD）の症状および保育現場での対応についてまとめた。また、心的外傷（トラウマ）およびストレス因子関連障害として、①虐待と神経発達障害の関連、②虐待とPTSD（心的外傷後ストレス障害）、③虐待と愛着障害の項目で、各症状と保育現場での対応についてまとめた。（pp. 123～133： 第13章 「子どもの精神的健康と障害」） [編著] 本郷 一夫 [共著] 山本 有紀、他14名
「保育を深めるための心理学」	共著	2018年3月	花伝社 （253ページ）	乳幼児期から自分を把握、形成する様相を述べた。自己感、身体的自己、鏡映自己、第一次反抗期の様相と大人の関わりの留意点、自己評価の特徴、自己制御（自己主張・自己実現と、自己抑制）、児童期以降を含めた自己概念の形成、記憶などを述べた。（pp.70～82、pp.219～221：第6章自他の気づくとき）（問26～30） ［編著］鈴木 敏昭、村上 涼、松 鹿光、加藤 孝士 ［共著］山本 有紀、他13名

（問題集）				
保育士試験科目別問題集 '14年版[下巻]	共著	2014年6月	成美堂出版 （190ページ） （解説32ページ）	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。保育の心理学のポイント、練習問題、本試験型問題の三部構成。（練習問題、本試験型問題については、同問題集'13年を一部修正、作問した。）発達、学習、適応・不適応、保護者支援、評価などに触れた。（pp.5～50、解説pp.2～8） [監修] 近喰 晴子 [共著]山本 有紀、他5名
保育士試験科目別問題集 '15年版[下巻]	共著	2015年3月	成美堂出版 （190ページ） （解説32ページ）	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。保育の心理学のポイント、練習問題、本試験型問題の三部構成。（練習問題、本試験型問題については、同問題集'14を一部修正、作問した。）（pp.6～50、解説pp.2～8） [監修] 近喰 晴子 [共著]山本 有紀、他5名
保育士試験完全予想模試問題集 '15年版	共著	2015年4月	成美堂出版 完全予想模試第1回 （100ページ） 完全予想模試第2回 （101ページ） （解説99ページ）	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当、本試験型問題を作問した。（同問題集を一部修正、作問した。）（問題：第1回pp.1～10、第2回pp.1～12）（解説：pp.30～35、pp.80～85） [監修] 近喰 晴子 [共著]山本 有紀、他10名
保育士試験科目別問題集 '16年版[下巻]	共著	2016年2月	成美堂出版 （190ページ） （解説書32ページ）	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。保育の心理学のポイント、練習問題、本試験型問題の三部構成。（練習問題、本試験型問題については、同問題集'15を一部修正、作問した。）（pp.6～50、解説pp.2～8） [監修] 近喰 晴子 [共著]山本 有紀、他5名
保育士試験完全予想模試問題集 '16年版	共著	2016年3月	成美堂出版 完全予想模試第1回 （109ページ） 完全予想模試第2回 （108ページ） （解説99ページ）	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。（同問題集'15を一部修正、作問した。）（問題：第1回pp.1～10、第2回pp.1～12）（解説：pp.30～35、pp.80～85） [監修] 近喰 晴子 [共著]山本 有紀、他8名
保育士試験完全予想模試問題集' 17年版	共著	2017年2月	成美堂出版 完全予想模試第1回 （109ページ） 完全予想模試第2回 （108ページ） （解説100ページ）	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。（同問題集'16を一部修正、作問した。）（問題：第1回pp.1～13、第2回pp.1～13）（解説：pp.4～10、pp.54～59） [監修] 近喰 晴子 [共著]山本 有紀、他9名
本試験型保育士試験問題集' 17年版	共著	2017年3月	成美堂出版 （262ページ）	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。（科目別問題集'16を一部修正、作問した。） （pp.6～36） [監修] 近喰 晴子 [共著]山本 有紀、他9名

本試験型保育士試験問題集’18年版	共著	2017年12月	成美堂出版 （262ページ）	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。（同問題集’17を一部修正、作問した。）（pp.6-36） [監修] 近喰 晴子 [共著]山本 有紀、他9名
保育士試験完全予想模試問題集’18年版	共著	2018年2月	成美堂出版 完全予想模試第1回 （108ページ） 完全予想模試第2回 （108ページ） （解説101ページ）	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当、本試験型問題を作問した。（同問題集’17を一部修正、作問した。）（問題：第1回pp.1～13、第2回pp.1～12）（解説：pp.4～10、pp.55～60） [監修] 近喰 晴子 [共著]山本 有紀、他8名
（研究発表）				
「グレーゾーンの子どもをめぐる発達支援（5）－アスペルガーの疑いのあるきょうだいの事例におけるやりとりの調節過程の発達的変化－」	共著	2007年3月	日本発達心理学会 第18回大会 大宮ソニックシティ	アスペルガー症候群、高機能自閉症の疑いのあるきょうだいへの、発達支援室での取り組みをまとめたものである。（発表論文集 P.775） 山本 有紀・大津 麻衣子・渡部 未来・須田 治
Effects of Peripheral Visual Information on Performance of Video Game with Hemi-Spherical Immersive Projection Screen.	共著	September 1-4, 2009	*DiGRA2009*, London,9.1-4	実験実施協力者の役割のみである。 Seya, Y. Sato, K., Kimura, Y., Ookubo, A., Yamagata, H., Kasahara, K., Fujikake, H., Yamamoto, Y., Ikeda, H., & Watanabe, K.
「保育所実習の振り返りにおける学生の学びのとらえ方」	共著	2015年5月	日本保育学会 第68回大会 椙山女学園大学	短期大学2年次の保育所実習終了時点での振り返りの記述内容を分析した。学生が子どもの姿からどのような点を学びとしているのか、傾向や着眼点を整理した。実習で体験したことが「気づき」「考察」まで深まらず、「感想」「事実」に留まるものが70%を超えた。実際に捉えた子どもの姿と、これまで学んだ知識との結びつけ、分析を行う経験が不足していると考えられる。 曽野麻紀、並木真理子、桃枝智子、山本有紀
「保育者養成課程の心理学における授業実践－“育ちの記録”作成による視点変化と学び－」	単著	2017年5月	日本保育学会 第70回大会 川崎医療福祉大学	保育者養成課程の心理科目では実践的な発達援助の理解が到達目標だが、各年齢での様相と目安の理解不足の学生の自覚が挙がった。関係性や連続性から捉える意識に乏しい現状である。教授法と課題に工夫が必要で、学習成果の査定、主体的に取り組む事前事後の学習課題が求められる。“育ちの記録”の作成と互いに見ることを課した結果、発達過程の理解を底上げし、各自の関心（例：言葉、描画）を掘り下げることができたが、乳児期より幼児期の理解に繋がりにくい結果となった。感想の記入方法を変えたことで、生涯発達と関係性の視点が全学生に生じ、園の連絡帳を読む、出身園の方針を調べるなど、より保育現場に沿った学びが見られた。（洗足論叢第45号『保育者養成課程における乳幼児の発達理解について―育ちの記録の作成による学び―』（山本有紀、2016）の未発表部分と、追研究として2016年12月から翌1月に収集したデータを加え再分析したものである）。

(教育活動、その他)				
模擬講義		2009年12月	洗足学園短期大学	高校生対象の模擬講義(蒲田女子高等学校)
模擬講義		2010年7月	洗足こども短期大学	高校生対象の模擬講義(蒲田女子高等学校)
模擬講義		2010年4月	洗足こども短期大学	高校生対象の模擬講義(橘高等学校)
模擬講義		2011年7月	洗足こども短期大学	高校生対象の模擬講義(蒲田女子高等学校)
出張講義		2009年12月	洗足学園短期大学	高等学校での出張講義(元石川高等学校)保育における心理学とは何か、感覚・認知発達を例に大人は異なる世界の捉え方について、親の養育行動を引き出す子どもの特徴(生物学的触発機構)について、ワークを挟みながら講義を行った。
出張講義		2010年2月	洗足学園短期大学	高等学校での出張講義(立川女子高等学校) 保育における心理学とは何か、感覚・認知発達を例に大人は異なる世界の捉え方について、親の養育行動を引き出す子どもの特徴(生物学的触発機構)について、ワークを挟みながら講義を行った。
出張講義		2010年3月	洗足こども短期大学	高等学校での出張講義(世田谷総合高等学校)保育における心理学とは何か、感覚・認知発達を例に大人は異なる世界の捉え方について、親の養育行動を引き出す子どもの特徴(生物学的触発機構)について、ワークを挟みながら講義を行った。
出張講義		2010年12月	洗足こども短期大学	高等学校での出張講義(東京都立園芸高等学校)保育における心理学とは何か、感覚・認知発達を例に大人は異なる世界の捉え方について、親の養育行動を引き出す子どもの特徴(生物学的触発機構)について、ワークを挟みながら講義を行った。
出張講義		2010年12月	洗足こども短期大学	高等学校での出張講義(百合丘高等学校)保育における心理学とは何か、感覚・認知発達を例に大人は異なる世界の捉え方について、親の養育行動を引き出す子どもの特徴(生物学的触発機構)について、ワークを挟みながら講義を行った。
出張講義		2012年1月	洗足こども短期大学	高等学校での出張講義(住吉高等学校)保育における心理学とは何か、感覚・認知発達を例に大人は異なる世界の捉え方について、親の養育行動を引き出す子どもの特徴(生物学的触発機構)について、ワークを挟みながら講義を行った。

出張講義		2012年5月	洗足こども短期大学	高等学校での出張講義（港北高等学校）保育における心理学とは何か、感覚・認知発達を例に大人は異なる世界の捉え方について、親の養育行動を引き出す子どもの特徴（生物学的触発機構）について、ワークを挟みながら講義を行った。
出張講義		2012年6月	洗足こども短期大学	高等学校での出張講義（川崎市立高津高等学校）保育における心理学とは何か、感覚・認知発達を例に大人は異なる世界の捉え方について、親の養育行動を引き出す子どもの特徴（生物学的触発機構）について、ワークを挟みながら講義を行った。
出張講義		2014年12月	洗足こども短期大学	高等学校での出張講義（湘南学園高等学校）となりのトトロのメイ（4歳）を例に、身体運動発達、言語発達など、メイの言動に見られる心理と大人の関わりについて触れ、保育における心理学について講義を行った。
出張講義		2014年12月	洗足こども短期大学	高等学校での出張講義（百合丘高等学校：2年生）保育における心理学とは何か、感覚・認知発達を例に大人は異なる世界の捉え方について、親の養育鼓動を引き出す子どもの特徴（生物学的触発機構）について、ワークを挟みながら講義を行った。
出張講義		2014年12月	洗足こども短期大学	高等学校での出張講義（百合丘高等学校：1年生）保育における心理学とは何か、感覚・認知発達を例に大人は異なる世界の捉え方について、子どもの遊び、遊びの中の模倣、課題の効果的な設定として、子どもが模倣で学ぶ過程、スモールステップの原則を用いた課題の設定と取り組み方について、ワークを挟みながら講義を行った。
出張講義		2015年3月	洗足こども短期大学	高等学校での出張講義（生田東高等学校）保育における心理学とは何か、感覚・認知発達を例に大人は異なる世界の捉え方について、親の養育行動を引き出す子どもの特徴（生物学的触発機構）について、ワークを挟みながら講義を行った。
出張講義		2016年3月	洗足こども短期大学	高等学校での出張講義（生田東高等学校：2年生）保育における心理学とは何か、感覚・認知発達を例に大人は異なる世界の捉え方について、親の養育行動を引き出す子どもの特徴（生物学的触発機構）について、ワークを挟みながら講義を行った。
出張講義		2016年11月	洗足こども短期大学	高等学校での出張講義（横浜清風高等学校：2年生）保育における心理学とは何か、感覚・認知発達を例に大人は異なる世界の捉え方について、親の養育行動を引き出す子どもの特徴（生物学的触発機構）について、ワークを挟みながら講義を行った。
出張講義		2017年1月	洗足こども短期大学	高等学校での出張講義（横浜清風高等学校：1年生）保育における心理学とは何か、感覚・認知発達を例に大人は異なる世界の捉え方について、親の養育行動を引き出す子どもの特徴（生物学的触発機構）について、ワークを挟みながら講義を行った。

体験授業		2010年5月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、子どもの描画の発達過程と大人の関わりについて講義を行った。
体験授業		2011年5月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、子どもの描画の発達過程と大人の関わりについて講義を行った。
体験授業		2012年4月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、言語の一般的な発達過程、子どもの言い誤り、発音の難しさ、大人の関わりについて講義を行った。
体験授業		2013年4月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、認知の一般的な発達過程、アニミズムの発達過程と子どもの捉えの特徴について講義を行った。
体験授業		2013年6月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 卒業生の現役保育士と共に、保育士の職務内容、仕事の喜びについてインタビュー形式で講義を行った。
体験授業		2013年8月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、遊びの種類、発達、見立て遊びやごっこ遊びを例に、遊びにおける子どもの興味関心とそれに寄り添う大人の関わりについて、遊びの治療的効果について講義を行った。
体験授業		2013年8月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、遊びの種類、発達、見立て遊びやごっこ遊びを例に、遊びにおける子どもの興味関心とそれに寄り添う大人の関わりについて、遊びの治療的効果について講義を行った。
体験授業		2014年3月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、子どもの描画の発達過程と大人の関わりについて講義を行った。
体験授業		2014年8月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、言語の一般的な発達過程、子どもの言い誤り、発音の難しさ、大人の関わりについて講義を行った。
体験授業		2014年8月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、食事、排泄、睡眠、着脱、清潔といった基本的生活習慣の一般的な発達過程、子どもにとっての難しさ、大人の関わりについて講義を行った。
体験授業		2015年3月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、遊びの種類、発達、見立て遊びやごっこ遊びを例に、遊びにおける子どもの興味関心とそれに寄り添う大人の関わりについて講義を行った。
体験授業		2015年8月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、言語の一般的な発達過程、子どもの言い誤り、発音の難しさ、大人の関わりについて講義を行った。

体験授業		2016年3月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、子どもの仲間関係の意義とその発達、保育場面でのいざこざの対応について講義を行った。
体験授業		2016年7月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、言語の一般的な発達過程、子どもの言い誤り、発音の難しさ、大人の関わりについて講義を行った。
体験授業		2016年8月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、言語の一般的な発達過程、子どもの言い誤り、発音の難しさ、大人の関わりについて講義を行った。
体験授業		2017年6月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、”崖の上のポニョ”の宗介くんを例に、幼児の思いやりの発達と心理、大人の関わりについて講義を行った。
体験授業		2018年3月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、子どもの描画の発達過程と大人の関わりについて講義を行った。
進学相談会における模擬講義		2010年3月	横須賀 学外進学相談会	横須賀学外進学相談会 （横須賀産業交流プラザ） 「赤ちゃんのかわいらしさの秘密を探ろう！」 親の養育行動を引き出す子どもの特徴（生物学的触発機構）について、ワークを挟みながら講義を行った。
進学相談会における模擬講義		2017年4月	進学相談会 主催： 神奈川県私立 短期大学協会	2017進学相談会かながわ短大フェア （パシフィコ横浜） 「子どもの顔に隠された秘密とは？ −乳幼児の心理学より−」 子どもの視覚などの感覚発達を例に大人は異なる世界の捉え方について、親の養育行動を引き出す子どもの特徴（生物学的触発機構）について、ワークを挟みながら講義を行った。
夢ナビ講義ライブ2013		2013年7月	主催　フロムページ 後援　文部科学省 共催　河合塾・Z会・ 受験サプリ・ 進研ゼミ高校講座	フロムページ主催の夢ナビライブでは、大学教員が学問の魅力を30分間でわかりやすく紹介する。2013年東京会場（東京ビッグサイト）では、305の講義ライブが実施された。 「となりのトトロから学ぶ子どもの発達と心理」と題し、登場人物のメイ（4歳）の言葉や行動、表情などの映像を元に、一般的な子どもの発達の様相、個性、心理、乳幼児への大人の関わり方に関して講義を行った。 ・夢ナビ講義 http://yumenavi.info/lecture.aspx?GNKCD=g005620

夢ナビ講義ライブ2014		2014年7月	主催　フロムページ 後援　文部科学省 共催　河合塾・Z会・受験サプリ・進研ゼミ高校講座	フロムページ主催の夢ナビライブは、大学教員が学問の魅力を30分間でわかりやすく紹介する。2014年東京会場（東京ビッグサイト）では、349の講義ライブが実施された。「となりのトトロから学ぶ子どもの発達と心理」と題し、登場人物のメイ（4歳）の言葉や行動、表情などの映像を元に、一般的な子どもの発達の様相、個性、心理、乳幼児への大人の関わり方に関して,講義を行った。 ・夢ナビ講義 http://yumenavi.info/lecture.aspx?GNKCD=g005620 ・受講者の声 http://yumenavi.info/live/uketuke/kakunin/Kuchikomi_pc.aspx?kjid=s800622001&kougicd=20040
夢ナビ講義ライブ2015		2015年7月	主催　フロムページ 後援　文部科学省 共催　河合塾・Z会・受験サプリ・進研ゼミ高校講座	フロムページ主催の夢ナビライブは、大学教員が学問の魅力を30分間でわかりやすく紹介する。2015年東京会場（東京ビッグサイト）では、301の講義ライブが実施された。「となりのトトロから学ぶ子どもの発達と心理」と題し、登場人物のメイ（4歳）の言葉や行動、表情などの映像を元に、一般的な子どもの発達の様相、個性、心理、乳幼児への大人の関わり方に関して,講義を行った。 ・夢ナビ講義 http://yumenavi.info/lecture.aspx?GNKCD=g005620 ・受講者の声 http://yumenavi.info/live/uketuke/kakunin/Kuchikomi_pc.aspx?kjid=s800622001&kougicd=20040
夢ナビ講義ライブ2016		2016年7月	主催　フロムページ 後援　文部科学省 共催　河合塾・Z会・受験サプリ・進研ゼミ高校講座	フロムページ主催の夢ナビライブは、大学教員が学問の魅力を30分間でわかりやすく紹介する。2016年東京会場（東京ビッグサイト）では、333の講義ライブが実施された。「となりのトトロから学ぶ子どもの発達と心理」と題し、登場人物のメイ（4歳）の言葉や行動、表情などの映像を元に、一般的な子どもの発達の様相、個性、心理、乳幼児への大人の関わり方に関して,講義を行った。 ・夢ナビ講義 http://yumenavi.info/lecture.aspx?GNKCD=g005620 ・受講者の声 http://yumenavi.info/live_archive/uketuke/kakunin/KliveList_Pc.aspx?p=tokyo

夢ナビ講義ライブ2017		2017年7月	主催　フロムページ 後援　文部科学省 共催　河合塾・Z会・ 受験サプリ・ 進研ゼミ高校講座	フロムページ主催の夢ナビライブは、大学教員が学問の魅力を30分間でわかりやすく紹介する。2017年東京会場（東京ビッグサイト）では、384の講義ライブが実施された。 「となりのトトロから学ぶ子どもの発達と心理」と題し、登場人物のメイ（4歳）の言葉や行動、表情などの映像を元に、一般的な子どもの発達の様相、個性、心理、乳幼児への大人の関わり方に関して,講義を行った。 ・夢ナビ講義 http://yumenavi.info/lecture.aspx?GNKCD=g005620

教　育　研　究　業　績　書

２０１８年５月１日
氏名　下尾　直子

著書･学術論文などの名称	単　著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概　　要
（著書）				
「施設実習ガイド」	分担執筆	2018年5月	ミネルヴァ書房	第2章第2節pp.426～27、第7節pp.38～40 第3章第1節pp.44～50　・第2節pp.50～56 実習前の心構えとして、実習生が不安に思う面を取り除き、実習前の準備が怠りなく行えるよう、どんなことを事前に学習しておくべきかを丁寧に書いた。
「知的障害のある子を育てた母の障害観 ICFによる質的分析から」	単著	2018年3月	生活書院（302ページ）	博士論文の出版である。知的障害児の母親4グループのグループディスカッションデータをICFコードにリンキングして分析を行った。母親の障害観は、障害児を育てることで医学モデルに依拠しながら社会モデルの視点をもつようになり、両モデルの交差が母親の障害観の中にみられることを示した。
「実習生の日誌事例から考察する　社会的養護内容」	編集・分担執筆	2017年9月	大学図書出版	編集　はじめにpp3　第2章1節（4）pp.21～23、第3節pp.30～32、第3章1節pp.38-45、第5章2節pp.20～22　～施設職員の視点ではなく実習生のの日誌事例を考察する内容で、教科書全体をまとめる企画をし、障害の氷山モデルや、障害のとらえ方、障害者の通所・通園施設についての概要、社会的養護における家庭的養護とはなどを執筆した
「演習・保育と障害のある子ども」	分担執筆	2017年3月	みらい	pp. 29～38　第2章障害児保育の基本を学ぶ～障害の概念を医学モデルと社会モデルの対比から確認し、「ショウガイ」の表記についての議論など、昨今の障害概念の変遷に触れ、ICFの構成要素を使った関連図で子どもの生活機能を捉える方法を紹介している
「特別支援教育のおけるICFの活用　Part3 学びのニーズに応える確かな実践のために:	分担執筆	2013年1月	ジアース教育新社/（独）国立特別支援教育総合研究所編	pp.170 ～178:第Ⅳ章1「小中学校でのICF-CY活用の可能性」～特別支援学校教員や小中学校教員らの挙げた事例に基づき、ICFは特別支援教育にだけでなくすべての子どもに共通して適用できる概念であり、特に参加の実行状況を高めることをスタートとして活動の能力や心身機能まで高めることが可能であることを示唆している。
「社会福祉（保育士養成課程）」	分担執筆	2012年10月	宇山勝儀・小林理編著/光生館	宇山勝儀・小林理編著 <分担執筆箇所＞ 第6章第2節「地域福祉の推進」pp.134～145～ 近年の社会福祉の主流である地域福祉の基本的考え方を書いた。自助・共助・公助がバランスよくすべてなければ、住民主体の地域福祉は成立しない。特に、高齢者福祉・災害福祉との関係では、これからの地域福祉が重要である。
「ICF及びICF-CYの活用　試みから実践へ」	編集・分担執筆	2007年4月	ジアース教育新社/（独）国立特別支援教育総合研究所/世界保健機関（WHO）編	pp.102～110第3章第2節「学級担任と保護者の面談にICF-CYを活用した取り組み」pp.132～140第3章第5節「ICFを利用した支援ツールを電子化する試み」pp.174～178第4章第5節「ICFを使った理解啓発」～特別支援学校または通常学校の中でICFを活用して主に連携を深めていく支援の方法について論を展開した。特に、保護者と教員のあいだの共通言語としてのICFに着目した。

「ICF活用の試み～障害のある子どもの支援を中心に」	編集・ 分担執筆	2005年4月	ジアース教育新社/ （独）国立特別支援 教育総合研究所/ 世界保健機関（WHO）編	pp.115～118：第3章第2節「家族の視点から見たICF－家族と専門家が一緒に考えるツールとしてのICF] pp.176～182：ICF関連資料一覧」～家族と本人がICFを介してニーズを整理し、他者伝えていく道具としてICFがどのようにつかるか、その可能性を述べた。
（論文）				
「知的障害児の母親の障害観にみる障害モデルの共存 ～ICFによる質的分析～」	単著	2016年3月	日本女子大学 人間社会学研究科 社会福祉学博士号 請求論文	障害のある子どもをもつ母親らのグループディスカッションをICFで分析し、母親の障害観が子育ての過程で変容し、社会モデルと個人モデルの交差という独特の障害観を示すことを示唆した、
「障害のある子の親との信頼関係を構築する保育者の伝え方一連絡帳のICF分析を通して」	単著	2013年2月	洗足論叢 第42号	障害のある子の保護者と保育所や通園施設の担任との連絡帳ICFコードで分析sることにより、信頼される保育士の伝え方に共通の特徴があることが認められた pp.141～154
発達障害のある子どもの行動に対する「よく知らない人（ICF）」の態度	単著	2008年7月	福祉のまちづくり研究 第10巻第1号 福祉のまちづくり学会	発達障害のある子どもが、WHO発行のICFにおいて「よく知らない人」とコード化される環境因子との影響をいかにうけているかについて考察した pp.12～16
障害のある子を中心にしたミュージカル活動―WAKU2ｷｯｽﾞﾐｭｰｼﾞｶﾙ実践報告	単著	2008年3月	国立青少年教育 振興機構研究紀要 第8号 国立青少年教育 振興機構	横浜北部地域を中心に活動すうr「WAKU2キッズミュージカル」独自のミュージカル創作過程を報告し、参加者の変容を追った報告である。pp.115～125
個別の教育支援計画へのICFの活用	共著	2007年9月	発達障害研究 第29巻4号 日本発達障害学会	「個別の教育支援計画」の策定にあたり、保護者からの情報収集をICF-CY付箋カードを使った面談によって行った実践の事例研究を行った。 pp.254～261 下尾直子・関戸英紀
（報告書）				
「ICF児童青少年期バージョンの教育施策への活用に関する開発的研究」	共著	2008年3月	（独）国立特別支援教育 総合研究所	pp.59～63：Ⅰ－8「ICF-CYに期待すること一家族の視点から」 pp.119～122：Ⅱ－7「ICF-CYのコーディング活用の可能性」 pp.123～127：Ⅱ－8「電子化によるICF-CY活用の取り組」

（学会発表：口頭発表）				
「知的障害児の母親の障害観にみる障害モデルの共存 ～ICFによる質的分析～」	単著	2016年7月	日本女子大学 社会福祉学会	博士論文公開発表
知的障害のある子をもつ母親が語る「結婚」～ICF-CYで分類したFGDから～	単著	2013年9月	日本家族社会学会 第20回大会	知的障害のある子を持つ母親のフォーカスグループインタビューデータをICF-CYのコードで分類し、母親が語る子供の結婚観について分析した
知的障害のある子の母親が卒後に振り返る「学校時代」～ICF-CYで分類した母親のフォーカスグループディスカッションデータから	単著	2010年9月	日本特殊教育学会 第48回大会	知的障害のある子を持つ母親のフォーカスグループインタビューデータをICF-CYのコードで分類し、「学校時代」について分析した
ICF-CY序論「家庭関係における子ども」をみる－社会モデルからの示唆－	単著	2009年10月	日本社会福祉学会	WHOのICF-CY序論にある「家庭関係のおける子ども」を社会モデルの「脱家族論」の文献研究により論じた
ICFモデルにおける「家族」～ICF-CYの「child in the context of the family」を捉えるために～	単著	2008年6月	日本女子大学 社会福祉学会	WHOのICF-CY序論にある「家庭関係のおける子ども」という表現に着目し、ICFモデルにおける「障害児家族」について論じた
（学会発表：ポスター発表）				
「知的障害のある子をもつ母親のFGDで現れた「かすがい」とう他者援助機能―ICFによる質的分析」	単著	2016年9月	日本社会福祉学会	知的障害のある子を持つ母親のフォーカスグループインタビューデータをICF-CYのコードで分類し、母親が語る子のプラス機能である「かすがい」について分析した
統合保育における障害児の保護者との連絡帳～ICF分析～	単著	2014年9月	日本特殊教育学会 第52回大会	保育園に通う障害幼児の保護者と保育士の連絡帳をICFを使って分析し、連絡帳の応答次第で保護者の変容が見られることを指摘した
特別支援教育における「家族を背景にした子ども」―ICF-CYの活用を目指して―	単著	2008年9月	日本特殊教育学会 第46回大会	「特殊教育学研究3」「日本特殊教育学会大会論文集4」」「国立特殊教育研究所紀要」に掲載された論文タイトル・シンポジウムテーマ・発表タイトルの中から、家族に関するキーワードを含むものを抜き出し、これまでの特別支援教育における「家族」の位置づけを整理した。
連絡帳記述文のICFによる分類～ICFを活用した連携の可能性を探る	単著	2007年9月	日本特殊教育学会 第45回大会	障害のある子どもの保護者と担任の毎日の連絡帳をICFのコードでまとめ、これを集計して子どもの支援計画に活かす方法を実践し、その効果について分析した
教育用ICFデータベースe-ANGELの試作と評価	共著	2006年9月	日本特殊教育学会 第44回大会	ICFのコードを使ったデータベースを試作・試用し、その評価についてまとめた　渡邉正裕、徳永亜希雄・下尾直子・齋藤博之

電子化によるICF活用の可能性—ICFﾁｪｯｸﾘｽﾄ試作ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽによる多職種間の情報共有	共著	2005年9月	日本特殊教育学会 第43回大会	ICF活用ツールの電子化の可能性を探るべく、データベースを試作し、その実用性について検証した　渡邉正裕、下尾直子
個別の教育支援計画策定に保護者の参画を促すツールの開発	単著	2006年9月	日本特殊教育学会 第44回大会	ICFのコードによる関連図を使った障害のある子の担任と保護者の面談を分析し、ツールの汎用性を検証した

（学会発表：シンポジウム）				
日本特殊教育学会第45回大会 自主シンポジウム「ICFと合理的配慮」	話題提供	2014年9月	日本特殊教育学会 第52回大会	ICF－CYに依拠した合理的配慮についてのシンポジウムで、保護者の立場から発達障害児の防災対策を行ったPTA活動について報告した
日本特殊教育学会第45回大会 自主シンポジウム「ICFの学校現場への適用」Ⅶ	話題提供	2009年9月	日本特殊教育学会 第47回大会	ICF-CY8・9章の参加項目に絞って保護者面談を行い、この結果を中心に作成した関連図を個別の指導計画につなげ、そのクラス全員分を合わせて授業シートを作成するという方法で、ICF-CYを使った保護者連携を試験的に実施した成果を報告した
日本特殊教育学会第45回大会 自主シンポジウム「ICFの学校現場への適用」Ⅴ	話題提供	2008年9月	日本特殊教育学会 第46回大会	ICF/ICF-CY の分類項目を用いたコーディングも活用の際の重要な柱だと考えられるが、コーディングの取組についての研修は行ってきた経験からICF研修の有効性及び、研修を活かした実践について報告した
日本特殊教育学会第44回大会 自主シンポジウム 「ICFの学校現場への適用」Ⅲ	話題提供	2006年9月	日本特殊教育学会 第44回大会	教師との面談においてICF-CYを使用した保護者5名インタビュー記録を質的に分析した結果を話題提供として発表した
日本特殊教育学会第45回大会 自主シンポジウム「ICFの学校現場への適用」Ⅳ	指定討論	2007年9月	日本特殊教育学会 第45回大会	指定討論者として、話題提供者の発表をまとめ、障がいのある子を、地域の小・中学校に入学させるということは、ICF で表現すれば、参加の実行状況を確保することとも言える。地域の学校での特別支援におけるCFの可能性について指摘した
（講演）				
洗足学園SD	講師	2017年12月	洗足学園	テーマ「障害とは何か～発達障害に対応する」
日本女子大学同窓会「みどり会」講演会	講師	2017年10月	日本女子大学	テーマ「相模原障害者殺傷事件をうけて～障害とは何か、社会の「観方」を問い直す」
川崎市保育士会	講師	2014年7月	川崎市保育会	テーマ「気になる子の支援」
川崎市保育士会	講師	2014年7月	川崎市保育会	テーマ「気になる子の支援」
相武台中央幼稚園職員研修	講師	2012年12月 2014年3月 2015年3月 2016年3月 2017年3月	学校法人 神奈川県 住宅福祉学園 相武台中央幼稚園	軽度障害のある園児への効果的な指導について、当該児童の生活観察にもとづいて実践的なアドバイスを行った
東京都精神保健福祉士研修	講師	2008年11月	東京都精神保健福祉	テーマ「「ICF活用の可能性」
NPO法人自閉症協会東京支部講演会	講師	2008年8月	NPO法人 自閉症協会東京支部	テーマ「「ICFでとらえる障害と特別支援教育」
宇都宮大学教育学部附属特別支援学校 公開研究会　基調講演	講師	2008年2月	宇都宮大学教育学部 附属特別支援学校	テーマ「特別支援教育におけるICFの活用の実際」
川崎市職員研修	講師	2008年1月	川崎市	テーマ「“障害”をとらえる視点の転換 ～ICF-CYを使って～」

（その他教育研究活動など）				
さいたま市巡回保育相談委員	委員	2017年4月～現在	埼玉県　保育課	さいたま市内の育成支援の対象となった障害のあるお子さんの巡回相談員・一人のお子さんに年1回巡回し、保育の様子を観察、園内カンファレンスを行、報告書を提出する
手話通訳士試験実施検討委員会	委員	2017年1月～現在	聴覚障害者情報文化センター	手話通訳士資格のの試験問題を作成
東京都民生委員100年史編纂	委員	2016年4月～現在	東京都民生児童委員連合会	東京都民生委員100周年を記念した100年史の編纂
ぽらん保育園第三者評価委員	委員	2016年4月～現在	ぽらん保育園第2ぽらん保育園	東京都大東区のぽらん保育園で年2回開かれる第三者評価委員会に出席し、第三者として意見を述べる
障害者職業カウンセラー採用試験委員会委員	委員	2016年4月～現在	独）高齢・障害・求職者雇用支援機構	障害者職業カウンセラー採用試験作成
ドリーム	代表	2010年4月～現在	横浜市任意団体ドリームキッズ	横浜市を中心に活動している、障害のある子どもたちのインプロ的WS活動を支援する団体。主催者として立ち上げから参画し、企画運営の中心となっている（国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」助成事業）
国立特別支援教育総合研究所　専門研究A「特別支援教育におけるICF-CYの活用に関する研究－活用のための方法試案の実証と普及を中心に－」	研究協力	2010年4月～2012年3月	国立特特別支援教育総合研究所	特別支援学校の学習指導要領等の解説に示された「ICF の考え方」を具体的な特別支援教育実践につなげていくための調査。研究を行った。
国立特別支援教育総合研究所　専門研究A「特別支援教育におけるICF-CYの活用に関する実際的研究」	研究協力	2008年4月～2010年3月	国立特別支援教育総合研究所	WHOのICFおよびその派生分類であるICF-CYの特別支援教育における具体的な活用方法を明らかにし、合わせてそのためのツール開発をするとともに、適切な成果公表のために活用状況を把握することを目的として研究を行った
国立特別支援教育総合研究所　課題別研究「ICF児童青年期ﾊﾞｰｼﾞｮﾝの教育施策への活用に関する開発的研究」	研究協力	2006年4月～2007年3月	国立特別支援教育総合研究所	WHOのICFおよびその児童青年期ﾊﾞｰｼﾞｮﾝの活用方法について検討を行い、個別の教育支援計画における実態把握のためのICF項目の活用等について研究を行った
WAKU2キッズミュージカル	代表	2001年4月～2011年3月	横浜市任意団体地域で生きる子どもたちの会主催	横浜市を中心に活動している、障害のある子どもたちのミュージカル団体。ここで、主宰者として、企画立案から参加者40数名の個別指導計画を作成し、これをもとにスタッフ・学生ボランティアに対する教育実践指導を行った

教 育 研 究 業 績 書

2018年5月1日
氏名　井上　眞理子

著書･学術論文などの名称	単　著･共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概　　要
（著書）				
「成人学習者とは何か―見過ごされてきた人たち」	共著	2013年9月	鳳書房 マルカム･S. ノールズ著 “The Adult Leaner”翻訳	成人学習の理論を古典的学習理論から出発し、ペダゴジーからアンドラゴジーへの学習形態の変容と成人学習者の学習理論をマルカム･S･ノールズが系統だてて著したものの共同翻訳。第4章「学習理論とは何か」について担当し、翻訳した。 （堀薫夫･三輪建二他，井上眞理子）
「現場の視点で新要領･指針を考え合う」	共著	2017年6月	ひとなる書房 （142ページ）	平成29年告示の新要領･指針の改定に伴い保育者の専門性や育成に対してどのような変化が求められているのか、現場の実態と新要領･指針がねらう質向上について、「カリキュラム･マネジメント」「キャリアパス」「保育者のキャリアと研修」という視点から解説する。子どもの多様性を認めることのできる保育者の専門性や組織としての園における保育者の役割の重要性を唱え、保育者の学び手としての主体性を検討する。 （pp.91～97）
（科研）				
園内における保育士の専門性発達モデルの構築と園内マネジメントのあり方に関する研究 基盤研究（C）	研究代表	2015年採択 （平成28年度 ～ 平成30年度）	日本学術振興会	「個々の保育士の成長」という観点だけでなく、園組織が保育士の成長をどのようにマネジメントするのか、すなわち「保育士の成長を促す園内マネジメント」という観点から保育士の育成の課題を検討する。保育士の発達段階に即した育成促進要因を明らかにし、促進要因を生み出す園内マネジメントのあり方及び園内における保育士人材育成モデルを開発する。
保育者の成長志向性と組織要因との関連における保育者の成長モデルの構築に関する研究 基盤研究（C）	研究分担者	2016年採択 （平成29年度 ～ 平成31年度）	日本学術振興会	組織の中に位置づけられる保育者個人の成長モデルを明らかにし、その志向性やプロセス、成長に影響を与える経験を保育者自身の語りから抽出、分析することを目指す。
（学術論文）				
修士論文「子どもの学びと発達の本質：フロー理論から創造性研究への展開」	単著	2010年3月	香川大学 修士論文 （59ページ）	幼児期の子どもの学びと発達のあり方について、チクセントミハイのフロー理論をもとに理論的に考察し、「楽しさ」に導かれた主体的な活動に内在する成長するメカニズムを構造的に捉えるものである。子どもの「個」としての発達の様子から、子どもを取り巻く環境との「関係性」の中での発達、子どもの発達を支えるシステムを、DIFIモデルから捉え、創造性を培う学びの経験を検討する。

「子どもの学びの本質：フロー理論からの考察」	共著	2010年3月	香川大学 教育実践総合研究 第20号 （13ページ）	子どもの学びの本質について、チクセントミハイのフロー理論を用いて考察し、子どもの「動機づけ」「経験」「パーソナリティ」の3つの視点から子どもの学びの構造を捉える。現在の幼児期の早期教育の発達観と子どもの自発的な活動による発達観についての相違点を考察する。（共同研究につき抽出不可、基礎理論研究、分析と考察を担当）（pp.45-57）
「早期教育の実践から考える：3歳児、こうじとてっぺいの実践からの考察」	単著	2012年3月	お茶の水女子大学 生涯学習実践研究 第10号 （13ページ）	早期教育の現場で観察された3歳児の子どものフィールドノーツを中心に、幼児教育講師として関わっていた筆者が子どもへの関わりをどのように変化させていったのか、実践研究としてまとめている。アタッチメント理論、フロー理論などの心理学的アプローチと実践から得られた知見をまとめる。（pp.1～13）
「保育者養成校における学生の学びに関する一考察：『ふり返りシート』を通じて私がとらえたもの」	単著	2013年3月	お茶の水女子大学 生涯学習実践研究 第11号 12ページ	保育者養成校における学生の学びの現状を踏まえ、保育者を志す学生が積極的、能動的に授業に参加できる授業展開についての実践研究である。学校教育の中で身に付けた受動的・消極的な学びの姿勢をもつ大学生が、主体的・積極的な学びの構えを獲得するきっかけをつかむプロセスに着目し、保育者として求められる資質を認識し、自己の在り方を変容させる様相を、学生が記載した「ふり返りシート」の記述を分析することによって明らかにした。 （pp:1～12）
「専門性の向上と保育カンファレンス：カンファレンス構造指標モデルの提言」	単著	2013年3月	お茶の水女子大学 人文科学研究 第9巻 （12ページ）	保育者の専門性の向上のため、園内研修や公開保育などさまざまな保育者の学びの機会が検討されている。本研究では、保育カンファレンスに注目し、専門性の向上に寄与するようなカンファレンスのあり方を考える。保育カンファレンスの構造と保育者の学びの関係性を明らかにする上で、保育者へのインタビューで得られたデータを質的に分析し、「カンファレンス構造指標モデル」を考案し、提示する。（pp.71～84）
「園内における保育士の専門性発達のプロセス：TEM（複線径路・等至性モデル）による保育士の成長プロセスの分析」	共著	2015年3月	洗足論叢 第44号 （14ページ）	保育者が園内（組織）の人間関係の中でどのように成長していくのか、そのプロセスに着目し、新任保育者からクラスリーダーと成長する保育士へのインタビューから、質的分析手法TEMを用いて分析する。保育士の成長は直線的ではなく、苦悩と葛藤を経て、仕事へのモチベーションを高低させながら、園内の人的環境に影響を受けながら視点を変容させていく一過程を明らかにした。（共同研究につき抽出不可。研究デザイン、対象者へのインタビューと分析、考察を担当）（pp:117～130）

（学会発表）				
「幼児期に『学ぶべきこと』『学びうること』―発達、能力の伸長の原動力『フロー理論』からの考察：早期教育を視野に入れて」	単独	2009年5月	日本保育学会 第62回大会	早期教育の現場で観察された幼児期の子どもの学習や発達の様子について、チクセントミハイのフロー理論をもとに分析、考察する。子ども自身が認識する「能力の高さ」と「挑戦の高さ」の程度のバランスによって、子どもの心的状態が変化することを考慮し、没頭経験がもたらす子どもの発達への影響を検討する。
「幼児の『一人遊び』の考察―没頭経験がもたらす発達的意義」	単独	2011年5月	日本保育学会 第62回大会	保育現場では子どもの協働性が重視される中で、子どもが自己の関心をもとに没頭して遊ぶ姿も見られる。社会性の発達と没頭経験との関係について、子どもが没頭して遊ぶ姿を参与観察し、ビデオ撮影によって得られた子ども活動データを分析する。没頭することのできる遊びの形態について考察する。
「″Why do Japanese Early Childhood Teachers Lead or Intervene with Young Children Differently from American Teachers?″ The Mimamoru Methodology and Professionalism in Early Childhood Education and Care in Japan	共同	2011年11月	全米幼児教育学会 NAEYC Annual Conference & Expo 2011	米国保育においては、intentional teachingとして明確な目的をもって意図的に子どもに関わることが保育者の専門性として求められるようになっている。一方、日本の保育においては「見守る」という保育アプローチがあり、単に子どもに任せるだけでなく、一つの教育的関わりとして大切にされている。「見守る」の構造を明らかにするために、多声的エスノグラフィーを用いて、3人の保育者を対象にインタビューをしたデータを質的に分析した。 （中坪史典，上田敏丈，吉田貴子，井上眞理子）
「『おやじの会』における男性の経験の考察：おとなの学び合いの場―SCATを用いた語りの分析から」	単独	2011年11月	日本質的心理学会 第8回大会	男性の育児参加の一つの形態として幼稚園や小学校の活動に父親が参加する「おやじの会」が全国規模で広がっている。「おやじの会」での経験が男性にどのような学びを提供するのか、積極的に活動を行う父親に対しインタビューを行い、そのデータを質的研究法SCAT を用いて分析する。
「保育者の力量形成―保育カンファレンスで『何を』省察するのか」	単独	2012年5月	日本保育学会 第65回大会	保育者の学びの機会としての保育カンファレンスが注目される中、ビデオカンファレンスやエピソード記述などの方法論の議論が盛んになっている中で、保育者の学びに繋がるカンファレンスはその中で保育者が「何を」語り省察を行っているのかについて言及する必要がある。Onion Modelを用いて省察の内容の段階を示しカンファレンスのあり方を検討した。
「遊びの自由性に関する考察」	共同	2012年5月	日本保育学会 第65回大会	子どもの自由遊びの意義を検討するにあたり、「自由性」の捉える枠組みを、バーリンの消極的自由と積極的自由の概念を用いて検討した。子どもの遊びを見る視点としては積極的自由の視点から保育者の関わりを検討することが必要であることが明らかになった。（松井剛太・井上眞理子）

「保育者の力量形成―保育カンファレンスにおける省察のあり方」	単独	2012年10月	日本社会教育学会 第59回大会	保育者の専門性を向上させるようなカンファレンスにあり方を探るために、保育者へのインタビューにより得られたデータを質的に分析した。「カンファレンス構造指標モデル」を提示した上で、保育者のカンファレンスでの学びの内容及び経験の内容を分析した。
「How Do the US Teachers Recognize the Japanese Mimamoru Approach in Early Childhood Education and Care」	共同	2012年11月	全米幼児教育学会 NAEYC Annual Conference & Expo 2012	アメリカの保育者にとって日本の保育者が大切にする「見守る」というアプローチはどのように捉えるのかを、3名のアメリカ人保育者にインタビューし質的研究法SCAT を用いて分析した。「見守る」ことによる幼児期の教育は重要であると思うが、アメリカの保育システムにおいては実現は難しい。アメリカの保育者は「オーケストラの指揮者」のような機能を有していると保育者が認識していることが明らかになった。
「保育者観の形成プロセスの考察：保育者養成校の学生の意識に関する検討―質的分析手法SCATを用いて」	単独 口頭	2014年5月	日本保育学会 第67回大会 （大阪）	保育者養成の専門学校において、学生が保育者の役割や保育者の資質についてどのように理解するのかについて、その意識の変容のプロセスを質的分析手法SCATを用いて分析した。学生は養成校でのカリキュラム内容の他に、教育の意識や力量によって、その理解の深まりに影響を受けていることが明らかとなった。
「保育所乳児保育担当者研修会における効果測定手法と結果の考察」	共同 ポスター	2014年5月	日本保育学会 第67回大会 （大阪）	乳児保育担当の保育者の研修会における受講者の理解度及びb現場での活用度について、研修会終了直後と3か月後の2回について縦断的なアンケート調査を行い、結果を分析した。活用度に関しては3か月後に値が低くなっている項目がある。研修の内容についての現場での共有方法には園の現状に大きな差異があり、活用度と共有できる園環境との関連性が明らかとなった。（今井豊彦・井上眞理子）
保育者観の形成プロセスの考察：保育者の資質に関する学びのプロセス－ALACTモデルからの検討	単独 口頭	2015年5月	日本保育学会 第68回大会 （名古屋）	養成校教育の中で学生がどのように保育者としての資質に関する学びを展開していくのかを理論的に検討する。単なる知識としての理解を超えて、自己の行動を振り返り、照らし考えることによる理解に到達するプロセスを、ALACTモデルの5段階から検討する。
保育士不足が保育の質に与える影響：日本保育士協会調査結果から	共同 ポスター	2015年5月	日本保育学会 第68回大会（名古屋）	深刻化する保育士不足の問題が保育現場に与える影響、特に保育の質にどのような影響を与えているのか、日本保育士協会が行った調査結果から検討する。（今井豊彦・井上眞理子・小野田晴世・塩谷香）

「ふれ合い体験」（プレ実習）の意義とその効果：日本保育協会神奈川県支部が発信するプレ実習体験をもとに	共同 ポスター	2015年9月	全国保育士養成協議会 第54回研究大会	日本保育協会神奈川県支部の「ふれ合い体験」は、学生が抱く実習に対する負の要素を回避し、むしろ現場における保育実践の面白さ、子どもの成長する姿への純粋な感動や可能性を純粋に感じることによって、専門職への理解を深め、養成教育へのモチベーションを高める効果をねらっている。この取組に参加した学生、及び受け入れ園へのアンケート調査結果から、養成施設での学習の深化をもたらす経験となる学生への影響や、園の保育の振り返りの機会となる受入園への影響などが明らかになった。（坂本喜一郎・佐藤康富・井上眞理子・金元あゆみ・松山洋平）
保育者の人材育成に関わる人的要因と組織マネジメント（1）：後輩育成に関する現状と課題	共同 口頭	2015年12月	人材育成学会 第13回年次大会	全国の保育所における人材育成の課題と現状を明らかにするため、2015年度に日本保育協会で行った調査結果をもとに、保育士のステップアップに対する意識や保育所経営の側面から人材育成に関するマネジメントの意識を分析した。（坂田哲人、井上眞理子、今井豊彦）
保育者の人材育成に関わる人的要因と組織マネジメント（2）：後輩育成の力量形成のプロセスと要因の検討	共同 口頭	2015年12月	人材育成学会 第13回年次大会	園内における保育者の人材育成に寄与する「後輩を育成する保育者」の役割に着目し、意図的に後輩を育てようとする保育者への成長プロセスを質的分析手法TEM及びSCATを用いて分析する。人的要因を中心に4つの観点を導き出した。（井上眞理子、坂田哲人、今井豊彦）
未来の保育を担う人材の育成を考える：保育現場と養成校の連携、新たなステージへの展開	自主 シンポジウム	2016年5月	日本保育学会 第69回大会 （東京）	保育者養成に求められる実践力を備えた人材の養成をめぐり、保育者養成校の学生の実態や意識を踏まえ、現場と養成校が連携していく形を模索し、あらゆるミスマッチに向き合いながら、学び手としての学生を尊重した関係性構築への手がかりを討論する。 （企画・司会：井上眞理子　話題提供：金元あゆみ・坂本喜一郎・松山洋平・三橋貴文）
保育現場における園組織が取り組む人材育成の現状と課題（1）	共同 口頭	2016年5月	日本保育学会 第69回大会 （東京）	保育現場における人材育成の現状を踏まえ、園組織における要因が人材育成のメカニズムや個人の成長に対する意欲に対し、どのような影響を与えているのか、管理職者の考え、組織要因、人材育成の意欲の関係性を検討する。（坂田哲人・井上眞理子・今井豊彦）
保育現場における園組織が取り組む人材育成の現状と課題（2）	共同 口頭	2016年5月	日本保育学会 第69回大会 （東京）	保育者の成長や育成に大きな影響を与える管理職のマネジメント。組織の存在意義としての保育理念の実現と人材育成の関係性を検討する。理念実現のために課題となっている具体的な要因を検討し、管理職研修におけるこれからの展開を模索する。（井上眞理子・坂田哲人・今井豊彦）

保育内容「人間関係」・「言葉」の科目間連携による授業展開	共同 ポスター	2016年5月	日本保育学会 第69回大会 （東京）	「保育内容・人間関係」と「保育内容・言葉」の科目を通じ、共通教材を用いることにより学生が保育理解を多角的に捉えることができるのではないかという仮説のもと、言葉の発達とともにすすむ人間関係の在り方、コミュニケーションが深まる子どもの実態に気付く授業展開の研究を行った。（神蔵幸子・並木真理子・曽野麻紀・桃枝智子・井上眞理子）
児童文化教材作成と指導案立案をつなぐ授業展開の課題ー「保育内容・言葉」の授業における学生の意識調査から	共同 口頭	2016年11月	乳幼児教育学会 第26回大会 （神戸）	児童文化教材の作成から、指導案立案の学習過程において、学生がどのような意識のもとに教材作成や指導案立案を行っていたのかを調査し、授業展開のどこに課題があったのかを明確にする。子どもに伝えたいことを具体的に言葉や作品に具現化する力の育成や子どもの視点で行う自己評価のスキルを養成することが課題であることが明らかとなった。（並木真理子・井上眞理子・岡本かおり）
未来の保育を担う人材の育成を考える：養成教育における学びの意義を問い直す	自主 シンポジウム	2017年5月	日本保育学会 第70回大会 （倉敷）	保育者を志す養成校学生が、実習をはじめとする現場体験や養成校教育を通して何を感じ、何を学んでいるのか、保育者になる学びのプロセスを学生の視点から捉え直し、これからの保育現場を担う人材の育成である学生にとって、真に必要な学びとは何かを追求する。保育現場と養成校の連携のあり方、実習と実習指導の意義、が癖湯主体の現場体験における学びのテーマに検討を深める。（井上眞理子・金元あゆみ・坂本喜一郎・松山洋平）

（社会的活動等）				
保育所保育士研修等評価委員会　委員		2012年度～ 2014年度	日本保育協会	
日本保育士協会　調査研究委員会　委員		2012年度～ 2016年度	日本保育士協会	
世田谷区保育運営事業者選定委員会　委員		2015年度～ 2018年度	世田谷区	
自主研修事業検討委員会　委員		2015年度～ 2017年度	日本保育協会	
養成校との連携を考えるWG　アドバイザー		2015年度～ 2018年度	日本保育協会 神奈川県支部	
世田谷区保育運営事業者選定基準委員会　委員		2017年度～ 2018年度	世田谷区	
HITOWAキッズライフ株式会社 人材開発・組織マネジメントアドバイザー		2017年度～ 2018年度	HITOWAキッズライフ 株式会社	
日本保育協会　中堅所長研修会	講師	2014年度～ 2017年度	日本保育協会	日本保育協会が主催する中堅所長研修会において、保育所の組織マネジメントをテーマに人材を育成する組織の在り方についての講演を行った。
鉄道弘済会　保育所長研修会	講師	2014年度	鉄道弘済会	鉄道弘済会が運営する保育所の所長を対象にした研修会において、保育所長の専門性高めるため、保育所における人材を育成するテーマで講演を行った。
日本保育協会神奈川県支部 施設経営懇談会	講師	2014年度	日本保育協会 神奈川県支部	日本保育協会神奈川県支部が開催した施設経営懇談会において、保育所と養成校の連携をテーマに、実習の在り方を検討するシンポジウムに登壇した。
世田谷区開設前支援プログラム	講師	2014年度～ 2018年度	世田谷区	・保育施設の開設・運営の課題 ・保育所の組織マネジメントと人材育成
保育マネージャー養成講座	講師	2015年度～ 2017年	日本保育協会	・保育理念と組織マネジメント ・自園の人材を把握する ・人材を活かす組織マネジメント ・持続可能な組織づくり
世田谷区開設前支援プログラム フォローアップ研修	講師	2015年度～ 2018年度	世田谷区	1「開設後の現状を把握する」 2「保育の環境構成の現状と課題」 3「自園のアクションプランをつくる」
習志野市保育所・こども園 職員研修会	講師	2015年10月	習志野市	保育の充実につながるリーダーとしての役割を学ぶ
第37回全国青年保育者会議 佐賀大会第4分科会	講師	2015年10月	日本保育協会青年部	保育園における人材育成と保育士のキャリアパスを考える
全国保育所理事長・所長研修会 第4分科会	講師	2015年11月	日本保育協会	人材育成と保育士確保のための職場環境を考える：保育士養成校と保育現場とのミスマッチ

保育所初任所長長等研修会	講師	2016年度～ 2017年度	日本保育協会	組織マネジメントとこれからの保育所づくり
主任保育士等研修事業 保育所等実習指導研修会	講師	2016年度～ 2017年度	厚生労働省委託事業 日本保育協会主催	プログラム4「保育実習～基本編～」 プログラム6「自園における保育所実習」
平成28年度　習志野市保育所・こども園職員研修「職種別研修（所長・室長会）」	講師	2016年6月	習志野市主催	演題「時代の変化に対応しうる所長・室長としての資質向上を目指す」
平成28年度　世田谷区保育実習指導研修会	講師	2016年6月	世田谷区主催	演題「未来の人材を確実に育て確保するために―実習指導、新人研修の可能性を探る」
平成28年度　静岡県教員募集・採用研修会	講師	2016年6月	静岡県 私立幼稚園振興協会 主催	演題「未来の人材を確実に育て確保するために―実習指導、新人研修の可能性を探る」
平成28年度　働きやすい環境づくりセミナー	講師	2016年8月	日本保育協会主催	プログラムⅠ「働きやすい環境づくり―保育者の実感から」 プログラムⅡ「組織運営上におけるメリット」
働くための環境をどうつくる	講師	2016年9月	simply design主催	演題「未来の保育者が考える働きやすさとは」
今、求められるリーダーを育てるには	講師	2016年12月	わくわくBase株式会社 主催	「人が主体的に動く組織づくりに向けて」
保育の質を考え合うシンポジウム	コーディネーター	2017年 1月・10月	保育の質を考え合うシンポジウム 実行委員会 主催	「子どもの未来につながる0歳児保育の質」 （汐見稔幸・井桁容子） 「なぜ乳幼児教育に“共感”なのか」 （佐伯胖・井桁容子）
平成29年度　豊島区施設長研修	講師	2017年6月	豊島区主催	「保育における人材育成、職員集団づくり」
平成29年度　第3回保育セオリー研修	講師	2017年11月	栃木県 幼稚園連合会 主催	「保育者の育成と組織マネジメント」
平成29年度　保育士のキャリアアップ研修の実施に向けて事前説明会	講師	2017年11月	沖縄県主催	「これからの保育施設に必要な職員育成を考える」
平成29年度　保育士育成研修 ※保育士キャリアアップ研修	講師	2017年 7月・12月	神奈川県保育会	「保育の質向上につながる職員育成にリーダーはどう向き合うか」
平成29年度　園長・施設長講座 平成29年度　保育士キャリアアップ研修	講師	2017年7月 2018年2月	横浜女子短期大学 保育センター	「保育に求められるリーダーシップの育成」

平成29年度　保育士等のキャリアと育成セミナー	講師	2017年8月	厚生労働省委託事業 日本保育協会 主催	「保育士等職員の資質向上に向けて～管理職の役割・キャリアパスの構築」
第39回　全国青年保育者会議	講師	2017年9月	日本保育協会 青年部 主催	「これからの保育園に必要なリーダー・中堅保育士の育成を考える」
平成29年度　日本保育協会 長野県支部中央研修会	講師	2018年1月	日本保育協会 長野県支部	「保育の質向上と組織マネジメント」
平成29年度　日本保育協会 新潟県支部青年部研修会	講師	2018年2月	日本保育協会 新潟県青年部 主催	「これからの保育を担う職員の育成」
HITOWAキッズライフ株式会社　研修会	講師	2017年度～ 2018年度	HITOWAキッズライフ 株式会社	園長研修・主任研修・新採用者研修
平成30年度　宮崎県保育連盟連合会研修 ※保育士キャリアアップ研修	講師	2018年4月	宮崎県 保育連盟連合会 主催	「現場で役立つマネジメント～意味あるキャリアアップ研修にしよう」
（その他）				
「幸福感とは何か―子どもの喜びと充実感を保障する活動と環境」	単著	2012年7月	ひとなる書房 「現代と保育　子どもの心と感情表現」 第84号	子どもの「幸福感」について、受け入れられる幸福の他に、子ども自身がつかみ取る幸福の可能性について、チクセントミハイの理論をベースに考察した。自由あそびの中に見出される挑戦の機会とそれを保障する環境のあり方を検討し、保育における環境構成についての視点を投げかける。
「子育て研究第2巻・第3巻　論文ダイジェスト」	共著	2013年3月	日本子育て学会 子育て研究 第3巻	子育て研究第2巻、第3巻に掲載された論文について、その研究の方法や結果について、分かりやすく解説したもの。50-51頁担当
「子育て研究第4巻　論文ダイジェスト」	共著	2013年3月	日本子育て学会 子育て研究 第4巻	子育て研究第4巻に掲載された論文について、その研究の方法や結果について、分かりやすく解説したもの。36-37頁担当
座談会「研修の実態調査から考える：今、リーダーの役割とは」	共同	2014年8月	フレーベル館 「保育ナビ」8月号 12-19頁	保育における人材育成が重要視される中で，園外・園内で行われる研修がどのように機能しているかを，実態調査の結果から，現場での保育所長の実践から検討する。特にリーダーである園長の現場で人が育つための果たすべき役割について討論する。

依頼原稿「学びを深めるために―保育カンファレンスのモデル」	単著	2014年8月	フレーベル館 「保育ナビ」8月号 24-25頁	保育者の専門性の向上において保育カンファレンスが注目されているが，その構造と保育者の学びの関係性を，カンファレンス構造指標モデルを用いて解説する。
連載「保育マネージャー養成講座―管理職のスキルアップと園の保育の質向上のために」	共著	2016年度 4月号～3月号	フレーベル館 「保育ナビ」連載	保育現場における園長をはじめとする管理職が、保育の質向上のために、自園の職員の特性を活かし、保育理念の実現のためにどのようにリーダーシップを発揮し、具体的な手立てをどのように講じるか、保育マネージャー養成講座でのワークを紹介しながら、手法と理論を解説する。
特集「保育体験の新しいデザインー神奈川県発、Win-Win連携に学ぶ」	共著	2016年1月	フレーベル館 「保育ナビ」1月号 10-19頁	ミスマッチが多かった保育者養成校と保育現場の連携。そのあり方を見直し、互いの存在を認め、対等な関係で保育者を目指す人材の育成に取り組むことの魅力や可能性、保育実習をも変える新たな連携の形を提案する。
特集「リーダーの学びスイッチ！　園を成長へと導くリーダーの学びの姿勢」	共著	2017年12月	フレーベル館 「保育ナビ」12月号 4-24頁	保育の質を上げ、選べる園となっていくために、また園全体がイキイキとした集団となっていくために大切な要素として、リーダーの学びに注目した。園の未来のビジョンを描き、職員に方向性を示すリーダー、その学びに対する姿勢はどうあればいいのか、なぜリーダーは学ぶ必要があるのか、学び続けるリーダーの実例と座談会からリーダーとしての学びを考察する。

教　育　研　究　業　績　書

２０１８年５月１日
氏名　向笠　京子

著書･学術論文などの名称	単　著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概　　要
（学術論文）				
食事・運動療法中の2型糖尿病患者における心理特性とHbA1c値との関連	共著	2010年1月	糖尿病 第53巻第10号 （6 ページ）	本研究は、行動科学の視点から、食事・運動療法中の2型糖尿病患者における心理特性とHbA1c値との関連について明らかにすることを目的とし、糖尿病患者を対象に、自記式質問紙調査を行った。その結果、ストレス耐性を強化する行動変容支援が、HbA1c値の改善につながる可能性が示唆された。 向笠京子、橋本佐由理、中島茂、金城瑞樹、宗像恒次（pp.772 ～777）
2型糖尿病患者へのSAT法介入によるメンタルヘルスとHbA1c値の検討	共著	2011年11月	日本精神保健社会学会 第16巻 （9ページ）	2型糖尿病患者への介入により、介入群においてHbA1c値が有意に低下し、HbA1c値の改善を認め、明らかな介入効果が認められた。症例から自己報酬追求型の生き方が、ストレスを溜めやすい行動特性を変化させ、HbA1c値の改善につながると考えられた。 向笠京子、橋本佐由理、樋口倫子、中島茂、金城瑞樹、宗像恒次 （pp.26～34）
糖尿病患者の血糖コントロールとSAT法	共著	2011年11月	ヘルスカウンセリング学会年報 第17号 （10ページ）	本研究では糖尿病患者はストレス性格を有しているととらえ、調査研究、介入研究を実施した。ストレスを溜めやすい特性がHbA1c値を高め、血糖コントロールが悪いことが明らかになった。本介入により、HbA1c値が有意に改善したことから、SAT法は糖尿病のストレス性の高血糖の改善に有効であると考えられる。向笠京子、橋本佐由理、樋口倫子（pp.21～30）
子育て支援における一考察 －子育て支援セミナー参加者に対するアンケートの分析より－	共著	2012年3月	洗足論叢 第40号 （6ページ）	子育て支援セミナー「子育てコンパス」実践編は、本学の「保育・子育て研究所」主催、川崎市・神奈川新聞社共催という形で開催された。セミナー後のアンケートから、子育て支援の需要が高いことが示唆され、「保育・子育て研究所」として実践できることを再検討する必要がある。清水敬子、向笠京子、石濱加奈子、橘川佳奈（pp.172～173）
「気になる子ども」の傾向と支援に関する調査報告－保育士へのアンケート結果から－	共著	2012年3月	保育士養成研究 第29号 （9ページ）	保育所に勤務する職員に対して調査を行い、特別な配慮を要する子どもを保育する現職の職員が抱えている問題を分析し、検討することを目的とした。その結果、保育現場では、子どもに適した声かけや手助けを個別に行うことの難しさを感じているという現状があり、支援体制が整え、連携についても今後強化していく必要があると考えた。 橘川佳奈、向笠京子（pp.70～74）
（学位論文）				
コミュニケーションスキルトレーニングに関するシステム開発 －教師向けCD-ROM教材開発とその効果の検討－	単著	2005年	筑波大学大学院 修士論文	中学校教師を対象に、実態調査を行い、プログラム開発と商品化をし、介入研究を行った。その結果、教師の人間関係によるストレスの解決のために、CD-ROMを活用した非対面自己学習方式のコミュニケーションスキルトレーニングシステムは、実施可能であり、その効果も得られることが示唆された。

2型糖尿病患者の心理特性とSAT法による支援	単著	2010年	筑波大学大学院 博士論文	糖尿病患者の気質と心理特性とHbA1c値との関連について調査研究を行った。調査研究から2型糖尿病患者はストレスを溜めやすい特性を有していた。糖尿病患者への個別、集団介入により、介入群においてHbA1c値が有意に低下し、HbA1c値の改善を認め、明らかな介入効果が認められた。このことから、SAT法による心理的介入により、糖尿病の予防と克服の可能性が考えられた。
(著書)				
心とからだを育む　子どもの保健Ⅰ	共著	2012年2月	保育出版社 (192ページ)	11章16節：子どもと内分泌の病気（1. 内分泌とは　2. 内分泌の病気）高内正子編著、向笠京子他（pp.140～141）
高校保健ニュース「知っておきたい甲状腺のこと」	共著	2012年7月	少年写真新聞	第1回 甲状腺とその病気
中学保健ニュース「知っておきたい甲状腺のこと」	共著	2012年8月	少年写真新聞	第2回 甲状腺機能亢進症と低下症
子どもの保健Ⅱ	共著	2013年1月	光生館 (184ページ)	第3章　子どもの疾病と適切な対応（1. 感染症の予防と対策　2. 体調不良や傷害が発生した場合の対応　3. 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応　4. 乳児への適切な対応　5. 障害のある子どもへの対応） 志賀清悟編著、向笠京子他（pp.53～96）
心とからだを育む　子どもの保健Ⅱ（演習）	共著	2013年3月	保育出版社 (142ページ)	10章1節 子どもの異常症状とその手当（1. 子どもの発熱と手当　2. 子どもの咳と手当　3. 子どもの腹痛と手当　4. 子どもの嘔吐と手当　5. 子どもの下痢と手当　6. 子どものけいれんと手当　7. 子どもの異常症状と手当） 高内正子編著、　向笠京子他（pp.69～74）
保育士試験直前対策　2013年版	共著	2013年3月	成美堂出版 (135ページ)	子どもの保健 コンデックス研究所編著、向笠京子他（pp:8～11,pp.44～47,pp.68～69,pp.94～97,pp.116～117）
保育者養成シリーズ　子どもの保健Ⅰ	共著	2014年3月	一藝社 (216ページ)	第１０章子どものこころの健康と課題 林邦夫、谷田貝公昭監修、加部一彦編著、向笠京子他（pp.133～146）
保育士合格テキスト下　2014年版	共著	2014年3月	成美堂出版 (367ページ)	第２章子どもの保健 近喰晴子監修、向笠京子他（pp.78～168）
保育士過去問題集　2014年版 解答・解説	共著	2014年3月	成美堂出版 (215ページ)	子どもの保健、精神保健 近喰晴子監修、向笠京子他（pp.37～42,pp.70～80,pp.145～155）
保育士重要項目　2014年版	共著	2014年3月	成美堂出版 (302ページ)	第７章子どもの保健 近喰晴子監修、向笠京子他（pp.185～226）
保育士一問一答　2014年版	共著	2014年3月	成美堂出版 (334ページ)	第７章子どもの保健 コンデックス研究所編著、向笠京子他（pp.210～250）
保育士試験直前対策　2014年版	共著	2014年5月	成美堂出版 (127ページ)	子どもの保健 コンデックス研究所編著、向笠京子他（pp.8～9,pp.42～45,pp.66～67,pp.90～93,pp.112～113）
保育士合格テキスト下　2015年版	共著	2015年1月	成美堂出版 (367ページ)	第２章子どもの保健 近喰晴子監修、向笠京子他（pp.77～168）

保育士過去問題集　2015年版 解答・解説	共著	2015年1月	成美堂出版 (185ページ)	子どもの保健 近喰晴子監修、向笠京子他(pp.34～41,pp.89～94,pp.122～134)
保育士重要項目　2015年版	共著	2015年1月	成美堂出版 (302ページ)	第7章子どもの保健 近喰晴子監修、向笠京子他(pp.185～226)
保育士一問一答　2015年版	共著	2015年2月	成美堂出版 (335ページ)	第7章子どもの保健 コンデックス研究所編著、向笠京子他 (pp.211～250)
保育士試験直前対策　2015年版	共著	2015年5月	成美堂出版 (127ページ)	子どもの保健 コンデックス研究所編著、向笠京子他(pp.9～10,pp.42～45,pp.66～67,pp.90～93,pp.112～113)
保育士重要項目　2016年版	共著	2015年12月	成美堂出版 (302ページ)	第7章子どもの保健 近喰晴子監修、向笠京子他(pp.185～226)
保育士入門テキスト　2016年版	共著	2015年12月	成美堂出版 (223ページ)	第7章子どもの保健 コンデックス研究所編著、向笠京子他 (pp.152～171)
保育士一問一答　2016年版	共著	2016年1月	成美堂出版 (335ページ)	第7章子どもの保健 コンデックス研究所編著、向笠京子他 (pp.211～250)
保育士過去問題集　2016年版 解答・解説	共著	2016年1月	成美堂出版 (185ページ)	子どもの保健 近喰晴子監修、向笠京子他(pp.33～40,pp.84～90,pp.139～144)
保育士合格テキスト下　2016年版	共著	2016年1月	成美堂出版 (367ページ)	第2章子どもの保健 近喰晴子監修、向笠京子他(pp.77～168)
保育士試験直前対策　2016年版	共著	2016年3月	成美堂出版 (127ページ)	子どもの保健 コンデックス研究所編著、向笠京子他(pp.9～10,pp.42～45,pp.66～67,pp.90～93pp.112～113)
保育士入門テキスト　2017年版	共著	2016年11月	成美堂出版 (223ページ)	第7章子どもの保健 コンデックス研究所編著、向笠京子他 (pp.152～171)
保育士重要項目　2017年版	共著	2016年1月	成美堂出版 (302ページ)	第7章子どもの保健 近喰晴子監修、向笠京子他(pp.185～226)
保育士合格テキスト下　2017年版	共著	2016年12月	成美堂出版 (383ページ)	第2章子どもの保健 近喰晴子監修、向笠京子他(pp.95～182)
保育士一問一答　2017年版	共著	2017年1月	成美堂出版 (335ページ)	第7章子どもの保健 コンデックス研究所編著、向笠京子他 (pp.211～250)
保育士過去問題集　2017年版 解答・解説	共著	2017年2月	成美堂出版 (209ページ)	子どもの保健 近喰晴子監修、向笠京子他(pp.36～42,pp.84～89,pp.133～140,pp.184～190)
保育士試験直前対策　2017年版	共著	2017年3月	成美堂出版 (127ページ)	子どもの保健 コンデックス研究所編著、向笠京子他 (p.9,pp.42～46,pp.66～67,pp.90～93,pp.112～113)
保育士入門テキスト下　2018年版	共著	2017年12月	成美堂出版 (223ページ)	子どもの保健 コンデックス研究所編著、向笠京子他 (pp.152～171)
保育士重要項目　2018年版	共著	2017年12月	成美堂出版 (302ページ)	第7章子どもの保健 近喰晴子監修、向笠京子他(pp.185～226)

保育士一問一答　2018年版	共著	2017年12月	成美堂出版 （335ページ）	第7章子どもの保健 コンデックス研究所編著、向笠京子他 （pp.212～2150）
保育士合格テキスト下　2018年版	共著	2017年12月	成美堂出版 （399ページ）	第3章子どもの保健 近喰晴子監修、向笠京子他（pp.96～180）
保育士過去問題集　2018年版 解答・解説	共著	2018年3月	成美堂出版 （209ページ）	子どもの保健 近喰晴子監修、向笠京子他（pp.33～40,pp.84～90,pp.138～144,pp.186～191）
（研究報告）				
中学校教師のコミュニケーションスキルとストレスに関する研究	共同	2005年6月	第20回日本保健医療行動科学会大会、東京	中学校教師を対象にコミュニケーションスキルについて実態調査を行い、分析・検討した。
ITを活用した教師へのソーシャルスキルトレーニング　－アサーションを中心としたプログラム開発－	共同	2005年9月	第12回ヘルスカウンセリング学会、千葉	中学校教師を対象に、実態調査を行い、アサーションスキルを中心にプログラム開発を行った。
教師向けCD－ROM教材の効果の検討	共同	2005年12月	第27回子どものからだと心・全国研究会議、東京	中学校教師を対象に、CD-ROMを活用した非対面自己学習方式のコミュニケーションスキルトレーニングシステムプログラムを開発し、検討した。
児童・生徒との心の通い合うコミュニケーションを目指して　－教師へのコミュニケーションスキルトレーニング介入研究－	共同	2006年2月	第24回日本幼少児健康教育学会、東京	教師を対象に、CD-ROMを活用した非対面自己学習方式のコミュニケーションスキルトレーニングシステムプログラムを活用し、介入研究を行った。
教師が変われば生徒も変わる	共同	2006年3月	第2回すこやかキッズ全国セミナー、東京	中学校教師を対象に、人間関係によるストレスの解決のためのコミュニケーションスキルについて介入を行い、効果を検討した。
糖尿病患者の心理特性の特徴 第2報	共同	2006年6月 17日-18日	第21回日本保健医療行動科学会大会、大阪	糖尿病患者の心理特性について調査研究を行い、生化学データについても検討した。
糖尿病患者の心理特性の特徴 第1報	共同	2006年6月 17日-18日	第21回日本保健医療行動科学会大会、大阪	糖尿病患者の心理特性について調査研究を行い、心理特性の特徴を明らかにした。
糖尿病患者の心理特性とHbA1c値との関連	共同	2006年9月 15日-17日	第13回ヘルスカウンセリング学会学術大会、千葉	糖尿病患者の心理特性について調査研究を行い、血液データ（HbA1c値）についても分析・検討した。
糖尿病患者のHbA1c値と心理特性、胎児期・幼少児期の体験認知との関連	共同	2007年3月3日	第3回すこやかキッズ全国セミナー、東京	糖尿病患者の心理特性と幼少児期との体験認知について量的、質的に検討した。
糖尿病患者の心理特性と血糖コントロール、その他の指標との関連	共同	2007年6月 16日-17日	第22回日本保健医療行動科学会学術大会、埼玉	糖尿病患者の心理特性と血糖コントロール、その他の指標（BMI、合併症）との関連を明らかにした。
網膜症を有する糖尿病患者の生き方変容支援	共同	2008年3月 14日-16日	第14回日本糖尿病眼学会、東京	合併症（網膜症）を有する糖尿病患者への介入を行い、検討した。
糖尿病者への生き方変容支援によるHbA1cの改善効果　その1	共同	2008年5月 22日-24日	第51回日本糖尿病学会年次学術集会、東京	糖尿病患者への個別介入研究を実施し、血液データの効果を検討した。
糖尿病者への生き方変容支援によるHbA1cの改善効果　その2	共同	2008年5月 22日-24日	第51回日本糖尿病学会年次学術集会、東京	糖尿病患者への介入研究を実施し、血液データの効果を検討した。
糖尿病者へのSAT法介入その1－生まれ持った気質の良さが活かされる生き方への支援－	共同	2008年6月 21日-22日	第23回日本保健医療行動科学会学術大会、山梨	糖尿病患者への気質に関する介入研究を実施し、効果を検討した。
糖尿病者へのSAT法介入その2－「闇から光へ」の生き方支援－	共同	2008年6月 21日-22日	第23回日本保健医療行動科学会学術大会、山梨	糖尿病患者への介入研究を実施し効果を検討した。

生活習慣病患者へのSAT法介入による生き方変容事例その１	共同	2008年9月.20日-21日	ヘルスカウンセリング学会１５周年記念大会、東京	糖尿病患者への生き方変容支援法による介入研究を実施し、効果について事例検討した。
生活習慣病患者へのSAT法介入による生き方変容事例その２	共同	2008年9月.20日-21日	ヘルスカウンセリング学会１５周年記念大会、東京	糖尿病患者への生き方変容支援法による介入研究を実施し、効果を量的、質的に検討した。
糖尿病患者への生き方変容支援によるHbA1cの改善効果　その１　－介入の中期予後の検討－	共同	2009年5月	第52回日本糖尿病学会年次学術集会	糖尿病患者への介入研究を実施し、介入の中期予後について分析・検討した。
糖尿病患者への生き方変容支援によるHbA1cの改善効果介入の中期予後の検討その２	共同	2009年5月	第52回日本糖尿病学会年次学術集会	糖尿病患者への介入研究を実施し、介入の中期予後の効果を量的、質的に検討した。
糖尿病患者の心理特性―縦断的調査から―	共同	2009年6月28日	第24回日本保健医療行動科学会学術大会	糖尿病患者の心理特性について縦断的調査から分析・検討した。
糖尿病患者へのSAT法介入による血糖改善効果の検討	共同	2009年6月29日	第24回日本保健医療行動科学会学術大会、兵庫	糖尿病患者への介入研究を実施し、血糖改善効果について検討した。
糖尿病患者へのSAT生き方変容支援法による集団介入の試み	共同	2009年6月28日	第24回日本保健医療行動科学会学術大会、兵庫	糖尿病患者への集団介入研究を実施し、効果を検討した。
Poster Session　Life Change Support and HbA1c Improvements in Diabetic Patients PartI	共同	July18-20,2009	The First Asia-Pacific Conference on Health Promotion and Education, Chiba JAPAN,	Higuchi N, Hashimoto S, Mukasa K, Hamamoto Y, Toyoda M, Funaoaka M, Kaneshiro M, Nakajima S
Life Change Support and HbA1c Improvements in Diabetic Patients PartⅡ	共同	July18-20 ,2009	The First Asia-Pacific Conference on Health Promotion and Education, Chiba JAPAN,	Hashimoto S, Higuchi N, Mukasa K, Hamamoto Y, Toyoda M, Funaoaka M, Kaneshiro M, Nakajima S
糖尿病患者へのSAT生き方変容支援法介入による血糖改善効果の検討	共同	2009年9月20日	第16回ヘルスカウンセリング学会学術大会、東京	糖尿病患者に対して個別支援法開発と個別介入による短期予後、中期予後を分析・検討した。
糖尿病患者の日常生活の不健康な行動感覚と心理特性、HbA1c値との関連	共同	2009年9月20日	第16回ヘルスカウンセリング学会学術大会、東京	糖尿病患者の日常生活の不健康な行動と心理特性について調査研究を行い、血液データについても検討した。
Oral Session　SAT Life Change Support and HbA1c Improvements in Diabetic Patients, Part One.	共同	September 21,2009	The First International Conference of SAT Health Counseling, TOKYO JAPAN,	Higuchi N, Hashimoto S, Mukasa K, Murakami K, Hamamoto Y, Toyoda M, Funaoaka M, Kaneshiro M, Nakajima S
Oral Session　SAT Life Change Support and HbA1c Improvements in Diabetic Patients, Part Two.	共同	September 21,2009	The First International Conference of SAT Health Counseling, TOKYO JAPAN,	Hashimoto S, Higuchi N, Mukasa K, Murakami K, Hamamoto Y, Toyoda M, Funaoaka M, Kaneshiro M, Nakajima S
糖尿病患者へのライフ・キャリア変容支援法による集団介入の効果	共同	2010年6月13日	第25回日本保健医療行動科学会学術大会、群馬	糖尿病患者へのライフ・キャリア変容支援法による集団介入研究を実施し、量的に効果を検討した。
糖尿病患者の気質及び心理特性とHbA1c値との関連	共同	2010年6月13日	第25回日本保健医療行動科学会学術大会、群馬	糖尿病患者の気質、心理特性について調査研究を行い、血液データについても検討した。
SAT Life Change Support and HbA1c Improvements in Diabetic Patients	共同	September 1,2010	The 2nd International Conferrence of SAT Health Counseling	Hashimoto S; Higuchi N; Mukasa K; Hamamoto Y; Toyoda M

糖尿病患者へのSATライフキャリア支援法によるHbA1c改善効果ー集団介入効果を中心にー	共同	2010年9月19日	第17回ヘルスカウンセリング学会学術大会、千葉	糖尿病患者へのライフ・キャリア変容支援法による集団介入研究を実施し、量的、質的に効果を検討した。
心理専門家の心理的介入による糖尿病患者の血糖改善効果の検討	共同	2010年6月13日	第54回日本糖尿病学会年次学術集会	心理的専門家により介入を行い、糖尿病患者の血糖改善効果について分析・検討した。
SATライフ・キャリア変容支援による糖尿病患者の介入事例報告	共同	2011年5月	第54回日本糖尿病学会年次学術集会	糖尿病患者への介入事例について質的に検討した。
青年期の月経随伴症状と自己イメージ、ストレス認知、保健行動の関連性の検討	共同	2011年6月	第26回日本保健医療行動科学会学術大会	青年期の月経随伴症状と自己イメージ、ストレス認知、保健行動の関連について調査研究を行い分析した。
患者の気づきと成長を支える～糖尿病患者のストレス性格に寄り添う支援～	共同	2011年11月	第18回ヘルスカウンセリング学会学術大会	糖尿病患者のストレス性格について支援を行い、効果を検討した。
血糖コントロール不良の糖尿病患者に対する支援～第3法　ストレスの自覚の強い症例を中心に～	共同	2012年5月	第55回日本糖尿病学会年次学術集会	血糖コントロール不良の糖尿病患者に対する支援を行い、支援法について検討した。
血糖コントロール不良の糖尿病患者に対する支援～第2法　ストレスが関与する2症例～	共同	2012年5月	第55回日本糖尿病学会年次学術集会	ストレスが関与する血糖コントロール不良の2症例について症例検討した。
糖尿病患者の心理特性の特徴　第三報	共同	2013年5月	第56回日本糖尿病学会年次学術集会	糖尿病患者の心理特性、生活習慣について調査研究を行い、血液データとの関連を明らかにした。
糖尿病患者の心理特性の特徴　第2報	共同	2013年5月	第56回日本糖尿病学会年次学術集会	糖尿病患者の心理特性、生活習慣について調査研究を行い、特徴、支援法について検討した。
糖尿病患者の心理特性の特徴　第1報	共同	2013年5月	第56回日本糖尿病学会年次学術集会	糖尿病患者の心理特性、生活習慣について調査研究を行い、特徴を明らかにした。
糖尿病患者の心理特性と生活習慣の関連	共同	2015年5月	第57回日本糖尿病学会年次学術集会	糖尿病患者の生活習慣について量的調査を行い分析した。
糖尿病患者の心理特性と食や運動を中心とした生活習慣との関連	共同	2015年6月	第30回日本保健医療行動科学会学術大会	糖尿病患者の食や運動を中心とした生活習慣との関連について調査研究を行い、分析・検討した。
若年女性の食行動と心理社会的要因及び気質に関する研究	共同	2015年9月	第22回ヘルスカウンセリング学会学術大会	若年女性の食行動と心理特性、気質、生活習慣に関して調査研究を行い分析した。
糖尿病患者の心理特性と生活習慣病との関連	共同	2015年9月	第22回ヘルスカウンセリング学会学術大会	生活習慣病と糖尿病患者の心理特性との関連について調査研究を行い、分析・検討した。
食事を中心とした子どもの生活習慣に関する調査研究	共同	2016年2月	第12回すこやかキッズ全国セミナー	子どもの食事や睡眠、運動など生活習慣に関する調査研究を行い検討した。
子どもの体温と親子の生活リズムに関する研究	共同	2016年3月	第34回日本幼少児健康教育学会	子どもの体温と親子の食事、睡眠、運動などの生活リズムに関して実態を調査し、分析・検討した。
女性糖尿病患者の心理特性や不健康な行動感覚に関する研究	共同	2016年5月	第31日本保健医療行動科学会学術大会	女性糖尿病患者の心理特性や不健康な行動感覚に関して調査研究を行い、分析・検討した。
女子学生の食行動と心理社会的要因及び母親の表情認知に関する研究	共同	2016年10月	第23回ヘルスカウンセリング学会学術大会	女子学生の食行動と心理社会的要因及び母親の表情認知に関して調査研究を行い、分析した。

女子学生の生活習慣、保健行動との関連	共同	2017年9月	第24回ヘルスカウンセリング学会学術大会	女子学生の生活習慣、保健行動、心理特性について調査研究を行い検討した。
青年期女性の保健行動と心理社会的要因に関する調査研究	共同	2017年11月	第23回日本精神保健学会学術大会	青年期女性の保健行動と心理社会的要因に関して調査研究を行い、分析した。
(教育活動)				
講演:川崎市保育会 夏季職員研修会		2010年7月	川崎市保育会	小児保健(小児保健に関する最新トピックス、こどもの病気、症状にあわせた対応について)
子育て支援セミナー 「子育てコンパス実践編」		2011年5月	洗足こども短期大学保育・子育て研究所	子育て支援セミナー 心と体の健康づくり
講演：川崎市幼稚園協会　中堅教諭研修会		2011年6月	川崎市幼稚園協会	子どもの心と体の健康づくりについて
講演：川崎市保育会　夏季職員研修会		2011年7月	川崎市保育会	子どもの保健について
講演：川崎市保育会　夏季職員研修会		2012年7月	川崎市保育会	現代の子どもの健康問題、法改正に伴う感染症　予防接種の変更事項について、保育士のための精神保健
講演：川崎市幼稚園協会　新任教諭研修会		2012年11月	川崎市幼稚園協会	現代の子どもの健康問題とその対応
講演：川崎市保育会　夏季職員研修会		2016年7月	川崎市保育会	子どもの保健の現状と課題
(学術賞の受賞)				
第12回ヘルスカウンセリング学会 エクセレント賞		2005年9月	ヘルスカウンセリング学会	

教　育　研　究　業　績　書

２０１８年５月１日
氏名　曽野　麻紀

著書･学術論文などの名称	単　著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所､発表雑誌又は発表学会などの名称	概　　要
（学会発表）				
保育所実習の振り返りにおける学生の学びのとらえ方	共同研究発表（筆頭発表者）	2015年5月10日	日本保育学会第68回大会	保育者養成短大2年270名の保育所実習終了時における「子どもからの学び」について、実習報告書の分析を通じて学びの傾向、深さについて明らかにし、今後の実習指導のあり方について考察を行った。
校外授業を通した保育内容の総合的理解	共同研究発表	2015年5月10日	日本保育学会第68回大会	保育者養成短大における保育内容「環境」「健康」の学外における合同授業についての実践と今後の課題についての報告を行った。
保育内容「人間関係」・「言葉」の科目間連携にによる授業展開	共同研究発表	2016年5月7日	日本保育学会第69回大会	保育者養成短大における保育内容「人間関係」「言葉」において、学生の保育理解の深まりを目指して共通教材を利用した授業を実践した。保育学会において、授業の展開、学生の学び、今後の課題について報告した。
学生の保育環境構成力の形成に向けた取り組み	個人研究発表	2016年5月7日	日本保育学会第69回大会	保育者養成短大における保育内容「環境」の授業の中で、学生の保育環境構成力形成の効果を目指して玩具を用いた実践をおこなた。保育学会において実践、効果および今後の課題について報告した。
校外学習から見えた学生の保育者イメージ	共同研究発表（筆頭発表者）	2017年5月20日	日本保育学会第70回大会	保育者養成短大入学直後の学生が、保育内容「環境」「健康」の学外における合同授業（校外学習）という通常の講義・演習とは異なる体験を通して、自身の課題および保育者イメージをどのようにとらえるのか、その実態と傾向について報告、考察を行った。
（学術論文）				
幼稚園教育実習における学生の学びの分析	単著	2015年2月	洗足論叢第43号（9ページ）	短大2年生の幼稚園教育実習終了直後に実施した実習振り返りの分析を通して、子ども、保育者、その他（子どもと保育者以外）から学生が何を実習の学びとしてとらえているかを調査、分析し、学生の実態に沿った実習指導のあり方について考察を行った。
保育者養成課程における演習教材としての玩具の効果	単著	2016年2月	洗足論叢第44号（11ページ）	保育内容「環境」において、玩具（レゴブロック）を用いた実践により、授業前と授業後の学生の玩具に対する意識がどのように変化するかを分析し、さらに、授業の到達目標の一つである、保育者として保育環境を構成する力量形成に有効であるかの検証を行った。

保育系短期大学生の気付きに関する一考察―「保育内容・環境」の授業実践から	単著	2017年2月	洗足論叢 第45号 （10ページ）	保育者にとって、子どもだけでなく保育全体についての「気付き」は自己省察及び保育者としての資質向上のために欠かせないものであり、保育者養成課程においても学生は実習を中心に「気付き」がツテに求められる。本研究では、短大1年次前期（保育実習を経験していない時期）の学生の「気付き」がどのようなものであるか、捉え方の特徴や方向性について調査し、学生の実態把握及び今後の課題についての考察を行った。
（著書）				
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	共著	2009年5月	久美出版 （191ページ）	大溝茂・鈴木真理子編著 執筆担当部分 第13回　児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際 児童・家庭福祉制度における代表的な専門職である「保育士」「家庭支援専門相談員」について、職務の実際と今後求められる役割について詳説する。特に、「保育士」に関して、保育所における保育士と、保育所以外の施設保育士に分け、支援の実際について論述する。(pp.156～163) 第14回　児童・家庭福祉制度における公私の役割関係 児童・家庭福祉の実践は、児童の福祉ニーズが、年齢と発達状況によって変化することにより、一つの施設や機関では対応しきれない。この点に基づき、よりよい支援を行うための、関連分野との連携について論考する。特に、保健・医療機関、学校現場、民間団体との連携の実際について詳説する。(pp.164～173)
改訂　児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	共著	2010年4月	久美出版 （210ページ）	大溝茂・鈴木真理子編著 執筆担当部分 第11回　児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際、初版と同じく、「保育士」「家庭支援専門相談員」について詳説する。児童福祉法その他関連法規の改正に伴い、初版をもとに改訂を行った。(pp.148～155)、第12回　児童・家庭福祉制度における公私の役割関係、児童・家庭福祉実践における、多職種連携の実際について詳説する。児童福祉法その他関連法規の改正に伴い、改訂を行った。(pp.156～165)、第14回　児童・家庭への相談援助の理論と基本、『改訂　児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』において、新規に追加された項目。児童・家庭への相談援助活動を行う際の重要な視点、基本的な姿勢について論述する。特に、家庭再統合、パーマネンシー、を相談援助活動における重要な視点をして取り上げる。また、施設内における児童の権利擁護、虐待防止について、実践例を紹介する。(pp.184～193)、第15回　児童・家庭への施設と地域での援助活動、『改訂　児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』において、新規に追加された項目。 児童福祉施設のうち、乳児院、児童養護施設、児童自立支援施設における相談援助活動の実際について詳説する。施設の形態、生活について近年の動向を紹介、さらに、専門職として、援助を行う上での重要な視点、姿勢、今後の課題について論述する。(pp.194～205)

第3版　児童や家庭に対する支援と児童・家庭福	共著	2012年4月	久美出版 （220ページ）	大溝茂・鈴木真理子編著 執筆担当部分 第11回　児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際 初版、改訂版と同じく、「保育士」「家庭支援専門相談員」について詳説する。児童福祉法その他関連法規の改正に伴い、改訂を行った。(pp.152～159) 第12回　児童・家庭福祉制度における公私の役割関係 児童・家庭福祉実践における、多職種連携の実際について詳説する。児童福祉法その他関連法規の改正に伴い、改訂を行った。(pp.160～169) 第14回　児童・家庭への相談援助活動の理論と基本 児童・家庭への相談援助活動を行う際の重要な視点、基本的な姿勢について論述する。特に、家族再統合、パーマネンシー、を相談援助活動における重要な視点として取り上げる。また、施設内における児童の権利擁護、虐待防止について、実践例を紹介する。改訂版をもとに、最新の動向を加え、データ等の見直しを行った。(pp.190～199) 第15回　児童・家庭への施設と地域での援助活動 児童福祉施設のうち、乳児院、児童養護施設、児童自立支援施設における相談援助活動の実際について詳説する。施設の形態、生活について近年の動向を紹介、さらに、専門職として、援助を行う上での重要な視点、姿勢、今後の課題について論述する。改訂版をもとに、データ等を見直し、最新の動向を見据えた内容とした。(pp.200～211)
第4版　児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	共著	2014年3月	久美出版	大溝茂・鈴木真理子・太田由加里　編著 執筆担当部分 第11回　児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際、改訂版・第3版と同じく、「保育士」「家庭支援専門相談員」について詳説する。児童福祉法その他関連法規の改正に伴い、改訂を行った。(pp.152～159)、第12回　児童・家庭福祉制度における公私の役割関係、児童・家庭福祉実践における、多職種連携の実際について詳説する。改訂版・第3版をもとに加筆した。(pp.160～169)、第14回　児童・家庭への相談援助活動の理論と基本、児童・家庭への相談援助活動を行う際の重要な視点、基本的な姿勢について論述する。特に、家族再統合、パーマネンシー、を相談援助活動における重要な視点として取り上げる。また、施設内における児童の権利擁護、虐待防止について、実践例を紹介する。第3版を基に加筆・修正を行う。(pp.190～199)、第15回　児童・家庭への施設と地域での相談援助活動児童福祉施設のうち、乳児院、児童養護施設、児童自立支援施設における相談援助活動の実際について詳説する。施設の形態、生活について近年の動向を紹介、さらに、専門職として、援助を行う上での重要な視点、姿勢、今後の課題について論述する。第3版を基に加筆・修正を行う。(pp.200～211)

生活事例から始める保育内容総論	共著	2014年3月	青鞜社 （137ページ）	神蔵幸子・宮川萬寿美　編著 執筆担当部分 第2章　保育の歴史的変遷 幼稚園・保育所の保育内容について、戦前～戦後について概説し、また、幼稚園教育要領について保育内容の変遷を、保育所保育指針との関連について詳説する。（pp17～32） 第3章　環境を通して行う保育 保育実践の基本的な考え方である「環境を通して行う保育」について、短大・大学1・2年生が容易に理解できるように、学生が実践的に学ぶための課題や、保育現場の実践例の考察を意識的に多く取り入れ、詳説する。（pp33～46）
生活事例から始める保育原理	共著	2015年4月	青鞜社 （124ページ）	神蔵幸子・宮川萬寿美　編著 執筆担当部分 第3章　保育の場 現代の保育の場としての保育所、幼稚園それぞれの制度および機能と役割について詳説する。また、子ども・子育て支援制度と認定こども園についての理解を深めるために、関連法案、こども園、制度利用について概説する。自学自習のための演習を加えるなどの工夫を行う。（pp.37～48） 第4章　保育の目標と方法 保育所保育、幼稚園教育それぞれについて理解を深めるために、関連法規、保育所保育指針における保育の目標、幼稚園教育要領における目標について詳説する。さらに子ども・子育て支援新制度の理解にむけ、関連法規及び幼保連携型認定こども園についても概説する。（pp.49～62）
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	共著	2017年3月	電気書院 （208ページ）	大溝茂・太田由加里　編著 執筆担当部分 第11回　児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際、児童・家庭福祉制度における代表的な専門職である保育士・家庭支援専門相談員について、それぞれの役割及び業務について詳説する。（pp.136～143）、第12回　児童・家庭福祉制度における公私の役割関係、児童の福祉ニーズは、その特性上、さまざまに変化するために、児童・家庭福祉の実践は多岐にわたる。より良い実践を行うための他の関係機関や各専門職への理解及び、連携の実際について詳説する。（pp.144～153） 第14回　児童・家庭への相談援助活動の理論と基本、児童・家庭への相談援助活動を行う際の重要な視点について詳説する。子ども発達理解の重要性、パーマネンシ―、を重要な視点として取り上げ、さらに施設内における児童の権利擁護、虐待防止について実践例を紹介する。（pp.178～187）、第15回　児童・家庭への施設と地域での援助活動、児童福祉施設のうち、保護を要する子どもの施設である乳児院、児童養護施設、児童自立支援施設における援助活動について詳説する。施設の形態、生活や援助について近年の動向を紹介し、さらに、専門職としての重要な視点、姿勢、今後の課題について紹介する。（pp.188～200）

保育を支える生活の基礎 ～豊かな環境のつくり手として～	共著	2018年3月	萌文書林 （140ページ）	神蔵幸子・中川秋美　編著 執筆担当部分（並木真理子・曽野麻紀共同執筆） 第2章　保育の1年間の生活 幼稚園、保育所等の1年間の保育生活全体を見通し、豊かな活動を計画、実践する力をつけるために、各月の生活、植物、食物、行事などを写真と共に具体的に紹介する。保育活動に結び付けられるように、実践例や活動場面の実際を多く取り入れる。（pp18～43）
（その他）				
保育所実習を終えて ～2014年度保育所実習Ⅱ総括～	共著	2015年2月	洗足こども短期大学	2014年度保育所実習Ⅱ履修学生について、実習での学びおよび自己の課題を明らかにし、言語化・文章化に向けて指導を行い、実習報告書として発行する。

（教育活動）		
リアクション・ペーパーの活用並びにレポートの内容公開	1999年10月～現在	「教育学」、「教育概論」等における、教員と学生諸氏の双方向性講義構築のための工夫・実践である。
東海大学 「授業についてのアンケート」	1999年10月～2011年3月 毎年春学期・秋学期毎に実施	担当科目「教育学概論」についての学生による授業評価。授業を通じて学生自身が達成できたことのうち、特に「社会的視野が広がった」（毎回80～90%）、「知的関心を呼び起こされた」（毎回70～80%）項目が高い。また、授業について良かった点では「授業内容が分かりやすい」（毎回90～100%）、「関心が持てる授業内容」（毎回90%以上）、「先生の話が聞き取りやすい」（毎回90%以上）の項目が高い。
保育実習テキスト	2009年4月～2011年3月	帝京大学文学部教育学科幼児教育コース保育実習事前事後指導のための学内テキスト。保育士資格取得のための実習全般について、それぞれの目的、内容、実習の進め方、事前学習、部分実習、責任実習、指導案の立て方、記録の書き方等を解説する。また、学生自身で事後学習、実習の振り返りが行えるようなシートを作成、活用した。
保育実習指導指針	2011年4月	帝京大学文学部教育学科幼児教育コースの保育実習施設向けに作成した実習指導指針。実習の目的、内容、帝京大学における実習指導内容等を、実習施設と共有し、共通理解することで、実習生、実習施設、大学それぞれが実習を進めやすく（実習しやすく）することをねらいにした。
保育実習日誌	2010年4月	帝京大学文学部幼児教育コースのすべての実習について、オリジナルの実習日誌を作成する。「保育所ボランティア日誌」（大学2年生用）、「保育所実習日誌」「施設実習日誌」の3種類。
実習関連書類	2010年4月	帝京大学文学部教育学科幼児教育コースの保育実習全般に必要な書類（評価票、出勤簿、誓約書、総合評価票等）について検討、作成した。
視聴覚教材の活用	2006年4月～現在	「保育内容・環境」「保育内容総論」等における学生の授業内容理解とイメージの具体化のための工夫・実践である。

玩具を使用した保育内容「環境」グループワーク実践	2014年4月～現在	「保育内容総論」「保育内容・環境」における学生の子ども理解と保育実践イメージの具体化のための工夫・」実践である。
授業実践における付属幼稚園との連携	2016年4月～現在	「保育内容総論」「保育内容・環境」「保育内容・言葉」における学生の子ども理解と保育実践力を高めるための工夫・実践である。
保育内容の総合的理解に向けた地域連携型授業	2017年10月～現在	学生の保育内容の総合的理解および実践力を高めるための工夫として、「保育内容総論」において実施した近隣保育施設園児との交流を伴う授業実践。
（社会活動）		
川崎市幼稚園協会　免許状更新講習講師	2013年8月	川崎市幼稚園協会が実施する免許状更新講習必須領域担当講師として「幼稚園をめぐる近年の状況の変化を踏まえた教員の役割」について講義を行う。
川崎市幼稚園協会　免許状更新講習講師	2014年8月	川崎市幼稚園協会が実施する免許状更新講習必須領域担当講師として「幼稚園をめぐる近年の状況の変化を踏まえた教員の役割」について、最新の動向および事例を交えた講義を行う。
川崎市幼稚園協会　免許状更新講習講師	2015年8月	川崎市幼稚園協会が実施する免許状更新講習必須領域担当講師として「幼稚園をめぐる近年の状況の変化を踏まえた教員の役割」について、最新の動向を紹介し、保育現場における具体的事例を交えた講義を行う。
川崎市幼稚園協会　免許状更新講習講師	2016年8月	川崎市幼稚園協会が実施する免許状更新講習必須領域担当講師として「幼稚園をめぐる近年の状況の変化を踏まえた教員の役割」について、最新の動向を紹介し、保育現場における具体的事例を交えた講義を行う。
川崎市幼稚園協会　免許状更新講習講師	2017年8月	川崎市幼稚園協会が実施する免許状更新講習必須領域担当講師として「幼稚園をめぐる近年の状況の変化を踏まえた教員の役割」について、最新の動向を紹介し、保育現場における具体的事例を交えた講義を行う。
オープンキャンパス体験授業	2017年7月	洗足こども短期大学7月オープンキャンパスにおいて、保育を志望する高校生に対して、「保育内容・環境」授業体験として、「保育者に求められる感性～保育内容・環境の実践から～」について講義・演習を行う。
高津区共催保育実技研修講師	2017年9月	洗足こども短期大学共催高津区役所保育所等・地域連携保育実技研修会として、現職保育士を対象とした、子どもの絵本についての講義・演習「絵本で遊ぼう～子どもの発達に即した絵本の選び方・楽しみ方～」を行う。具体的内容は、絵本から見られる乳幼児期の発達、絵本の選定方法、子どもと共に楽しむ方法についての講義と、絵本をもとにした「お話づくり」の実践。
川崎市保育士等キャリアアップ研修講師	2017年11月	川崎市保育士等キャリアアップ研修において「幼児教育の環境」を担当。主に、保育の環境、幼児にとっての望ましい環境のあり方、人的環境としての保育者の役割について、子どもや保育現場の現状を踏まえつつ講義を行う。
川崎市保育士等キャリアアップ研修講師	2017年12月	川崎市保育士等キャリアアップ研修において「幼児の発達に応じた保育内容」を担当する。主に、3歳以上児の発達の特徴、集団生活で見える姿、保育実践の特徴を、保育現場の事例を取り入れつつ講義を行う。

教 育 研 究 業 績 書

2018年5月1日
氏名　飯塚　美穂子

著書･学術論文などの名称	単　著･共著の別	発行又は発表の年月	発行所､発表雑誌又は発表学会などの名称	概　　要
（著書）				
子どもたちと歩んだ日々～かながわ･児童福祉事業の軌跡	共著	2005年12月	神奈川県 社会福祉協議会 （427ページ）	主として第Ⅱ部･第Ⅲ部、pp.65～264、及び編集･事務局を担当 戦前、そして敗戦直後から神奈川の児童がどのような状況におかれ、それに対して社会がどのように対応してきたのかを振り返るとともに、社会事業から社会福祉へという大きな歴史的転換を経緯しながら、子どもたちに対する責任を果たそうとしてきた先人たちの開拓的･先駆的な努力と業績をまとめたもの。児童養護施設等の変遷を中心に神奈川県における児童福祉の歴史、各施設の取組等を紹介している。 （編集：かながわの児童福祉事業史編纂委員会、分担執筆：箕原實、遠近教英、島田武三、大溝茂、鶴飼一晴、齋藤百合子、山口晴一、飯塚美穂子）
福祉サービスの組織と経営（社会福祉士シリーズ第11巻）	共著	2009年5月	弘文堂 （248ページ）	第4章「福祉サービス提供組織と地域社会」pp.53～67：わが国の社会福祉サービスを担ってきた中心的存在としての社会福祉法人（特に社会福祉施設と社会福祉協議会）の機能の特徴と地域社会において果たしている役割を整理し、さらに福祉の多元化を背景として発展してきたNPOの現状と課題、地域社会との関連、その他医療法人や公益法人などの多様な福祉サービスの提供組織の位置づけと役割をまとめたもの。 （編集：福祉臨床シリーズ編集委員会、責任編集：久門道利/西岡修、分担執筆：金井直子、馬場茂樹、馬場千恵ほか
福祉サービスの組織と経営（社会福祉士シリーズ第11巻）第2版	共著	2013年2月	弘文堂 （270ページ）	第4章「福祉サービス提供組織と地域社会」pp.57-72：初版の内容を大幅に改訂し、様々な福祉サービス提供主体が参入し、さらに高齢化の急速な進展がみられる近年の状況をふまえ、あらたにまとめなおした1冊。福祉サービス提供組織の役割と課題に加え、新しい公共とNPO、「地域包括ケアシステム」の構築など新たなサービス提供のしくみについて丁寧に解説し、社会福祉士として必要不可欠な知識についてまとめたもの。（編集：福祉臨床シリーズ編集委員会、責任編集：久門道利/西岡修、分担執筆：金井直子、馬場茂樹、馬場千恵ほか
家庭支援論（保育者養成シリーズ）	共著	2013年9月	一藝社 （197ページ）	第8章「保育所･幼稚園における支援方法の実際」pp.95-106：これからの保育士･幼稚園教諭に求められる保護者対応の視点、日常的な家庭支援の実際、課題を抱える家庭への支援、家庭支援の専門性と保育士の倫理についてまとめたもの。保育所･幼稚園における保育者の支援方法の実際について、支援が必要となる場面を解説し、事例等を用いながら具体的なポイントを示している。（監修：林邦雄･谷田貝公昭、編著：中野由美子、分担執筆：佐藤純子、千葉千恵美、永田彰子、飯塚美穂子ほか

知識を生かし実力をつける子ども家庭福祉	共著	2013年12月	保育出版社 （198ページ）	第14章第3節「保育でソーシャルワークって、どうすればいいの？～保育現場における子ども家庭福祉相談援助活動：相談援助の展開過程」pp.169～171：子ども家庭福祉の基礎知識（専門機関、制度、サービス等）を学び、ディスカッション等を通して対人援助職としての実力を身につけるためのテキスト。保育とソーシャルワークの関係と、相談援助における適切な展開過程について学び、課題の解決に至る過程で、援助者がどのように関わり、子どもや保護者がどのように変化・変容してきたのかというプロセスの重要性についてまとめている。（監修：流石智子、編著：浦田雅夫、分担執筆：小口将典、新川朋子、飯塚美穂子ほか）
子どもの生活を支える　相談援助	共著	2015年4月	ミネルヴァ書房 （174ページ）	第9章「保育士とグループワーク」pp.154～168：保育士養成基準に沿いつつ、保育士として必要な相談援助の基礎的内容を理解し、同時に、常に保育士という視点に戻ることによって学びを深めるためのテキスト。保育士にとって日々活用できる重要な技術であるグループワークについて、その意義と基本、日常の保育や地域子育て支援等において活用できる内容についてまとめたもの。事例や振り返り問題、コラム等を多く掲載し、保育を学ぶ学生にとって、理解しやすい内容となっている。（編集：田中利則、小野澤昇、大塚良一、分担執筆：瓜巣由紀子、本山芳男、飯塚美穂子ほか）
家庭支援論（基本保育シリーズ⑬）	共著	2016年3月	中央法規出版 （190ページ）	第3講「保育士等が行う家庭支援の原理」pp.25～36／第6講「現代の家族における人間関係」pp.63～74：保育士養成カリキュラムに準拠し、子どもと家庭を取り巻く社会環境の変化と保育士に求められる家庭支援のあり方について理解を深めるためのテキスト。児童福祉法、保育所保育指針、幼稚園教育要領に示されている家庭支援の原理を学び、保育士が関わる子どもと家庭について理解し、家庭支援の目標とその方法について理解を深めていく。また、現代の家族・家庭の変容について学び、家庭におけるさまざまな人間関係をふまえたうえで、家庭支援の際に必要な配慮について学びを深めるための内容となっている。 （編集：新保幸男、小林理、分担執筆：橋本真紀、寶川雅子、飯塚美穂子ほか）
児童家庭福祉（基本保育シリーズ③）	共著	2016年3月	中央法規出版 （185ページ）	第3講「児童家庭福祉と保育」pp.25～36／第4講「児童の人権擁護と児童家庭福祉」pp.37～48：保育士養成カリキュラムに準拠し、保育士が必ず身に着けてほしい児童家庭福祉の基礎知識と、多様化する保育士の役割にも言及したテキスト。 児童家庭福祉の一分野としての保育について理解し、子どもや保護者に適切に対応するために、子育て環境の変化や保育士策の現状、社会福祉専門職としての保育士について学びを深め、保育士が取り組むべき課題について学び、考えていくための内容となっている。 編集：新保幸男、小林理、分担執筆：佐藤まゆみ、平戸ルリ子、飯塚美穂子ほか）

改訂　子ども家庭福祉(保育士養成課程)	共著	2016年3月	光生館 （179ページ）	第5章1節2,3「これからの課題～ひとり親、外国籍の子ども」pp.153-157：子どもたちの生活の変化、子育て家庭を取り巻く社会環境の変化に鑑み、新制度に即した情報を盛り込んだ保育士養成課程のテキスト。現代社会における子ども家庭福祉の意義について学び、さまざまな制度やサービスが必要とされてきた背景を理解し、多様な子ども家庭福祉のニーズについて学びを深めるための内容となっている。（編集：佐々木政人、澁谷昌史、加藤洋子、分担執筆：志濃原亜美、谷口純世、飯塚美穂子ほか）
子どもの生活を支える　児童家庭福祉	共著	2016年4月	ミネルヴァ書房 （174ページ）	第6章第1節および3節「児童家庭福祉の現状と課題」pp.119～124、pp.134～141：保育士が理解しておくべき少子化の背景と現状、少子化対策の動向と子育て支援サービスについてまとめたもの。今後ますます増大すると考えられる多様な保育ニーズへの対応についても、子ども・子育て支援新制度によるサービス提供の仕組みをふまえて学びを深めていくためのテキスト。事例や振り返り問題、コラム等を多く掲載し、保育を学ぶ学生にとって、理解しやすい内容となっている。（編集：田中利則、小野澤昇、大塚良一、分担執筆：瓜巣由紀子、野島正剛、加藤洋子、飯塚美穂子ほか）
実習生の日誌事例から考察する　社会的養護内容	共著	2017年9月	大学図書出版 （121ページ）	第1章第2節「児童の権利と社会的養護の役割」pp.10～11、第3章第2節「相談支援」pp45～49：学生の実習日誌に記された多くの事例の考察を通して学びを深めることを目的に、保育士を目指して「社会的養護内容」を学ぶ学生に向けてまとめられた一冊。実際の施設実習における体験事例を読み込み分析することで、施設の体系や種別、施設ごとの特色や支援内容・専門技術についてより具体的にイメージし、理解を深めることができる。
基本保育シリーズ③児童家庭福祉〈第2版〉	共著	2017年12月	中央法規出版 （198ページ）	第3講「児童家庭福祉と保育」pp.27～38／第4講「児童の人権擁護と児童家庭福祉」pp.39～50:児童福祉法をはじめ、母子及び父子並びに寡婦福祉法、母子保健法、児童虐待の防止等に関する法律、保育所保育指針などの改正を受けて修正した改訂版。児童の権利に関する条約の精神にのっとり、児童の最善の利益という点を意識して行われた制度改正をふまえ、直近の児童福祉サービスについて理解し、具体的なサービスの仕組みや内容について学びを深める内容となっている。 （編集：新保幸男、小林理、分担執筆：原史子、大塚晃、平戸ルリ子、尾木まり、佐藤まゆみ、柴田千香、二井仁美、藤咲宏臣、寶川雅子、飯塚美穂子）
基本保育シリーズ⑬家庭支援論〈第2版〉	共著	2017年12月	中央法規出版 （191ページ）	第3講「保育士等が行う家庭支援の原理」pp.25～36／第6講「現代の家庭における人間関係」pp.63～74：平成28年・29年の児童福祉法改正、平成29年の保育所保育指針の改定をふまえた改訂版。児童の養育環境の優先順位としての「家庭」「家庭と同様の養育環境」「良好な家庭的環境」の3つがあることを理解しつつ、家庭をどのように理解するのかという視点をもち、家庭の背景となる社会実態や社会動向を理解することを目指している。さらに、家庭支援の具体的方法について学びを深める内容となっている。（編集：新保幸男、小林理、分担執筆：原史子、藤咲宏臣、平戸ルリ子、吉田眞理、佐藤まゆみ、橋本真紀、寶川雅子、飯塚美穂子）

子どもの豊かな育ちをを支える　保育者論	共著	2018年2月	ミネルヴァ書房 （213ページ）	第8章「保育者の協働」pp.144～153：子どもにとって理想の保育者とはどのような存在であるのか、保育者に求められる役割や専門性について、今日の社会状況の変化や制度の変遷等をふまえて解説し、まとめた一冊。子どもに対する支援や役割についてのみにとどまらず、保護者との協働や地域社会との協働についても述べ、事例やコラム等を用いて、学生が保育者の役割について具体的にイメージできるような構成となっている。（編集：五十嵐裕子、大塚良一、野島正剛、分担執筆：金元あゆみ、宮崎静香、星順子、浅見優哉、小屋美香、小川史、飯塚美穂子）
事例を通して学びを深める　施設実習ガイド	編著	2018年4月	ミネルヴァ書房 （212ページ）	第7章「施設実習の振り返り」pp.177～191、「Q&A」pp.193～200、「巻末資料」pp.207：保育所保育士とは異なる施設保育士の役割について理解し、子ども・利用者の特性や内面を理解し、その援助について実践例を通して学ぶためのテキスト。実習生の戸惑いやそれらをどのように乗り切っていくか、克服するための手がかり等、実習施設からの要望等について、実習生側と施設側の二つの視点より具体的な事例を用いて解説している。（監修：田中利則、編著：加藤洋子、一瀬早百合、飯塚美穂子、分担執筆：下尾直子、山本真知子、蠣崎尚美、板倉香子、橘川佳奈、浦野耕司、望月隆之）
（学術論文）				
児童福祉施設が求める保育実習学生の資質～アンケート調査における自由回答記述の分析を通して	研究ノート	2017年2月	平成28年度「洗足論叢」第45号 （12ページ）	保育士養成課程の施設実習において実習生に求められる資質、姿勢や態度を明らかにすることにより、今後の実習指導のあり方や就職支援に結びつけていくことを目的に実施した調査研究。児童福祉施設（主として児童養護施設及び乳児院）に向けてアンケート調査を実施し、平成28年6月、第17回日本子ども家庭福祉学会全国大会にて自由研究報告を行った。（pp.157～168）
（学会発表）				
新しい社会貢献のかたち～社会が求める企業の存在とは	共同研究	2013年2月	日本ビジネス実務学会第40回関東・東北ブロック研究会報告	誰もが安全・安心で快適な生活を送ることができる地域社会の構築を目指し、事業活動から、地域社会に生じている様々な生活課題へ取り組む企業のCSR推進活動について、事例を通して、その課題と社会的使命を明らかにしている。（研究者：飯塚順一/飯塚美穂子）
児童福祉施設が求める保育実習学生の資質～アンケート調査における自由回答記述の分析を通して	個人研究	2016年6月	日本子ども家庭福祉学会第17回全国大会研究報告	保育士養成課程の施設実習において実習生に求められる資質、姿勢や態度を明らかにすることにより、今後の実習指導のあり方や就職支援に結びつけていくことを目的に実施した調査研究。
保育所保育士による保護者支援の実態と課題～インタビュー調査の分析を通して	個人研究	2017年6月	日本子ども家庭福祉学会第18回全国大会研究報告	保育所保育士が保護者や家庭を支援していく際に大切にしていること、向き合っている困難さとその乗り越え方を具体的に把握し、概念化することを試みた調査研究。困難さや乗り越え方を含めた、保護者との関係性や保護者の捉え方について、保育士の経験年数による違いを分析すること、適切な保護者支援のあり方と、職場環境等の条件について検討を行った。

保育所におけるソーシャルワーク実践の可能性～保育ソーシャルワークの動向と論点	個人研究	2018年3月	日本社会福祉学会 2017年度関東部会 研究大会自由研究報告	近年の子育て家庭が置かれている状況と保育所・保育士に求められている役割をふまえ、保育ソーシャルワークが必要とされるようになってきた背景を、既存のデータや統計資料を整理し、明らかにした研究。先行研究のレビューを通して、保育ソーシャルワークの研究動向、論点の整理を行い、その独自性や実践主体について明らかにするとともに、新たな実践モデルを提示した。
（連載）				
「月刊福祉」トレンドサーチ（リスト/レポート）	執筆担当	2003年8月～ 2007年5月	月刊誌「月刊福祉」 （全社協）	「月刊福祉」において、福祉情報としての新着資料、調査研究報告書等を紹介する連載コーナー。福祉情報ネットワーク（主催：生田正幸）のメンバーとして資料紹介（リスト）と資料解説（レポート）の執筆を担当
（共同研究）				
地域貢献活動分野に係る職業能力開発推進体制整備モデル事業(コミュニティ･ジョブ支援事業)(厚生労働省委託事業)	共同研究	2008年～ 2009年度	「厚生労働省委託事業」 特定非営利活動法人まちづくり情報センターかながわ(アリスセンター)	少子高齢化が進み人口減少社会を迎えるなか、定年を迎え地域社会に戻ってくる団塊世代をはじめ、中高年齢者が意欲と能力のある限り年齢にかかわりなく社会とつながり、その知識や経験を地域社会に生かすための環境整備が課題となっている。このような状況下、中高年齢者と非営利活動組織（NPO）など地域社会に貢献する活動を行っている団体を結びつけ、中高年齢者が積極的にNPO法人等を就業先として選択する環境を整えるため、厚生労働省の委託を受け、「かながわコミュニティジョブ・サポートセンター」を横浜で開設し、神奈川県内にて、NP（主として事業計画立案、プログラムの推進を担当）
「シニア世代の地域NPO活動参画を推進するためのシニアとNPOのマッチングに関する実態調査」報告書	共同研究	2010年3月	特定非営利活動法人まちづくり情報センターかながわ(アリスセンター) （全53ページ）	共同研究により抽出不可：超高齢社会となった近年、企業に長く勤めて退職した元気なシニア層の新しい生きがいや働き場所として、NPOへの就労、参加が注目されている。NPOの側にとっても、社会経験豊富な人材を迎え入れ、事業推進力を上げたいといったニーズからシニア層は貴重な戦力となりうる。こうした状況を踏まえ、NPOへの就労・参加がシニア世代のワークライフデザインの一環として選択されやすい社会環境を整えるために、シニアとNPOの双方の意識や実態を把握・分析し、双方よい関係を結ぶために必要な条件や仲介機能のあり方などについて検証した調査研究（主としてアンケート及び聴き取り調査、調査結果分析、報告書執筆を担当）（研究者：藤枝香織/飯塚美穂子）
（教育活動）				
認知症高齢者家族安らぎ支援事業支援員養成研修及び事例研修・フォローアップ研修講師			2003年8月～ 2012年3月	杉並区より委託を受け、NPO法人新しいホームをつくる会が実施している「認知症高齢者家族安らぎ支援事業」において、毎年実施されている養成研修及び事例研修・フォローアップ研修の講師(研修計画作成)。（高齢者と家族、コミュニケーション、高齢者虐待、社会福祉制度の現状と課題、小規模多機能とグループホーム、等について）

認知症高齢者グループホーム職員研修講師	2005年12月～ 2012年3月	NPO法人新しいホームをつくる会が運営する認知症高齢者グループホームにおける職員研修の講師(研修計画作成)。(認知症のある人のためのケアマネジメントセンター方式について、現場実習計画作成、初任者研修、スキルアップ研修等)
「子どもたちと歩んだ日々～かながわ・児童福祉事業の軌跡」	2005年12月	神奈川県内における児童福祉事業の歩みをまとめた歴史研究。(詳細は著書欄を参照)
「福祉サービスの組織と経営」(社会福祉士シリーズ第11巻)	2009年5月	福祉サービスを提供する組織と経営のあり方についてまとめた社会福祉士養成のためのテキスト。(詳細は著書欄を参照)
「福祉サービスの組織と経営」(社会福祉士シリーズ第11巻)第2版	2013年2月	福祉サービスを提供する組織と経営のあり方についてまとめた社会福祉士養成のためのテキスト。近年の制度改正や社会の変化を反映した第2版(詳細は著書欄を参照)。
家庭支援論(保育者養成シリーズ)	2013年9月	保育所・幼稚園における保育者の支援方法の実際について、支援が必要となる場面を解説し、事例等を用いながら具体的なポイントを示したテキスト。(詳細は著書欄を参照)
知識を生かし実力をつける子ども家庭福祉	2013年12月	保育者をめざす学生にとって必要とされる児童家庭福祉の基礎的な知識と、支援の対象となる子どもや家庭の状況や適切な援助方法についてまとめたテキスト。(詳細は著書欄を参照)
子どもの生活を支える　相談援助	2015年4月	保育士が日々活用する相談援助の技術について、その意義と基本、日常の保育や地域子育て支援等において活用できる内容についてまとめたもの。事例や振り返り問題、コラム等を多く掲載し、保育を学ぶ学生にとって、理解しやすい内容となっている。(詳細は著書欄を参照)
家庭支援論(基本保育シリーズ⑬)	2016年3月	子どもや家庭を取り巻く環境が大きく変化しつつある社会状況を鑑み、保育士等が行う家庭支援の原理についてまとめたもの。児童福祉法・保育所保育指針・幼稚園教育要領に示されている家庭支援の原理を学び、家庭支援の目標と保育士等が用いる家庭支援の方法について学び理解を深める内容となっている。(詳細は著書欄を参照)
児童家庭福祉(基本保育シリーズ③)	2016年3月	児童家庭福祉における一分野であり、社会福祉サービスの一つとして位置付けられている保育についてまとめている。子育て環境の変化と保育施策の現状を理解し、社会福祉専門職としての保育士について学び、保育サービスの課題と今後について考えていく内容となっている。(詳細は著書欄を参照)
改訂　子ども家庭福祉(保育士養成課程)	2016年3月	保育士が対応すべき新たな課題、ひとり親家庭や外国籍の子どもへの支援など、潜在的な子育て家庭の問題についてまとめたもの(詳細は著書欄を参照)

子どもの生活を支える　児童家庭福祉	2016年3月	保育士が理解しておくべき少子化の背景と現状、少子化対策の動向と子育て支援サービスについてまとめたもの。多様な保育ニーズへの対応についても、子ども・子育て支援新制度によるサービス提供の仕組みをふまえて学びを深めていくためのテキスト。事例や振り返り問題、コラム等を多く掲載し、保育を学ぶ学生にとって、理解しやすい内容となっている。（詳細は著書欄を参照）
実習生の日誌事例から考察する　社会的養護内容	2017年9月	学生の実習日誌に記された多くの事例の考察を通して学びを深めることを目的に、保育士を目指して「社会的養護内容」を学ぶ学生に向けてまとめられた一冊。実際の施設実習における体験事例を読み込み分析することで、施設の体系や種別、施設ごとの特色や支援内容・専門技術についてより具体的にイメージし、理解を深めることができる。（詳細は著書欄を参照）
基本保育シリーズ③児童家庭福祉〈第2版〉	2017年12月	児童福祉法をはじめ、母子及び父子並びに寡婦福祉法、母子保健法、児童虐待の防止等に関する法律、保育所保育指針などの改正を受けて修正した改訂版。児童の権利に関する条約の精神にのっとり、児童の最善の利益という点を意識して行われた制度改正をふまえ、直近の児童福祉サービスについて理解し、具体的なサービスの仕組みや内容について学びを深める内容となっている。（詳細は著書欄を参照）
基本保育シリーズ⑬家庭支援論〈第2版〉	2017年12月	平成28年・29年の児童福祉法改正、平成29年の保育所保育指針の改定をふまえた改訂版。児童の養育環境の優先順位としての「家庭」「家庭と同様の養育環境」「良好な家庭的環境」の3つがあることを理解しつつ、家庭をどのように理解するのかという視点をもち、家庭の背景となる社会実態や社会動向を理解することを目指している。さらに、家庭支援の具体的方法について学びを深める内容となっている。（詳細は著書欄を参照）
子どもの豊かな育ちをを支える　保育者論	2018年2月	子どもにとって理想の保育者とはどのような存在であるのか、保育者に求められる役割や専門性について、今日の社会状況の変化や制度の変遷等をふまえて解説し、まとめた一冊。子どもに対する支援や役割についてのみにとどまらず、保護者との協働や地域社会との協働についても述べ、事例やコラム等を用いて、学生が保育者の役割について具体的にイメージできるような構成となっている。（詳細は著書欄を参照）
事例を通して学びを深める　施設実習ガイド	2018年3月	保育所保育士とは異なる施設保育士の役割について理解し、子ども・利用者の特性や内面を理解し、その援助について実践例を通して学ぶためのテキスト。実習生の戸惑いやそれらをどのように乗り切っていくか、克服するための手がかり等、実習施設からの要望等について、実習生側と施設側の二つの視点より具体的な事例を用いて解説している。（詳細は著書欄を参照）

（社会活動）		
特定非営利活動法人新しいホームをつくる会 研究員	2000年4月～ 2012年3月	研究員として勤務し、地域ケア、高齢者ケアの現場のスタッフを対象に、人材育成、研修計画担当、及び研修講師として携わる。
社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会かながわ福祉人材センター研修研究課非常勤職員	2003年4月～ 2006年3月	非常勤職員として勤務し、社会福祉従事者、研究者及び学生を対象として、人材育成支援、研修企画情報、福祉情報提供業務に携わる。特に、様々な福祉サービス・制度の現状や課題を常に新しい情報として提供するとともに、これから従事者を志す学生、その指導者である学校関係者等に対しても、実習教育に関する様々な情報提供を行った。
特定非営利活動法人まちづくり情報センターかながわ（アリスセンター）	2006年7月～ 2012年3月	非常勤スタッフとして勤務し、県内で活動するNPO・市民団体をサポートする中間支援組織のスタッフとして、主として人材育成、研修事業、各種NPO実務講座の実施等に携わる。
「月刊福祉」トレンドサーチ（リスト・レポート紹介）執筆担当	2003年8月～ 2007年5月	月刊誌「月刊福祉」（全社協）連載コーナーの執筆を担当（詳細は業績欄を参照）
（福）花園会評議員選任・解任委員会　委員	2017年4月～	社会福祉法人評議員の選任及び解任に伴う委員会の開催等。
特定非営利活動法人あひる会　理事	2017年7月～	特定非営利法人あひる会の運営、理事会への出席、長期計画の立案等。

教 育 研 究 業 績 書

2018年5月1日
氏名　板倉　香子

著書･学術論文などの名称	単　著･ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所､発表雑誌又は 発表学会などの名称	概　　要
（著書）				
社会的孤立問題への挑戦－分析の視座と福祉実践－	共著	2013年2月	法律文化社 （273ページ）	第1部第6章 「社会的孤立と社会福祉協議会」pp.88～104 社会的孤立問題が社会福祉協議会活動にどのように位置づくのかについて論じたものである。社会福祉協議会の歴史的展開と、社会的孤立問題にどのように対峙してきたのかを踏まえたうえで、事例として千葉県君津市社会福祉協議会が行った高齢者調査の結果と、それを踏まえた社会福祉協議会活動について扱い、社会的孤立問題における社会福祉協議会活動の意義や方向性について論じている。 編者：河合克義、菅野道生、板倉香子 共著者：河合克義、新井康友、岩田美香、岩田直子、小川英二、板倉香子、菅野道生、真継直、芳賀清泰、奥山伸広、金安博明、平野幸子、西川正、横山秀昭、森芙紗子、鈴木るり子
実習生の日誌事例から考察する社会的養護内容	共著	2017年9月	大学図書出版 （121ページ）	第1章第3節 「社会的養護と保育士の倫理」pp.12-13 全国保育士会倫理綱領に基づき、専門職としての保育士がもつべき倫理観と行動規範を説明したものである。とくに社会的養護の現場である児童福祉施設で働く保育士としての姿勢や倫理観に着目し、社会的養護の支援場面における子どもや保護者の特性を踏まえ、そこでの支援において基盤となるべき基本姿勢の重要性についてまとめた内容である。 第4章第4節 「児童自立支援施設」 pp.77-81 社会的養護における施設養護のひとつである児童自立支援施設について説明した節である。入所児童の状況や施設職員の職務内容、非行少年の将来を見据えたリービングケアやアフターケア等について、統計データを用いて説明している。社会的養護における、とくに非行少年への支援の方向や実際について、理解を深める内容である。 編者：雨宮由紀枝・下尾直子 共著者：上野文枝、飯塚美穂子、板倉香子、中川秋美、宮川千春、二宮祐子、加藤洋子、中村眞理

事例を通して学びを深める　施設実習ガイド	共著	2018年5月	ミネルヴァ書房 （212ページ）	第5章第4節「児童自立支援施設」pp.98-104 社会的養護における施設養護の場としての児童自立支援施設について、施設の目的と対象、子どもの状況について、厚生労働省のデータをもとに説明している。また、職員による支援内容や勤務体制について、児童自立支援施設の特徴的な内容を含め解説している。ほか、実習事例を通して、子どもとの関わり方や実習生の姿勢等について理解を深める内容である。 第5章第5節「児童心理治療施設」pp.105-111 社会的養護における施設養護の場としての児童自心理治療施設について、施設の目的と対象、子どもの状況の変化などを、厚生労働省のデータをもとに説明している。また、職員による支援内容については、児童心理治療施設に特徴的な「総合環境療法」の紹介や多職種連携を含め、1日の生活の流れにのっとり、場面に応じた配慮や支援の実際について説明し、事例を通して考察を深められる内容となっている。 監修：田中利則 編者：加藤洋子・一瀬小百合・飯塚美穂子 共著者：加藤洋子、一瀬小百合、蠣崎尚美、下尾直子、楜澤令子、柴崎祐美、山本哲也、田中利則、竹村雅裕、山本真知子、佐藤まり、板倉香子、関維子、橘川佳奈、浦野耕司、阿部健太郎、望月隆之、神敬太、飯塚美穂子
（学術論文）				
ひとり暮らし高齢者の生活・意識と生活支援のあり方－港区における悉皆調査の結果を通して－	共著	2013年3月	明治学院大学 社会学会、 明治学院大学 社会学・社会福祉学研究 第140号 （33ページ）	平成23年に港区で実施したひとり暮らし高齢者の実態調査の結果をもとに、ひとり暮らし高齢者の社会的孤立と生活支援方策について論じたものである。社会的孤立問題に対しては、人的ネットワークの脆弱性とともに、その背景として経済階層への視点が欠かせないことを指摘している。そして、本調査の結果をもとに港区で実践が始まった「ふれあい相談員」制度について、その活動の意義と方向性について述べたものである。 共同研究につき本人担当部分抽出不可能であるが、当該調査の概要、結果の分析について主に担当し、分析結果を踏まえた最終の考察部分については、共同で行っている。 共著者：河合克義、板倉香子
地方市町村におけるひとり暮らし高齢者の生活と社会的孤立－山形県全市町村調査のデータから－	共著	2014年1月	明治学院大学 社会学部、 明治学院大学 社会学・社会福祉学研究 第141号 （63ページ）	平成23年に実施した山形県全市町村に居住する実質ひとり暮らし高齢者の生活に関する調査のデータを用いて、おもに社会的孤立の観点から、ひとり暮らし高齢者の生活実態やそれを支える社会的ネットワークについて論じた。調査結果の分析にあたっては、集計結果から全体の状況や分布を把握し、そのうえで、生活実態や意識に関する項目を用いた因子分析とその結果からクラスタ分析を行って大きく4つの類型に分けてその特徴を捉え、とくに支援システムから漏れ落ちてしまいやすい層への視点の重要性を考察した。 共同執筆につき本人担当部分抽出不可能であるが、本稿では調査の概要から結果の分析についての執筆および集計・分析について本人が担い、結果の最終的な考察部分については共同で行った。 共著者：河合克義、板倉香子

児童自立支援施設における小舎夫婦制支援の検討（1）ー「家庭的」支援の実践に焦点をあててー	共著	2016年3月	立正大学 社会福祉学会、 立正社会福祉研究 第17巻1・2号 （通巻第31号） （8ページ）	平成27年度日本学術振興会科学研究費補助金（基板研究B）「社会的養護における『家庭的』支援の検討ー児童自立支援施設からの考察ー」（研究代表者岩田美香）の一環として行われた、小舎夫婦制をとる児童自立支援施設の寮長・寮母経験者へのヒアリング調査の結果から、家庭的支援のとらえ方や実際、それを形成する要素について論じたものである。 共同執筆につき本人担当部分抽出不可能であるが、本稿の執筆にあたっては、ヒアリング調査の実施および結果の集約と分析について共同で行い、とくに家庭的支援に関するインタビュー結果の整理・分析に携わった。 共著者：新藤こずえ、板倉香子
児童自立支援施設における小舎夫婦制支援の検討（2）ー「家庭的」支援の課題に焦点をあててー	共著	2016年3月	立正大学 社会福祉学会、 立正社会福祉研究 第17巻1・2号 （通巻第31号） （9ページ）	平成27年度日本学術振興会科学研究費補助金（基板研究B）「社会的養護における『家庭的』支援の検討ー児童自立支援施設からの考察ー」（研究代表者岩田美香）の一環として行われた、小舎夫婦制をとる児童自立支援施設の寮長・寮母経験者へのヒアリング調査の結果から、寮長・寮母の裁量と家庭的支援の関連の視点から実践についてまとめ、小舎夫婦制への評価と課題について論じたものである。 共同執筆につき本人担当部分抽出不可能であるが、本稿の執筆にあたっては、ヒアリング調査の実施および結果の集約と分析について共同で行い、とくに小舎夫婦制に関するインタビュー結果の整理・分析に携わった。 共著者：新藤こずえ、板倉香子
＜研究ノート＞社会的養護の支援における性差の影響についてー全国児童自立支援施設職員調査からの検討ー	単著	2017年2月	洗足学園音楽大学・ 洗足こども短期大学 洗足論叢 第45号 （17ページ）	平成27年度日本学術振興会科学研究費補助金（基板研究B）「社会的養護における『家庭的』支援の検討ー児童自立支援施設からの考察ー」（研究代表者岩田美香）の一環として行われた、児童自立支援施設職員へのアンケート調査の結果から、性別とケア形態の違いを軸に、家庭的支援の実際について分析を試みたものである。子どもの性別に応じた支援の展開への職員の性別および夫婦制・交替制のケア形態の別の影響について考察している。
都市部における住民福祉活動の実態と課題ー東京都葛飾区における住民活動実態調査結果の報告ー	共著	2018年3月	明治学院大学 社会学部 付属研究所年報 第48号 （10ページ）	明治学院大学社会学部付属研究所一般研究プロジェクトとして、葛飾区社会福祉協議会の協力を得て実施した葛飾区の町会・自治会長、民生委員、福祉協力員を対象にした地域福祉活動に関する実態調査の結果について報告したものである。とくに町会・自治会長については、民生委員や福祉協力員とは異なり男性が多いことや、なり手確保のむずかしさとともに、地域の実態把握や活動において存在感を示す結果が得られた。 執筆箇所：pp.21～30 共著者：河合克義、板倉香子

（報告書）				
千葉県君津市における高齢者二人世帯の生活と意識に関する調査報告書	共著	2010年3月	君津市 社会福祉協議会 （236ページ）	平成21年に君津市社会福祉協議会と明治学院大学河合研究室が共同で実施した君津市における高齢者二人世帯の生活と意識に関する実態調査の概要、結果について報告し、それらを分析するとともに、高齢者世帯への支援のあり方について考察を行ったものである。高齢者二人世帯の大部分を占める夫婦世帯の生活実態や社会的ネットワーク状況の男女差などに関するデータを得ている。 執筆箇所：pp.4～116、pp.171～236 共著者：河合克義、板倉香子
千葉県君津市における高齢者二人世帯の生活と意識に関する調査報告書概要版	共著	2010年3月	君津市 社会福祉協議会 （34ページ）	平成21年に君津市社会福祉協議会と明治学院大学河合研究室が共同で実施した君津市における高齢者二人世帯の生活と意識に関する実態調査の概要、結果について掲載した本報告書の概要版として発行したものである。本報告書のなかから、調査の概要、基本集計、およびクロス集計の一部を抜粋して紹介している。 共同執筆につき本人担当部分抽出不可能であるが、調査の概要と基本集計およびクロス集計結果については、集計作業と執筆を本人が担い、考察については全体で協議した。 共著者：河合克義、板倉香子
新潟市中央区におけるひとり暮らし高齢者の生活と意識に関する調査報告書	共著	2011年3月	新潟市中央区 社会福祉協議会、 新潟県立大学 （130ページ）	平成22年に新潟市中央区社会福祉協議会と新潟県立大学が共同で実施し、明治学院大学河合克義研究室が調査協力をした新潟市中央区におけるひとり暮らし高齢者の生活と意識に関する実態調査の概要、結果について報告し、それらを分析するとともに、高齢者世帯への支援のあり方について考察を行ったものである。 共同研究につき本人担当部分抽出不可能であるが、アンケート調査の結果については集計および分析作業と執筆を主に担当し、考察については全体で協議した。 共著者：小澤薫、大谷寿也、渡邉隆幸、河合克義、板倉香子
新潟市中央区ひとり暮らし高齢者の生活と意識に関する調査報告書概要版	共著	2011年3月	新潟市中央区 社会福祉協議会、 新潟県立大学 （43ページ）	平成22年に新潟県新潟市中央区で実施したひとり暮らし高齢者を対象とした社会調査の結果をまとめた報告書の概要版である。1次調査の単純集計を中心とした分析および2次調査として行った訪問面接調査でヒアリングした内容について、類型ごとのプロフィールを交えて考察を行ったものである。 執筆箇所：pp.6-21 共著者：小澤薫、大谷寿也、渡邉隆幸、河合克義、板倉香子
港区におけるひとり暮らし高齢者の生活と意識に関する調査報告書	共著	2012年1月	港区政策創造研究所 （港区企画経営部） （166ページ）	平成23年に東京都港区に居住する実質的ひとり暮らし高齢者を対象に実施した社会調査の概要、結果について報告し、それらを分析するとともに、ひとり暮らし高齢者の生活実態や生活意識をとらえ、行政による支援のあり方について考察を行ったものである。 執筆箇所：pp.38～78、pp.97～141 共著者：港区政策創造研究所

山形県におけるひとり暮らし高齢者の生活と意識に関する調査報告書	共著	2012年3月	山形県民生委員 児童委員協議会 （235ページ）	平成23年に山形県民生委員児童委員協議会と明治学院大学が共同で行った山形県内に居住するひとり暮らし高齢者を対象としたアンケート調査の概要、結果について報告し、それらを分析するとともに、地方都市におけるひとり暮らし高齢者の生活実態と生活意識の実相をとらえ、支援の方向性について考察を行ったものである。 執筆箇所：pp.28～140、pp.176～199 共著者：河合克義、板倉香子
山形県におけるひとり暮らし高齢者の生活と意識に関する調査報告書概要版	共著	2012年3月	山形県民生委員 児童委員協議会 （75ページ）	山形県に居住する実質的ひとり暮らし高齢者を対象に実施した社会調査の結果をまとめた概要版である。性別や年齢、経済状況などの基本的属性、および緊急時の支援者の有無や近所づきあいなど家族・近隣ネットワークの状況や、生活意識と社会参加の状況、自家用車の運転可否と外出の関係性などの現状を捉え、分析した。 執筆箇所：pp.28～51 共著者：河合克義、板倉香子
港区におけるひとり暮らし高齢者の生活と意識に関する調査報告書概要版	共著	2012年6月	港区政策創造研究所 （港区企画経営部） （28ページ）	平成23年に実施した東京都港区に居住する実質的ひとり暮らし高齢者を対象に実施した社会調査の結果をまとめた概要版である。分析の柱として、①買い物についての困りごとと生活支援、②緊急時の支援者と社会的ネットワーク、③外出行動と社会参加、④地区ごとの特徴の4つを置き、分析している。 共同研究につき本人担当部分抽出不可能であるが、基本集計やクロス分析、多変量解析等の集計・分析作業と結果報告について主に本人が担い、結果の考察については研究所所員で共同で行った。 共著者：港区政策創造研究所
港区におけるひとり暮らし高齢者の生活とその課題～平成23年調査データの詳細分析～	共著	2013年3月	港区政策創造研究所 （港区企画経営部） （60ページ）	平成23年に実施した港区における1人暮らし高齢者の生活と意識に関する調査のデータを活用し、過去調査との比較分析や買い物困難者の特徴、ひとり暮らし高齢者の社会的ネットワークの状況や、クラスター分析による生活タイプの分類など、課題別の継続分析の結果についてまとめたものである。とくに緊急時の支援者の有無と社会的ネットワークの脆弱性に着目して分析を行っている。 執筆箇所： pp.3-33 共著者：港区政策創造研究所
港区における75歳以上高齢者を含む2人世帯の生活に関する調査報告書	共著	2013年5月	港区政策創造研究所 （港区企画経営部） （205ページ）	本報告書は、平成24年に東京都港区に居住する75歳以上の高齢者を含む2人世帯を対象に実施した社会調査の概要、結果について報告したものである。夫婦世帯、親子世帯の2つの世帯類型別に分析を行い、2人世帯の生活実態をとらえ、今後の行政による支援のあり方について考察を行ったものである。分析にあたっては、生活実態と生活意識に関する項目を用いた因子分析を実施した上でクラスタ分析を行い、クラスタごとに生活状況の把握を試みている。 執筆箇所：pp.84～126、pp.139～176 共著者：港区政策創造研究所

港区における75歳以上高齢者を含む2人世帯の生活に関する調査報告書－概要版－	共著	2013年5月	港区政策創造研究所 （港区企画経営部） （71ページ）	本報告書は、平成24年に東京都港区に居住する75歳以上の高齢者を含む2人世帯を対象に実施した社会調査の結果をまとめた概要版である。調査結果の基本集計と、夫婦世帯・親子世帯それぞれの結果の分析を掲載している。 執筆箇所：pp.34～71 共著者：港区政策創造研究所
港区における子どもと子育て家庭の生活と意識に関する調査報告書	共著	2014年3月	港区政策創造研究所 （港区企画経営部） （267ページ）	平成25年に東京都港区における子ども・子育てを取り巻く状況を把握するために実施した調査の結果をまとめたものである。調査対象は港区に居住する①第1子が未就学児の保護者②第1子が小学生の保護者および中学2年生の保護者③小学4年生本人・中学2年生本人の3種で、経済的階層や社会的ネットワーク等の視点から分析している。 執筆箇所：第2章pp.13～137 共著者：港区政策創造研究所
港区における子どもと子育て家庭の生活と意識に関する調査報告書概要版	共著	2014年2月	港区政策創造研究所 （港区企画経営部） （21ページ）	平成25年に東京都港区における子ども・子育てを取り巻く状況を把握するために実施した調査の結果の概要をまとめたものである。調査対象は港区に居住する①第1子が未就学児の保護者②第1子が小学生の保護者および中学2年生の保護者③小学4年生本人・中学2年生本人の3種で、経済的階層や社会的ネットワーク等の視点から分析したものを、区民にわかりやすいグラフ等を用いて説明している。 共同執筆により本人担当部分抽出不可能であるが、本報告書の分析データをもとに、結果の集計およびグラフ作成、整理を主に担当し、全体の考察については共同で行った。 共著者：港区政策創造研究所
沖縄県宮古島市におけるひとり暮らし高齢者の生活と意識に関する調査報告書	共著	2014年3月	宮古島市 社会福祉協議会 （164ページ）	平成25年に沖縄県宮古島市において65歳以上のひとり暮らし高齢者の生活実態を把握するために実施した調査の結果をまとめたものである。地域別の特徴や社会的ネットワークの状況などについてSPSSを用いて集計、分析している。 共同研究につき本人担当部分抽出不可能であるが、アンケート調査の結果については集計および分析作業と執筆を主に担当し、考察については全体で協議した。 共著者：河合克義、板倉香子

社会的養護における「家庭的」支援の検討ー児童自立支援施設jからの考察ー　2015年度調査報告書	共著	2016年3月	法政大学岩田美香 （研究代表） （187ページ）	日本学術振興会科学研究助成（基盤研究B一般）の位置づく研究の一環として、平成26年度・27年度に実施したもと職員へのヒアリング調査および全国の児童自立支援施設職員へのアンケート調査の結果を報告したものである。児童自立支援施設における支援の実際を通して、社会的養護における家庭的支援の現状と課題をとらえることを目的としている。 執筆箇所：（単著部分）５章pp.59～78、（共著部分）８章pp.87～132（共著者：板倉香子・宮下裕秋）、７章pp.141～187（共著者：新藤こずえ・板倉香子） ７章については、共同執筆につき本人担当部分抽出不可能であるが、データの２次的整理や分析について主に担当した。 ８章については、共同執筆につき本人担当部分抽出不可能であるが、小舎夫婦制についての意見・社会的養護についての自由意見について整理、分析、考察を担当した。 共著者：岩田美香、栗田克実、梶原敦、福間麻紀、新藤こずえ、板倉香子、宮下裕秋
社会的養護における「家庭的」支援の検討ー児童自立支援施設jからの考察ー 2016年度調査報告書	共著	2017年3月	法政大学岩田美香 （研究代表） （228ページ）	日本学術振興会科学研究助成（基盤研究B一般）の位置づく研究の一環として、平成28年度に実施した全国の児童自立支援施設に入所すしている児童を対象としたアンケート調査および職員へのヒアリング調査の結果を報告したものである。児童自立支援施設における家庭的支援の実際や児童の意見を明らかにすることを目的とし、前年に行った職員調査との比較分析も行った。 執筆箇所：６章　pp.75～93 共著者：岩田美香、栗田克実、新藤こずえ、梶原敦、福間麻紀、板倉香子、村田一昭、松本彩

（その他）				
特集座談会 東京都港区によるひとり暮らし高齢者全数調査と新たな政策の創造	共著	2012年7月	総合社会福祉研究所、福祉のひろば 第148号	平成23年に実施した東京都港区におけるひとり暮らし高齢者の実態調査結果を踏まえ、今後のひとり暮らし高齢者支援方策について、行政の立場、実践者の立場からの意見交換を中心に、関係者で座談会を行ったものの記録である。とくに、調査を受けて港区が独自に拡充した「ふれあい相談員」の取り組みと、行政施策の方向性を議論した記録である。 発言箇所：調査の概要について報告した部分 共著者：河合克義、森信二、板倉香子、築田晴
論点社会福祉　社会的孤立と社会福祉協議会	単著	2013年7月	全国社会福祉協議会、月刊福祉 第96巻第8号 （2ページ）	近年注目されている社会的孤立問題への対応について、市町村社会福祉協議会の活動の実態をもとに、現状と今後の展望について考察し、まとめたものである。 ページ番号：pp.52～53
沖縄県宮古島市におけるひとり暮らし高齢者の生活と意識に関する調査から	単著	2014年6月	総合社会福祉研究所、福祉のひろば 2014年6月号 （8ページ）	平成26年3月に沖縄県宮古島市社会福祉協議会が主催したシンポジウムでの報告内容をまとめたもの。平成25年度に実施した沖縄県宮古島市におけるひとり暮らし高齢者の生活意識に関する調査の結果のうち、生活実態やネットワークに関するデータを挙げ、地域での暮らしを支える視点を述べている。 ページ番号：pp.10～17

教　育　研　究　業　績　書

２０１８年５月１日
氏名　長島　万里子

著書･学術論文などの名称	単　著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概　　要
（学術論文）				
児童期の国際交流活動が相互理解促進に与える影響―日韓「運動遊び」交流アンケート調査結果の考察―	単著	2011年2月	洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学洗足論叢第39号（5ページ）	小学校学習指導要領では、異文化の体験および異文化との交流が国際理解を深める重要な役割を果たすとしている。「異文化との交流」が国際理解意識に与える影響を検証することは、国際化に対応した教育の導入や授業計画にあたって意義があるということを踏まえ、運動遊びを主とする国際交流活動が、児童期における日本及び韓国の子どもの国際理解促進に与える効果を、林原ら（2010）の研究をもとに調査、検証した。（pp.33～37）
保育学生の幼児・学童期における遊び体験に関する調査研究	共著	2011年2月	洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学洗足論叢第39号（10ページ）	学生自身の幼児期・学童期の遊びの体験について、種目による経験の差が見られ、遊びを体験できる環境が整っていることの重要性が指摘された。子どもたちが園生活において様々な遊びを体験し、遊びの中で体を十分に動かし楽しむことができるには、保育学生自身が遊びを体験し、子どもたちに伝承できること、性差を超えて様々な遊びに関わり、子どもたちの興味・関心を高められる指導力と環境を構成する力の必要性が示唆される。実践的な学びによる保育実践力を授業で培うことの必要性も窺える。神蔵幸子・長島万里子・岡本かおり 。共同研究により抽出不可。アンケート作成・実施・集計・結果分析を担当執筆。
運動遊び交流が子どもの国際理解意識に与える影響―国際理解教室（韓国）アンケート調査結果の考察―	単著	2012年2月	洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学洗足論叢第40号（8ページ）	2011年に横浜市公立小学校の第6学年児童108名を対象に調査を実施し、運動遊び交流による国際理解意識の変化の分析を試みたものである。その結果、運動遊びを主とする国際交流活動は子どもの国際理解意識の「外国語」、「異文化体験」、「地球的課題」、「国際交流」4因子すべてに対して効果があった。また先行研究との比較から、条件の差があっても、国際交流活動は「外国語」への関心を高める効果があることも明らかになった。（pp.141～148）
幼児の体力向上に関する基礎研究―S幼稚園児の足蹠測定と生活アンケート結果の関連―	共著	2012年2月	洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学洗足論叢第40号（8ページ）	幼児の体力向上に資する保育内容の提言にむけての基礎資料を得るために、川崎市のS幼稚園児を対象に、足蹠測定と、保護者への生活アンケートを実施し関連を考察した。①土踏まずの形成は年齢が上がるごとに進んでいること、②生活習慣では良い睡眠習慣が形成されていること等が認められたが、多くの生活習慣と土踏まずの形成の関連には顕著な相関は見出せなかった。一方、子どもの運動量の認識に保護者と担任教師間に差が見られたことなど、今後の研究への視点が見出された。神蔵幸子 ・石濱加奈子・長島万里子。共同研究により抽出不可。アンケート作成・実施・集計・結果分析を担当執筆。

学生の保育教材研究能力の育成―保育内容・健康におけるお手玉を題材とした授業実践―	共著	2013年2月	洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学 洗足論叢 第41号 （11ページ）	幼稚園・保育所の子どもの遊びを想定したお手玉作りと遊びの実践による教材研究を実施した。調査の結果、授業で保育教材の実践的な学びを取り入れることが、子どもの発達や保育目標に沿った保育教材を考え作り出す力、遊びを創造する力を高めることが示唆された。また「幼児の運動能力に沿って、遊びを考えているかを大切にしたい」「1つの教材で1つの遊びしかできないことはほとんどない」といった回答がみられるように、子どもの運動能力を考慮し、1つの教材から様々な活動を展開できる保育実践力を育む可能性が指摘できる。長島万里子・岡本かおり・神蔵幸子。 共同研究により抽出不可。アンケート作成・実施・集計・結果分析を担当執筆。
幼児の運動能力向上を促す保育活動の提案：S幼稚園年長児の足蹠・運動能力・生活習慣の関連性から	共著	2014年9月	日本幼少児健康教育学会 運動・健康教育研究 第23巻第1号 （8ページ）	幼稚園児の運動能力向上を促す保育活動を提案することを目的とし、S幼稚園年長児を対象とした足蹠測定、運動能力テスト、および保護者を対象とした生活の様子に関するアンケートを行った。その結果から、土踏まずの形成および運動能力は、日常の運動量や経験が影響してくることが示唆された。しかしながら、土踏まずの有無と生活アンケートとの間には、有意な関連がみられなかったことから、身体活動量の主観的な評価だけでなく、客観的な指標を取り入れ、検討することが課題となった。長島万里子・石濱加奈子・神蔵幸子。 共同研究により抽出不可。アンケート作成・実施・集計・結果分析を担当執筆。
幼児期の発達調査に関する提言―S幼稚園児の土踏まず測定と生活アンケート結果をもとに	共著	2016年3月	洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学 洗足論叢 第44号 （10ページ）	3年間縦断的に集積したS幼稚園における園児の土踏まずの形成状況と保護者へ向けた生活に関するアンケート結果との関連を報告し、発達を促すと考えられる生活習慣、運動習慣を検討することを目的とした。また、この結果より得られた発達調査研究の限界と課題を明確にし、現在広くおこなわれている発達調査に対する課題に言及し、今後の発達調査を的確におこなうための一助とすべく提言を行った。石濱加奈子・長島万里子・神蔵幸子。 共同研究により抽出不可。アンケート作成・実施・集計・結果分析を担当執筆。
保育の質に対する園長の専門性 -保育に関する全国調査から-	共著	2017年3月	大学経営政策研究、東京大学大学院 教育学研究科 大学経営・政策コース 第7号 （14ページ）	東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（Cedep）が実施した「保育・幼児教育施設大規模調査」のうち、就学前教育・保育施設の長（園長）を対象としたアンケートを用いて分析を行った。園に対する主観的な評価に対しては、園長の学歴、園長の専門性 がきわめて大きな影響を与えており、逆に立地 の違いは影響を与えていないことがわかるなど、これまで研究が行われてこなかった面が明らかになった。両角亜希子・長島万里子。 共同研究により抽出不可。アンケート作成・実施・集計・結果分析を担当執筆。

韓国の保育者養成校における教育課程 ―培花女子大学の事例から―	単著	2017年3月	短期高等教育研究 短期大学 コンソーシアム 第7号 （7ページ）	近年、保育者養成校はいかにその教育課程を工夫し、基準に則りつつも他大学と差別化を図り、質の良い保育者を送り出していくかが問われている。本研究では韓国の保育制度や保育者養成の動向を整理した上で、首都ソウルに立地する短期高等教育機関である専門大学、培花女子大学の保育者養成の教育課程を考察した。人形劇やワークショップの授業プログラム、学士学位取得への「専門深化課程」、学校独自の奨学制度等から日本への示唆を得た。 （pp.51～57）
韓国における医師養成課程の効率性分析	共著	2017年12月	Journal of Policy Informatics、 政策情報学会、 第11巻第1号 （9ページ）	韓国におけるメディカルスクールは国際競争力のある医師を養成するために米国式の形態を取り入れたものである。韓国の医師養成課程における3類型（MS型/MC型/並行型）別の効率性について、包絡線分析（DEA）を用いて明らかにした。その結果MC型のほうが効率性のよい教育研究を推進していることが分かったが、全国的にMS型に戻る流れとなっていることなどの現状の分析と、日本への示唆を示した。47-55頁　長島万里子・長島弥史郎。 共同研究により抽出不可。資料翻訳・結果考察部分を担当執筆。
（学会発表）				
留学生の大学教育満足度の日韓比較	単独	2008年5月	日本高等教育学会 第12回大会 長崎大学	外国人留学生を対象に大学教育への満足度を測定する際、二宮（広島大学）等の先行研究から項目を設定し測定した経緯を整理し報告した。
Self-Regulation of Adult Learners: Planning as a Variable That Influences e-Learning	共同	2009年8月	The International Symposium and Conference for Educational Media in School in 2009、Seoul National University	青山学院大学が平成20年度に採択された文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」において、成人学習者を対象とし、学習に与える影響を探った。その結果、自己学習力と学習時間帯との関連が認められたことを報告した。
E-Mentor Development Course	共同	2009年8月	The International Symposium and Conference for Educational Media in School in 2009、Seoul National University	青山学院大学が平成20年度に採択された文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」の推進にあたり、カリキュラム設計の経緯、韓国のeラーニングコースとの比較を報告した。
日韓の留学生交流	単独	2010年3月	CRUMP高等教育ワークショップ、大学経営政策研究センター （東京大学 教育学研究科） 東京大学	東アジアの教育を考えるワークショップにおいて、日本と韓国における留学生交流の歴史を整理し、現状と今後の課題を報告した。
韓国の留学生政策と日本との関係	単独	2010年5月	日本高等教育学会 第13回大会 関西国際大学	イ・ミョンバク政権の「スタディ・コリア」政策により積極的に外国人留学生の受け入れを進める韓国が、日本の留学生受け入れに与える影響を報告した。
保育者養成機関における学生の健康意識 ―健康意識と学習意欲の関連―	単独	2011年5月	日本保育学会 第64回大会 玉川大学	保育者養成機関に在籍する306名の学生へのアンケート調査をもとに、健康意識と学習意欲の関連を分析し報告した。

子どもの身体能力を高める遊びの提案―S幼稚園における保育条件と生活アンケートより―	共同	2012年2月	日本幼少児健康教育学会 第30回記念大会 東京理科大学	S幼稚園における幼児の身体能力向上に資する保育内容の提案にむけての基礎資料を得ることを目的とし、①土踏まずの有無と生活アンケート結果から実態を把握するとともに、②年長児の運動能力測定を実施し、神奈川県平均と比較しながら考察した。その結果を踏まえ、不意な動きを含めた多種多様な動きを引き出す鬼遊びやドッジボールなどを実施することや、相撲などの人が触れ合う遊びや、日常ではあまり行わない動きを伴うハイハイやスキップ競争、お手玉などを使用した遊びなどを実施すること、保育者が一人ひとりの子どもの遊びを観察し、運動量が足りないと思われる子どもの保護者に対して、降園後の外遊びや歩行量の獲得を促すような発信を行うことを園に提案した。
からだの発育に必要な運動遊びと生活スタイルについて　～S幼稚園における土踏まずの有無と体力テストの関連から～	共同	2012年3月1日	日本発育発達学会、 第10回大会、 名古屋学院大学	神奈川県川崎市のS幼稚園に在籍する年長児を対象に、体力テスト(25m走、立ち幅跳び、テニスボール投げ、後方両手両足走、両足連続跳び越し)と土踏まず測定を実施し、その結果から効果的にからだの発育を促す運動遊び提案をすることを目的とした。体力テストのいずれの種目に関しても土踏まずあり群の方が良い傾向が示され、全身の巧みな動きを伴う運動遊びと日常の歩行量を確保することが必要であると考えられた。
保育学生の伝承遊び体験①-伝承遊びの有無とお手玉体験-	共同	2012年5月1日	日本保育学会 第65回大会 東京家政大学	保育学生を対象に、遊び経験における伝承遊びの有無を調査すると共に、「お手玉」に注目した教材研究授業において、製作を含めた「お手玉体験」を設定し、学生の自由記述からお手玉体験の効果について検討した。調査より、お手玉経験はあるものの、多くの学生はお手玉を「昔のもの」と認識し、様々な遊びの案を持っていないことが明らかになった。次世代に遊びを伝承させていくためには、保育者養成校での遊び体験により、保育学生が、お手玉を身近に感じ、性質や楽しさを知ることが有効であることが明らかになった。
保育学生の伝承遊び体験②-お手玉授業の効果-	共同	2012/5/1	日本保育学会 第65回大会 東京家政大学	本研究ではお手玉を養成校の授業のなかで扱うことによる教育効果を検証するため、特別授業（全3回）を通した学生の意識について質問紙調査を実施した（N)=311）。結果、7項目中6項目で、授業前より1・2回目の授業の後、1・2回目の授業の後よりも3回目の授業の後に有意に得点が上がったことから、保育学生が養成校の授業を通してお手玉に対する好感度や親しみやすさを向上させ苦手意識を減少させたことが明らかになった。「映像」や「使用する道具の製作」「体験」を積極的に取り入れることで、より効果的で実りある教育が行われること
韓国の地方自治体における留学生受入れ政策-京畿道の事例から-	単独	2012年6月	日本高等教育学会 第15回大会 東京大学	韓国は留学生受入れの歴史が浅く政府主導の政策がとられてきたため、これまで地方自治体単位の留学生受入れ政策はなかったが、2011-2012年にかけ、全羅北道や京畿道等で地域の実状に合った特色ある留学生受入れ体制が見られつつある。本研究では京畿道の中国人留学生政策ビジョン「中国人の韓国留学のアイコン：京畿道」の内容や成立背景を調査した。少子高齢化が一層深刻になる日本に、親日・知日の高度職業人候補である中国人留学生を地域に根付かせるために、韓国・京畿道の事例から学ぶ点があるということを示した。

保育内容・健康におけるお手玉を題材とした実践的授業の効果―学生の保育教材としてのお手玉に対する意識変化―	共同	2013年3月	日本幼少児健康教育学会 第31回大会 聖セシリア女子短期大学	幼児の体力・運動能力の向上に効果的な遊びがあることを理解する機会を設けるため、日本の伝承遊びの一つであるお手玉を保育内容・健康の授業で取り上げ、そこでの学生の意識変化について調査した。質問紙調査から、実践的授業によって学生のお手玉に対する意識が「難しいもの」から「簡単・身近なもの」へと変化し、お手玉の魅力や遊びの幅の広さにも気づいていったことが明らかになった。他に学生がお手玉を「幼児にも扱いやすいもの」として捉え直したこと、お手玉の大きさ・重さ・中に入れる素材を変化させることで、運動発達的な側面も意識した。
韓国、全羅北道における留学生受入れの取り組み―外国人留学生受入れ･管理能力認証制導入の影響―	単独	2013年7月	日本比較教育学会 第49回大会 上智大学	韓国の地方自治体は地域再生の契機としての留学生政策が行われているが、他の地域に先駆けて地方自治体独自の留学生受入れに取組み始めた「全羅北道」の留学生受入れの取組みを分析し、中央政府の質管理政策から受けた影響を明らかにすることで、韓国の留学生受入れの動向を整理し、日本の地方大学・自治体への示唆を得ようとした。
幼児期の運動実施が高学年児童の生活に及ぼす影響	単独	2014年2月	日本幼少児健康教育学会 第32回大会 淑徳大学	児童を対象に生活アンケートを実施し、幼児期の運動や運動遊びの経験と小学校入学後の健康的な生活の関連を探った。幼児期に運動や運動遊びの経験が多いほど健康的な生活を送っていることが示唆されたことから、幼稚園・保育所において幼児が楽しんで体を動かすことができるような環境を整えることが重要だと考えられることを報告した。
S幼稚園における幼少児の土踏まず測定と生活アンケート結果の分析―年長時の測定で土踏まずが形成されていた子どもの特徴	共同	2016年3月	日本幼少児健康教育学会 第34回大会 青山学院大学	幼児期の土踏まず形成を促す要素を検討する目的で、年少時に土踏まず形成が見られなかった幼児のうち、年長時には土踏まず形成が見られた幼児と年長時にも土踏まず形成が見られなかった幼児の生活アンケート調査結果をマン・ホイットニーのU検定を実施し比較した。その結果「早寝・早起きの規則正しい生活をすること」、「活発な活動を保育の場や家庭で十分におこなうこと」、「母親が幼児とともにスポーツ・運動遊びを積極的におこなうこと」、「家族で運動・スポーツに関する話題を楽しむこと」が土踏まず形成群に有意に多く認められたことから、これらが幼児の体力・運動能力を向上させることにつながる可能性が示唆された。長島万里子・石濱加奈子・神蔵幸子（30-31頁）
メディカルスクー導入後の韓国における医師養成課程の効率性分析	共同	2016年5月	日本比較教育学会 第52回大会 大阪大学	韓国の医師養成課程におけるメディカルスクールの発展過程（導入の背景、経緯、現況、導入後の課題等）を明らかにした。また韓国の医師養成課程における3類型（MS型/MC型/並行型）別に包絡線分析（DEA）を用いてその効率性を調べた、その結果、メディカルスクール（MS型）は旧来の医学部（MC型）や並行型と比較し、効率性の高い医師養成課程である可能性を垣間見ることができた。長島万里子・長島弥史郎。

保育者の遊び環境設定力の教育歴による差 -保育に関する全国調査（5歳児クラス担任編）から-	単独	2017年3月	日本幼少児健康教育学会 第35回大会 日本体育大学	「保育所内外の空間や物的環境、様々な遊具や素材、自然環境や人的環境を生かし、保育の環境を構成していく技術」に着目し、保育者の教育歴によりその力に違いがあるのかどうかを分析した。東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（Cedep）が実施した「保育・幼児教育施設大規模調査」を用いて分析を行った。マンホイットニーのU検定の結果、幼稚園においては遊び環境設定力（p=0.000）は四年制大学卒業者が短期大学卒業者に比べ有意に高い水準を示し、ルール指導力(P=0.000)においては四年制大学卒業者より短期大学・専門学校卒業者の方が有意に高い水準を示していることなどが明らかになった。
保育者養成の高学歴化に関する研究 ー機関側の行動から—	共同	2017年3月	東京大学大学院 教育学研究科附属 発達保育実践政策学センター 2016年度関連 SEEDSプロジェクト 成果報告会、 東京大学	保育者養成を行う四年制大学の教育・カリキュラムなどは短大のそれとどのように異なっており、本当に保育の質の高度化につながっているのかを明らかにする目的で東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（Cedep）SEEDSプロジェクトで取り組んでいる研究（研究代表者：両角亜希子）の当該年度の報告をおこなった。保育者養成校の取得資格、就職状況などを各校のウェブサイトをもとに整理した結果及び機関関係者へのインタビュー調査の結果をカリキュラム、就職面などでの特徴を中心に発表した。両角亜希子・長島万里子
保育者養成の高学歴化に関する研究　ー機関側の行動から—	共同	2017年1月	東京大学大学院 教育学研究科附属 発達保育実践政策学センター 2017年度関連 SEEDSプロジェクト 成果報告会、 東京大学	保育者養成を行う四年制大学の教育・カリキュラムなどは短大のそれとどのように異なっており、本当に保育の質の高度化につながっているのかを明らかにする目的で東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（Cedep）SEEDSプロジェクトで取り組んでいる研究（研究代表者：両角亜希子）の当該年度の報告をおこなった。首都圏を中心に四大4校、短大5校の学科・学部の長、担当教員を対象とし2016年7月～2017年10月に実施したヒアリング調査を分析したものを発表した。保育者の需要がピークアウトすることへの対応、専門性への議論の必要性、保育者の資格のあり方・資質統制方法の必要性などが共通の課題であることを整理した。両角亜希子・長島万里子

（報告書）				
平成20年度社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム委託業務成果報告書「主婦・団塊世代等社会人経験を有する人材に対するオンライン学習支援者育成プログラム」平成20年度報告書	共著	2009年3月	青山学院大学	青山学院大学が平成20年度に採択された文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」の成果報告書である。本人はプログラムのなかでは「教育評価」の授業を担当した。本報告書では事業広報に関する報告部分の執筆を主に担当した。総30頁
平成21 年度「教科書の質・量改善推進事業」～英語教科書改善・充実のための調査研究～報告書	共著	2010年3月	株式会社 三菱総合研究所	中学校の英語の教科書について質・量両面での改善・充実を図ることを目的として実施された文部科学省委託調査報告書。韓国における教育政策を韓国教育科学技術部の資料や韓国教育課程評価院へのインタビューを通して整理し、英語教育の現状と今後を同徳女子大学・ソウル大学教授へのインタビューを通じてまとめた。またソウル市の公立中学校の授業見学と教員インタビューから日本への示唆をまとめた。pp.47～78（総152ページ）
平成20年度社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム委託業務成果報告書「主婦・団塊世代等社会人経験を有する人材に対するオンライン学習支援者育成プログラム」平成21年度報告書	共著	2010年3月	青山学院大学	青山学院大学が平成20年度に採択された文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」の成果報告書である。本人はプログラムでは「教育評価」の授業を担当し、本報告書では事業広報に関する報告部分の執筆を主に担当した。総32ページ
私立高等教育研究所シリーズ No.48「日中韓の留学生政策と日本の私立大学」	共著	2012年9月1日	日本私立大学協会附置 私学高等教育研究所	『韓国の留学生政策の展開と日韓の私立大学』を担当した。韓国の留学生政策の成果と課題を韓国高等教育の状況・留学生送り出し・受入れ状況とともに分析し、日本への示唆を示した。政策の成果として確実に留学生受入れ数を増やしている韓国が、課題である留学生管理の不徹底等に取組むため新たに大胆な対策をとっていることを紹介し、日本とは①英語圏の短期留学・交換留学生受入れ、また②中国人留学生の獲得という点でライバルになるということが示唆されることを報告した。pp.43～74
地域活性化を目指した留学生受入れ・交流・ネットワークの仕組みづくり－課題解決の取組みと社会的変化の横断的分析－ 2010～2012年度トヨタ財団研究助成報告書	共著	2012年12月1日	2010～2012年度 トヨタ財団 研究助成報告書 助成番号D10-R-0470	少子高齢化と産業の空洞化の進行の中で、地方をどう活性化するかを日本にとって重要な課題の一つと位置づけ、「留学生」が地域の活性化や国際化にどのような役割を果たしうるのか、また持続的な留学生受入れ・交流・ネットワーク構築に向けた課題とその克服策について明らかにすることを目的とした研究報告書である（研究代表者：佐藤由利子）。 本人担当部分：第5章（金美姫・長島万里子『第5章 韓国・全羅北道における留学生受入れの取組み』）日本以上に深刻な少子化の影響で、高度人材としての外国人材の受入れと支援が重要視されている韓国における地方の置かれた課題を明らかにしたうえで全羅北道の取組みを報告した。pp.111-117
私学高等教育研究叢書『日韓大学国際化と留学生政策の展開』	共著	2014年10月1日	日本私立大学協会附置 私学高等教育研究所	高等教育の国際化について、日本と韓国を比較し、特に私学の実態に迫ることを目的に行われた調査研究をまとめた報告書。本人担当部分である第4章「韓国の留学生受入れ・送り出し政策」では、2013年までの韓国における留学生受入れ・送り出し数と政策を整理し、少子化や留学生数の伸び悩みへの韓国政府の対応から日本への示唆を示した。

留学生受入れによる地域活性化の取組みと社会統合の課題に関する国際比較研究 研究課題番号24531061 平成24-26 年度科学研究費補助金 基盤研究C研究成果報告書	共著	2015年3月1日	平成24-26 年度 科学研究費補助金 基盤研究C研究 成果報告書、 東京工業大学	留学生受入れによる地域活性化の取組みと社会統合の課題に関する国際比較研究（研究代表者：佐藤由利子）において、第4章「韓国の地方都市における留学生受入れ例と定着支援の取組み」の中で金美姫著「韓国・全羅北道における中国人留学生留学実態分析及び支援計画に関する計画」を朴源花氏と共同翻訳した。
（その他）				
韓国の留学生政策とその変遷	単著	2011年4月	月刊ウェブマガジン 「留学交流」 2011年4月号、 日本学生支援機構 （JASSO） http://www.jasso.go.jp/about/webmagazine201104.html	韓国の留学生送り出し・受け入れ政策の歴史を整理し、現在の韓国の留学生送り出し・受け入れの現状をまとめ、日本への示唆を提言した。平成23年の時点では世界における留学先としての存在感を日韓で比較する際、韓国に比べて日本が優勢であるといえるが、日本と韓国の受入れ留学生数の差は、2000年から2008年の間に約16倍から約2倍へと大幅に縮まっている。韓国がどのようにしてさらなる課題である優秀な留学生の確保や受入れ国家の多様化、受入れ留学生の管理・支援強化を進めていくのかを把握する必要があると提言した。総10ページ
韓国における留学生受入れ－地方大学の現状と政策－	単著	2012年6月	教育学術新聞 第2484号 （2012年6月6日）	留学生の受入れ先として、少子高齢化の進行が深刻な点・雇用機会が不足している点などで不利な立場を克服しようとする韓国・京畿道の取組みを調査し紹介した。物価が安い点・大学内寄宿舎や公的宿舎の整備率が高い点など大都市と比較して有利な面を伸ばし、自治体が主導して地元大学・地元企業と連携することで、地域に合った効果的な留学生受入れ戦略を展開しようとする姿勢を日本の地方大学へのヒントとした。pp.2-12
1回でうかる！保育士過去問題集14年度版	共著	2014年3月	成美堂出版	保育士試験（筆記試験）の平成25年、24年、23年度の3か年分を解説したものである。担当した発達心理学、精神保健及び保育の心理学ではキーワードをあげ、事例を出して解説した。 平成25年度保育の心理学pp.30～37、平成24年度発達心理学pp.66～70、精神保健pp.70～75、平成23年度発達心理学pp.141～145、精神保健pp.145～150
保育士一問一答問題集14年度版	共著	2014年3月	成美堂出版	保育士試験（筆記試験）の問題集として一問一答形式にまとめたものである。担当した「保育の心理学」では子どもの発達や心理学の基本について整理した。 第6章保育の心理学pp.177～210
これだけ覚える！保育士重要項目14年度版	共著	2014年3月	成美堂出版	保育士試験（筆記試験）の9科目から必ず覚えていくべき重要項目についてまとめたものである。担当した「保育の心理学」では発達理論、子ども理解、生活や遊びを通した学びの過程などを整理した。 第6章保育の心理学pp.143～184

教職教養教員採用試験合格問題集	共著	2014年12月	新星出版社	教員採用試験における教職教養対策問題集において、教育心理学分野の執筆を担当した。各地方自治体の教員採用試験問題から教育心理学理論、学習理論、発達、教育評価、心理療法等に関する問題を分析したうえで、模擬問題を作成・解説した。pp.220～261
1回でうかる！保育士過去問題集15年度版	共著	2015年1月	成美堂出版	保育士試験（筆記試験）の平成26年、25年、24年度の3か年分を解説したものである。担当した発達心理学、精神保健（24年度のみ）及び保育の心理学（25・26年度）ではキーワードをあげ、事例を出して解説した。 平成26年度保育の心理学pp.27～33、平成25年度保育の心理学pp.82～89、平成24年度発達心理学pp.118～122、精神保健pp.122～127
保育士一問一答問題集15年度版	共著	2015年1月	成美堂出版	保育士試験（筆記試験）の問題集として一問一答形式にまとめたものである。担当した「保育の心理学」では子どもの発達や心理学の基本について整理した。 第6章保育の心理学pp.177-210
これだけ覚える！保育士重要項目15年度版	共著	2015年1月	成美堂出版	保育士試験（筆記試験）の9科目から必ず覚えていくべき重要項目についてまとめたものである。担当した「保育の心理学」では発達理論、子ども理解、生活や遊びを通した学びの過程などを整理した。 第6章保育の心理学pp.143～184
これだけ覚える！保育士重要項目16年度版	共著	2015年12月	成美堂出版	保育士試験（筆記試験）の9科目から必ず覚えていくべき重要項目についてまとめたものである。担当した「保育の心理学」では発達理論、子ども理解、生活や遊びを通した学びの過程などを16年の試験内容に関連した事項を中心にとりあげた。 第6章保育の心理学pp.143～184
1回でうかる！保育士過去問題集16年度版	共著	2016年1月	成美堂出版	保育士試験（筆記試験）の平成28年zenki、26年、25年度の3か年分を解説したものである。担当した発達心理学、精神保健及び保育の心理学ではキーワードをあげ、事例を出して解説した。 平成27年度保育の心理学pp.27～33、平成26年度保育の心理学pp.77～83、平成25年度保育の心理学pp.132～139
保育士一問一答問題集16年度版	共著	2017年1月	成美堂出版	保育士試験（筆記試験）の問題集として一問一答形式にまとめたものである。担当した「保育の心理学」では16年の試験内容に関連した事項を中心に子どもの発達や心理学の基本について整理した。 第6章保育の心理学pp.177～210

これだけ覚える！保育士重要項目17年度版	共著	2017年12月	成美堂出版	保育士試験（筆記試験）の9科目から必ず覚えていくべき重要項目についてまとめたものである。担当した「保育の心理学」では発達理論、子ども理解、生活や遊びを通した学びの過程などを16年の試験内容に関連した事項を中心にとりあげた。 第1章保育の心理学pp.7～48
1回でうかる！保育士過去問題集17年度版	共著	2017年2月	成美堂出版	保育士試験（筆記試験）の平成28年度前後期試験、27年度試験の3回分を解説したものである。担当した保育の心理学ではキーワードをあげ、事例を出して解説した。 平成28年後期保育の心理学pp.1～7、平成28年度前期保育の心理学pp.53～58、平成27年度保育の心理学pp.127～133
保育士一問一答問題集17年度版	共著	2017年1月	成美堂出版	保育士試験（筆記試験）の問題集として一問一答形式にまとめたものである。担当した「保育の心理学」では17年の試験内容に関連した事項を中心に子どもの発達や心理学の基本について整理した。 第1章保育の心理学pp.11～44
これだけ覚える！保育士重要項目18年度版	共著	2017年12月	成美堂出版	保育士試験（筆記試験）の9科目から必ず覚えていくべき重要項目についてまとめたものである。担当した「保育の心理学」では発達理論、子ども理解、生活や遊びを通した学びの過程などを2018年の試験内容に関連した事項を中心にとりあげた。 第1章保育の心理学pp.7～48
1回でうかる！保育士過去問題集18年度版	共著	2018年2月	成美堂出版	保育士試験（筆記試験）を解説したものである。担当した保育の心理学ではキーワードをあげ、事例を出して解説した。
保育士一問一答問題集18年度版	共著	2017年12月	成美堂出版	保育士試験（筆記試験）の問題集として一問一答形式にまとめたものである。担当した「保育の心理学」では2018年の試験内容に関連した事項を中心に子どもの発達や心理学の基本について整理した。 第1章保育の心理学pp.11～44

（講演）				
韓国の留学生政策の展開と日韓の私立大学	単独	2011年11月1日	第50回公開研究会 日本私立大学協会	めまぐるしく変化する世界情勢のなかで東アジアの地域的な結びつきは、大学教育の世界でも著しく強まってきている。特に、日本の大学と中国・韓国の大学との関係は、留学生や教員の受け入れ・送り出しの双方向の関係として、今後ますます緊密になっていくと考えられる。韓国の留学生政策及び個別大学の取組みを紹介し、日本の私立大学に対しての示唆を示した。
韓国の医学教育における メディカルスクール導入について	共同	平成28年12月	大阪大学大学院医学系研究科　医療経済・経営学寄付講座 東京研究会	韓国におけるメディカルスクールは国際競争力のある医師を養成するために米国式の形態を取り入れたものである。韓国の医師養成課程における3類型（MS型/MC型/並行型）別の効率性について、包絡線分析（DEA）を用いて明らかにした。その結果MC型のほうが効率性のよい教育研究を推進していることが分かったが、全国的にMS型に戻る流れとなっていることなどの現状の分析と、日本への示唆を示した。長島万里子・長島弥史郎。

教　育　研　究　業　績　書

２０１８年５月１日
氏名　金　允貞

著書･学術論文などの名称	単　著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概　　要
（著書）				
『生活事例から始める保育原理』 第15章「保育者の在り方」	共著	2015年4月	青踏社 （182ページ）	子どもと共に在る保育者の在り方について、保育者が子どもと「共に」あるとは何か、保育者が「在る」とはどういうことなのかを解説した。保育者が子どもと共に「在る」ことについて、子どもの前で保育者は常に環境として存在していること、保育者も生活人であることを意識して、保育者自身が自分の保育観や子ども理解について常に見つめなおす大事さを説いた（pp.171～180）
生活事例から始める保育原理 第14章海外の保育事情 2韓国の保育	共著	2016年4月	青踏社 （182ページ）	韓国の保育の現状や保育政策等について、日本と異なる韓国の保育形態や保育の利用状況を概観し、保育所・幼稚園共通の教育・保育の基準を示す「満5歳ヌリ課程」を紹介した。また、「ヌリ課程」や「幼稚園教育課程」、「標準保育課程」の中に韓国の伝統を重視する内容が明記されていることを示し、その実践を紹介した。（pp.166～170）
生活事例から始める保育原理 第3章子ども観・保育観 2幼稚園の創始者フレーベル 5 日本の「幼児教育の父」倉橋惣三	共著	2018年4月	青踏社 （188ページ）	幼稚園の創始者フレーベルと日本の「幼児教育の父」と呼ばれる倉橋惣三の生涯と保育思想を簡単にまとめた。 両者は子どもを一人の人格として尊重すること、子どもの主体性や自発性を重視し遊びを通した教育を提唱した点において共通している。また、幼児は幼児にふさわしい生活をすることが次の成長において重要であるという考えは、おそらく倉橋惣三がフレーベルに影響を受けたと考えられるところである。 （pp.32～33）（pp.37～38）
（学会発表：口頭発表）				
お茶の水女子大学大学院修士論文	単著	2008年3月	お茶の水女子大学 人間文化研究科 （121ページ）	子ども理解における「わからなさ」の意義 －怒りの保育学的考察を通して－ ：保育実践の中で出会った一人の子どもの怒りに着目し、心理学や教育学の捉えとは異なる、保育学の視点からとらえた。保育的関係の中で子どもの怒る行為に保育者が出会ったときには、その行為が子どもの生全体においてどのような意味を持っているのかを考える。それで、なぜ怒るのかその原因を探ったり怒らないように対策を考えたりするより、分からないままにしておくことが、子どもの理解することであると論じた。
人間文化創成科学論叢（紀要論文）	単著	2009年3月	お茶の水女子大学 大学院 人間文化創成科学 研究科	長年特別支援学校で関わってきた自閉症の子どもの「怒り」行為を手がかりに、人間の全体の生からその人を理解する哲学的人間学を参考にして保育における子ども理解について保育実践の例で記述した。 子どもの「怒り」行為を心理学や教育学の捉えとは異なる人間学の立場で捉えることによって、その行為を子どもの成長にとって意味あるものとして捉える可能性を示唆した。 （pp.359～367）

洗足論叢（研究論文）	単著	2016年2月	洗足学園音楽大学 洗足こども短期大学 洗足論叢	M.ブーバーの思想における「確認」概念に着目して、保育者の基本的態度とされている「受容」概念と比較・検討し、子どもの成長に関与する保育者の基本的態度について考察した。その手がかりとして、ロジャーズとブーバーが行った対談を論説し、保育的関係において保育者が子どもの思いを「受容」することと、子どもの存在を「確認」することとを区別して論じた。 (pp.131～142)
洗足論叢（研究論文）	単著	2017年2月	洗足学園音楽大学 洗足こども短期大学 洗足論叢	子ども・子育て支援新制度の施行において「保育」、「教育」、「養護」などの保育の基本用語の概念がより複雑になり、特に乳児保育においては「教育」なしの「養護」のみを保育と捉えられている現状が問題であるという視点のもとに用語の整理を行った。それから、乳児保育においては「養護」と「教育」がより一体的に行われている特徴があり、保育者の「養護」の働きこそ乳児期においては「教育」であることを確認した。 (pp.119～129)
洗足論叢（研究論文）	共著	2018年2月	洗足学園音楽大学 洗足こども短期大学 洗足論叢	保育者養成校初学者における子ども理解 －詩的表現の試み－ 保育者養成校に入学した学生が入学初期に初めて保育の現場に行き子どもと出会った体験を「詩」という形式で表現することによって得られる子ども理解について考察した。子どもとの出会いにおいて言葉にならない体験を「詩」で表現することは、子どもを全体として捉える視点を与え、保育者の専門性にもつながることを確認した。 著者：金允貞・岡本かおり・桃枝智子・柳井郁子 （共同研究により抽出不可、結論と考察に当たる部分を担当）
(学会発表：ポスター発表)				
日本保育学会第64回大会　ポスター発表	単著	2009年5月	一般社団法人 日本保育学会	〔M.ブーバーの教育論から見た保育的関係〕 人と人の対話的関係を重視するM.ブーバーの思想に着目して保育実践の中で子どもと大人が結ぶ保育的関係を解明した。
日本保育学会第65回大会　ポスター発表	単著	2013年3月	一般社団法人 日本保育学会	〔実践における子どもと大人の関係―大人の「包擁」を中心に〕 実践における子どもと大人の関係を教師主導の重視か子どもの自由の重視かとは異なる第3の立場であるM.ブーバーの大人の「包擁」という概念を通して解明した。

(その他教育研究活動など「)				
幼児の教育		2007年7月	フレーベル館	若手研究者からの報告(2)：Tちゃんの変化の中に観察者(部外者)としての私がいた意味
幼児の教育		2009年3月	フレーベル館	韓国の障害児保育について－障害児専門保育施設を中心に－
幼児の教育		2011年秋号	フレーベル館	「子どもに寄り添う」とは　－子どもと大人の具体的な生として－

教　育　研　究　業　績　書

２０１８年５月１日
氏名　鈴木　律子

著書･学術論文などの名称	単　著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概　　要
（著書）				
園訪問レポート　新渡戸文化子ども園	単著	平成27年7月	「芸術教育94号」芸術教育研究所（2ページ）	69年の歴史をもつ幼稚園からこども園となった新渡戸文化子ども園に取材に行き、従来の「幼稚園タイプ」と通常保育の前後の7時から最長19時はんまでの「長時間タイプ」の2つの保育形態が選べるようになり、取材時は6割強が長時間タイプを選んでいた。当園ではキャリアマザーサポートを掲げ、ワーキングマザーを支援している。また、子どもたちが野菜を収穫し、収穫した作物を題材に絵画制作を行い、その素材を給食で食べるという一連の食育の取り組みについて園長先生にインタビューし、誌面にまとめた。（pp.104～105）
絵本を通してのままごと遊び	単著	平成28年7月	「芸術教育95号」芸術教育研究所（3ページ）	1日3度の食事は子どもの成長には欠かせない大切なものである。この食事にまつわるままごと遊びは「料理して食べる」という目的がはっきりしている。そして身近な再現遊びであり、実際の生活体験がベースとなっている。他に絵本を通しても「作ったつもり」、、「食べたつもり」のままごと遊びはできるが、一緒に食べる身近な人がいて、そこに会話がある空間があっての体験こそ、想像力の中で遊べるのではないかと考える。（pp.15～17）
（論文）				
絵本の中における〈庭〉の役割	単著	平成24年3月	白百合女子大学大学院文学研究科修士（文学）請求論文（86ページ）	絵本に描かれる〈庭〉の役割を明らかにすることを試みた。分析に使用した絵本は『ルラルさんのにわ』、『ハーニャの庭で』等27冊である。庭は①他者が侵入してくる場所、②境を越える場所、③庭作りという創作の場所、④時の変化を楽しむ場所の4つに分類された。〈庭〉のもつ意味を整理することで、身近な環境に親しみ自然と触れ合う子どもの心情についての理解を深めることをできることが示唆された。また、絵本に親しむことで得られる子どもの心象風景、イメージ、想像する楽しさの理解を深める一助となる結果となった。
保育彩志望の学生の想像力に関する一考察－〇△□の形を使って－	単著	平成28年8月	「浦和論叢55号」（19ページ）	学生に好きなおもちゃの遊び方について問うと、例えば積木の場合「好きなように積む」、「自由に積む」といった記述が半数を越えていた。完成形の自己イメージがあるのだろうが、他者には解りづらい。そこで、手法を変えてイメージを絵で表現してみる。①〇、△、□の単純な形から想像できるものを絵に描く。②可視化することで自身の想像力がどれぐらいかを確認する。③この課題を保育の現場で活用できないか考えてみる。以上3点から学生の想像力を養うには何が必要か考察した（pp.47～65）

子育て支援イベントにおける子どもの活躍−「なかの〈育〉フェス」を通して−	単著	平成29年3月	「帝京科学大学紀要」第13巻（8ページ）	「なかの〈育〉フェス」は2013年度から年に1回開催されるイベント型の子育て支援である。「子ども・子育て」を軸に行政主導ではない区民による区民の為、手弁当で開催している。本論では「なかの〈育〉フェス」が誕生した背景を踏まえ、数回の実施を通してこれからは地域のつながりに必要な若手の予備軍である子どもの活躍が人間関係においては重要であることから、子どもたちがブースを出展した「あそび村」に焦点を当てて分析し、地域の人に親しみをもつための今後のあり方について考察した。（pp.243〜250）
「なかの育フェス」から考える、子どもへの支援と大人への支援	単著	平成30年3月	「帝京科学大学紀要」第14巻（8ページ）	前号に引き続き、子育て支援イベントの「なかの育フェス」内の「あそび村」に焦点を当て、当日の実施と反省会での意見交換から、日常生活において市民レベルでできる子どもへの支援、大人への支援とは何か考察した。結果、子どもへは「あそび村」においては自分で考えて工夫したり、がんばったりする経験の場を提供すること、大人へは子どもが泣いてぐずっているような場合、母子がその場で孤立を感じないような場づくりをすることが子育て支援の一歩であることが判った。（pp.291〜298）
（学会発表：口頭発表）				
絵本の中に描かれる〈庭〉の役割−『ウエズレーの国』を題材として−	単独	平成26年5月	第17回　絵本学会大会	ポール・フライシュマン作、ケビン・ホークス絵の『ウエズレーの国』を題材に〈庭〉の描写をめぐって児童文学と絵本の違いについて分析した。活字が主な児童文学作品と絵本のいちばんの違いとしては、テキストを読むことによって風景を想像したり、登場人物の心情を読み取ったりするのが児童文学作品であるのに対し、絵本ではそれらの表現について活字だけではなく、絵を見ることで読み取ることができる場合がある。この「絵を読み取る」ことによって絵本メディアならではの「庭」という場所の役割について考察した。
『夏の庭－The Friends－』におけるコスモスとは（仮）	単独	平成28年7月	第55回白百合女子大学児童文化研究センター発表会	湯本香樹実『夏の庭－The Friends－』を題材に、タイトルにもあるように3人の少年と老人が交流する場が「庭」であり作品において核となる場所ではないかと考え、「庭」という場所が作品の中でどのような意味をもつのか考察した。また、「庭」に植えた花はコスモスであり、このコスモスの花のもつ意味からも「庭」という場所について解読を試みた。
（その他教育研究活動など）				
「みんなでつながろう！なかの〈育〉フェス」（口頭発表）	単独	平成27年10月	なかの生涯学習大学	受講対象が55歳〜79歳の中野区民の「なかの生涯学習大学」にて「みんなでつながろう！なかの〈育〉フェス」の題目で、①これからの地域社会においては地縁にとどまらず、多世代とのつながりを日頃からもつことが地域の防犯につながり、災害時には助け合える。②「なかの〈育〉フェス」は子ども・子育てを軸に地域のつながりを作ることが目的の子育て支援イベントであり、卒業生の経歴や趣味を活かして活躍されている事例を紹介。以上2点について口頭発表した。

教　育　研　究　業　績　書

２０１８年５月１日
氏名　髙橋 優子

著書･学術論文などの名称	単　著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概　　要
（著書）				
1『Workで学ぶ保育原理』	共著	2015年3月	わかば社 （142ページ）	保育原理のテキストであり、保育士としてより良い実践を考える力を養うために、テキストには論述式ワークを設け、学生が主体的に学ぶことができるよう工夫を行っている。「Ⅲ保育実践の基本と課題から学ぶ」と題する章の「Unit7様々な保育内容とその方法」を執筆している。3つの保育実践を例に挙げ、それぞれの保育現場で何を大切にしているかによって保育内容とその方法が違うことを解説した。（pp.51～58）佐伯一弥、金瑛珠、鈴木彬子、髙橋優子
（論文）				
1.「保育内容総論」における実践的な学びのプロセス―学内施設の子どもたちを招く「夏祭り」の遊び場づくりを通して―	単著	2018年3月	東京家政大学 研究紀要 第58集(1) （9ページ）	「保育内容総論」の実践的な授業において、どのように学びを獲得したのか、学生へのインタビューから明らかにすると共に「保育内容総論」における実践的学びの意義について考察を行った。その結果、実践的な学びは保育内容の総合性を体験する場になると共に、学生が主体的に学ぶ意欲を育む契機となっていたことが明らかになった。しかし、保育内容の総合性の体験の自覚化に至るには更なる授業内容の工夫等の課題が示唆された。（pp.51～59）
1 実践の場における保育理念の共有 ～A園の保育者の語りを手掛かりとして～	単著	2016年6月	保育の実践と研究 21（1） （10ページ）	保育現場において保育者間で保育理念を共有することは、保育の質の向上のためにも重要なことである。しかし、実際の現場で保育理念を共有し保育実践を行うことは容易なことではない。 そこで、そこでA園の保育者のインタビューを基に保育実践の場で何をきっかけとして、保育理念の共有が行われているのか検討を行った。結果、園内研修などの話し合いの場だけではなく、実践の場においても保育者がお互いの保育実践を見合ったり、共に実践することをきっかけとして保育理念が共有されることを明らかにした。 （pp.54～63）
2 保育理念の共有のプロセス ～保育者の語りを手がかりとして～ （修士論文）	単著	2015年3月	東京家政大学大学院 人間生活学総合研究科 家政学修士号請求論文 （117ページ）	保育現場において園の保育理念を共有することの重要性は明らかだが、実際には困難な現状がある。保育理念の共有化のプロセスは、個々の保育者が保育理念に対する理解を深めるプロセス、更にそれを共有するプロセスの2つの視点から検討が可能であるが、本論文では個々の保育者が保育理念に対する理解を深めるプロセスから保育理念の共有化について明らかにした。

（報告書）				
1 園の保育理念に基づく保育実践の創造の特徴	共著	2017年7月	東京家政大学 生活科学研究所 研究報告 第40集 （2ページ）	保育者が園の保育理念をどのように理解し、保育実践を創造しているのか保育者、園長、主任保育士のインタビューをもとに検討を行った。その結果、保育理念に基づく保育実践を創造する保育者は、保育理念と具体的な子どものエピソードをつなげて語ることを通して保育理念の理解が深まり、園長や主任保育士とも理念と実践の往復的な語りを基に共有していることが明らかとなった。一方で、保育理念の理解と保育実践の間にある困難さとして振り返りが十分でない、保育理念と保育実践をつなげた語りに至らないなど課題が示唆された。（pp.79～80）戸田雅美、髙橋優子
2「保育実習（保育所）事後指導」報告	共著	2010年3月	千葉明徳短期大学 研究紀要 第30号 （15ページ）	本報告では、保育所実習の巡回指導を担当した学生で構成されたグループで行なった二日間の保育実習（保育所）の事後指導における学生の様子を報告した。筆者らが担当したグループで特筆すべきは、本学の専任教員と本学学生支援アシスタントと共同で学生の実習事後指導に当たったことであり、本報告では保育実習の事後指導におけるそれぞれの異なった視点からの報告という形を取りながら議論を進め、学生の学びの姿を検証している。（pp.36～40）小久保圭一郎、髙橋優子
3 授業アシスタントから見た「現代社会論」（2）～授業連携によって創り出された新たな授業～	単著	2009年3月	千葉明徳短期大学 研究紀要 第29号 （15ページ）	平成20年（2008年）発行の「授業アシスタントから見た現代社会論」の続編である。一般教養科目である「現代社会論」の授業内容の報告をうと共に、教員の連携に着目して、9コース、9名の専門性が異なる教員が1つの方向性に向かい、緩やかに連携を取り合いながら、発展的な授業運営を可能にしている要因を明らかにした。（pp.73～87）
4 授業アシスタントから見た「現代社会論」～授業連携によって創り出された新たな授業～	単著	2008年3月	千葉明徳短期大学 研究紀要 第28号 （11ページ）	「現代社会論」は教養基礎科目の一つであり、複数のコース（各論）を設けている。ゼミ形式で学ぶばかりではなく、学年全体による学び（総論）も取り入れ、発展的な授業展開を試みている。その授業内容を紹介すると共に、コース（各論）がバラバラに存在するのではなく、相互に関連し合っていること、学生もその関連性を感じ取っていることを学生のコメントから明らかにした。（pp.65～75）
3 学生理解に関する私の思考に関する一考察 ～2004年度保育者論に携わって～	単著	2006年11月	千葉明徳短期大学 研究紀要 第26号 （16ページ）	「保育者論」の授業における授業内容（教員の意図）と学生の理解のズレに着目し、授業アシスタントという教員でもなく学生でもない立場である筆者の視点から、教員の授業の意図と学生の授業内容に対する理解のズレがなぜ起こったのかについて明らかにした。更にはその学生を見る筆者自身の理解の枠組みについても述べた。（pp.85～100）

（学会発表：口頭発表）				
2 保育理念の理解のプロセスⅠ ～新任保育者の語りから～	単独	2016年5月	日本保育学会 第69回大会	本研究の目的は、新任のB保育者がどのように園の保育理念を理解し、実践しようとしているのかを明らかにすることである。B保育者はA園の保育理念に共感していたにも関わらず、保育を実践しようとする際に葛藤が生じた。B保育者は、同僚に話を聞き、葛藤を抱えつつも、保育行為を変化させたことで、新たな子どもの姿に出会い、実感が伴い保育理念の理解が深まったと考えられる。つまり、保育理念の理解は、言葉上の理解にとどまらず、同僚の話や子どもの姿など保育実践を通して行われることが明らかとなった
（学会発表：ポスター発表）				
1 保育理念の理解のプロセスⅡ ～他園経験者の語りから～	単独	2017年5月	日本保育学会 第70回大会	本研究では、他園を経験し、A園に転職したJ保育者がどのようなプロセスを経て園の保育理念を理解し、保育を実践しようとしているのかを明らかにした。園の考え方に共感して入職したものの、実践する際に葛藤を抱えたJ保育者は、同僚の保育実践に巻き込まれることで、予想とは異なる子どもの姿に出会い、保育理念の理解を深め、結果的に保育行為も変化した。つまり、保育理念の理解は、前勤務園での経験が影響を与えること、話し合いだけではなく、同僚の保育行為に巻き込まれる等実践を通して行われることが明らかとなった。
3　短大における新たな保育者養成システムの可能性（2）	共同	2016年5月	日本保育学会 第69回大会	本研究では、養成期間が短い短期大学が、より専門性の高い保育者を養成するために試みた「研修性制度」の取り組みについて、報告及びに今後のあり方や課題について考察を行った。研修生制度は、卒業後保育現場に勤務する卒業生が月に2回集まり、事例検討をベースとしたディスカッション、他園への見学の他、1年間の終了時には、個々の学びをレポートにまとめる。1年目は成果を残したが、2年目以降、エピソード記述が書けない等の課題が生じた。その課題をどう解決するか、検討を行った。由田新、金瑛珠、片川智子、髙橋優子
（その他教育研究活動など）				
子ども・子育て支援推進調査研究事業（厚生労働省） 保育士のあり方に関する研究 研究報告書部分執筆、研究協力	共同	2016年3月	一般社団法人 全国保育士養成協議会 （276ページ）	保育士資格取得の2つの方法、すなわち指定保育士養成施設において取得する方法と、保育士試験に合格して取得する方法に関して多面的に比較検討を行うとともに、他の国家資格との共通性や相違点について検討を加え、今後の保育士養成課程及びに保育士試験の在り方を検討する素材を提供することを目的として行った調査研究に参加した。具体的には「保育試験実施方式及びに内容に関する検証」にて保育士養成校の学生の試験体験後のグループワークの分析、「教育原理」の試験内容に対する学生コメントの分析を行った。（pp.82～83）